

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本01
■部署名：	安全管理部	■募集人数（人）	3
■課名：			
■テーマ			
途上国の政治や治安情勢の把握方法とJICA安全対策の基本について学び、日本人の安全な海外滞在に必要な取り組みを考える。			
■テーマの概要			
昨今のウクライナ危機や中東地域の地域紛争など世界情勢、国際関係の大きな変化を受け、グローバルサウスとも呼ばれるJICAの国際協力事業実施対象国と日本・JICAとの関係は益々深まってくものと思われる。JICAでは長年開発途上国の人々とともに国際協力事業を展開してきた。その際、多くの関係者を現地に派遣してきており、これら関係者の安全な渡航、滞在を確保し続けることが重要な課題となっている。こうした中、2016年にバングラデシュで起きたダッカテロ事件などの教訓を活かし創設された安全管理部では、途上国の政治・治安情勢の把握と必要な安全対策の検討、実行、強化に取り組んできている。こうしたことから、途上国の政治、治安動向を中心とした様々な国・地域の情勢の理解と日本との関係構築、海外に進出する日本人、日本企業の安全な活動のあり方等に興味を有する者を対象に、上記テーマでインターンシップ・プログラムを提供するもの。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
安全管理部では日々JICAの国際協力事業実施の対象となる国々の政治・治安情勢とそれに関係する国際社会の動きを地域・国のレベルで情報収集し、必要な安全対策を即座に実行できるよう、治安の変化をとらえることを目指した分析も行っている。また様々な国に渡航、滞在する関係者に向けての情報提供や安全対策上の助言、指導も行っている。こうした日々の取り組みを進める上での手法を学ぶ機会を提供し、途上国の政治、治安動向を中心とした様々な国・地域の情勢の理解と日本との関係構築、海外に進出する日本人・日本企業の安全な活動のあり方というテーマでのレポート作成に取り組む。 配属する課は、計画・安全啓発課、安全対策第一課、安全対策第二課のいずれかで、インターン生の研究分野・興味関心等を考慮の上、決定します。			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
日程によっては関係者向け安全研修を見学できる。 https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/20180223_02.html			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までの1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：参加者のニーズに合わせてリーズナブルに対応したい。	可	週3回、1ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語読解力		
望ましい	特定の地域・国の政治、国際紛争、外交、国際関係に関する基礎知識		
望ましい	語学は仏、西、露、アラビア語といった他の国連公用語でも可。相談に応じる。		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本02
■部署名：	広報部	■募集人数（人）	4
■課名：	地球ひろば推進課		
■テーマ 国際理解教育/開発教育支援事業に関する広報業務及びその取り組みサポート			
■テーマの概要 地球ひろば推進課では、これまでJICAが培ってきた国際協力の知識を活かしながら、日本を拠点に日本と開発途上国が抱える様々な課題がどのような繋がりを持っているのか理解し、課題解決への思考を養うべく「国際理解教育/開発教育支援事業」を通して学びの場を提供しています。具体的には、教育委員会、教員、児童生徒など多様な階層の方々を対象に、JICA国内拠点と協働しながら、SDGsの取組、多文化共生、キャリア教育、社会に開かれた教育など学校現場の課題に貢献すべく、次の事業を行っています。 ・教員・教育委員会向け研修プログラムの実施・取りまとめ ・中高生向け国際協力エッセイコンテストの実施 ・学校教育向け教材（映像教材含む）の開発・活用促進 ・JICA地球ひろばでの展示の企画・運営、イベント・セミナーの開催 ・若年層へ向けた国際理解の一歩としてのインスタグラムの運営等 ・国際協力出前講座の実施・取りまとめ インターン生には、上記開発教育支援事業に参加し、地球ひろば展示やイベント及び開発教育教材に関する検討・提案・実施する業務を中心に、その他関連業務のサポートも含め担当いただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ●Instagramの運用 ひろば課で所有するInstagramの投稿コンテンツの考案及び広報部以外のインターン生のInstagram有志メンバーの取りまとめを行って頂きます。 ●JICA地球ひろば展示企画のPR JICA地球ひろばの効果的な集客・PR活動を行っていただきます。 ●開発教育に関する各種イベントの運営補佐、広報 グローバルフェスタ、教員向け研修、国際協力出前講座、エッセイコンテスト表彰式、教員ネットワーク会議、オンラインを含む各種イベント・セミナー等の運営補佐をしていただきます。展示運営はもちろん、写真・動画撮影、取材、編集の上、効果的な広報の検討・提案・実施をお願いします。また各種イベントの内容に関する記事を作成いただきます。現時点で想定しているイベントは以上の通りですが、このほかにもJICAが関連するイベントについて臨機応変に対応頂きます。 ●開発教育庶務 開発教育教材や資料整理等、庶務を含む開発教育支援事業サポート及びその他広報活動をお願いします。			
■参考情報 ・JICA地球ひろばHP https://www.jica.go.jp/hiroba/index.html ・JICA地球ひろば展示 https://www.jica.go.jp/hiroba/information/exhibition/index.html ・JICA地球ひろばInstagramアカウント https://www.instagram.com/jica_gp/ ・JICA開発教育教材 https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/index.html ・国際理解教育／開発教育指導者研修 https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/seminar/recruit.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの3ヶ月間/2026年1月～3月までの3ヶ月間 それぞれで2名		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週3回、3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	日本国内の教育現場における国際理解教育や多文化共生に対する関心		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・活動内容の性質上、受入期間はフルタイムではなく、週3日×3か月間を想定していますが、相談可能です。 ・東京近郊の学校訪問等の可能性があります。（日帰り。学校訪問等の交通費は当課所有のSuica貸出、負担します。） ・活動日・活動時間は可能な限り各種イベントの開催日に活動できるように調整していただけるとありがたいです。なお、イベントは土日祝日や夜の時間帯が含まれる場合もあります。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本03
■部署名：	人事部	■募集人数（人）	1
■課名：	開発協力人材室		
■テーマ			
人材育成事業に関する業務補助・改善提案			
■テーマの概要			
人事部開発協力人材室はJICA内外の国際協力人材の確保・育成の戦略性向上を目指し、主に以下の取り組みを行っています。 （１）JICA内外の国際協力人材確保・育成に向けたビジョン・計画の策定 （２）各アクターに対する人育育成の強化 （３）各種人材採用・確保の戦略性・効率性向上 本ポストでは、上述の取り組みに資する、以下業務に携わって頂く予定です。 1. JICAの国際キャリア総合情報サイト「PARTNER」のイベント運営補助、サイト運営にかかる調査・分析ならびに改善提言 2. 国際協力人材（インターン等）のネットワーキング活性化に向けた取り組み 3. 特定の分野や課題について、国際協力の現場で必要となる知識やスキルの向上を目的とした短期研修「能力強化研修」の運営補助			
■具体的なインターンシップ活動内容			
インターンは、各業務の担当（開発協力人材室スタッフ）の監督のもと、以下活動を行っていただきます。 1. JICAの国際キャリア総合情報サイト「PARTNER」のイベント運営補助、サイト運営にかかる調査・分析ならびに改善提言 ・PARTNERに掲載されている求人票の調査・分析と改善提言（登録が多い分野や平和構築・ジェンダー等の求人票の量や募集掲載時期等） ・グローバルフェスタでのPARTNERイベントの広報、運営補助 2. 国際協力人材（インターン等）のネットワーキング活性化に向けた取り組み JICAインターンシップ・プログラムにおいて、インターン生向けに実施しているネットワーキングイベントの運営補助、企画の提案等 3. 特定の分野や課題について、国際協力の現場で必要となる知識やスキルの向上を目的とした短期研修「能力強化研修」の運営補助 能力強化研修における講師や運営担当職員の支援、資料準備、設営補助等			
■参考情報			
【PARTNER】PARTNERサイト：https://partner.jica.go.jp/home PARTNER LINE：https://lin.ee/0VpzgpZ PARTNER FB：https://www.facebook.com/jicapartner PARTNER X：https://twitter.com/jica_partner ROOKIESサイト：https://partner.jica.go.jp/Contents/Rookies 【JICAインターンシップ・プログラム】https://www.jica.go.jp/about/recruit/intern/index.html 【能力強化研修】https://www.jica.go.jp/recruit/kyokakenshu/top.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
グローバルフェスタ等の各種キャリアイベント、能力強化研修			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの間で2ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：グローバルフェスタの運営補助のため、9月の業務従事は必須	可	週2-3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	国際協力人材育成やキャリア構築支援に関心がある方		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
「■参考情報」に提示したサイトで既存の国際協力人材養成確保事業、および広報事業との違いを把握・理解いただいたうえで、若者ならではの提案・貢献をいただける方を歓迎します！			

2025年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本04
■部署名：	財務部	■募集人数（人）	1
■課名：	財務第一課		
■テーマ			
JICA債の発行に関連する情報収集と対外発信の企画			
■テーマの概要			
JICAが途上国の現場で事業を行うために必要不可欠なもののひとつが、「お金」です。財務第一課は、JICAの有償資金協力事業に必要な資金を安定的、持続的に調達するための財務戦略の策定と実行を担う部署です。具体的には、予算計画の策定や資金調達、資金管理等を行っています。 資金調達の手段の一つに債券発行があります。JICAは、2016年に国内で初めてソーシャルボンド^(*)を発行し、2023年からは、社会課題解決だけでなく気候変動対策等の環境課題解決も対象に資金調達をするサステナビリティボンドを発行しています。 本インターンシップでは、JICAの債券発行に関連する情報の取り纏めや、対外発信策の企画等を行っていただきます。対外発信を通じてJICA事業全般について理解を深めることができるだけでなく、国内の資本市場の動向や、サステナブルファイナンスに関するJICA独自の取組みについて知見を広げることができます。また、JICAの財務構造や有償資金協力の仕組みについても学ぶことができます。 (*) 社会解決課題に貢献する事業に資金を充当する債券			
■具体的なインターンシップ活動内容			
インターンシップでは、各担当とチームを形成し、以下いずれかの活動を行っていただきます。ご関心及び期間等に応じ以下全ての活動に従事いただくことも可能です。 (1) IR（投資家に対して、事業動向や財務状況に関して発信する活動）への同行 ・ JICA債の購入を検討する投資家へのIRの準備、実施補助 (2) 対外発信策の企画・実施 ・ JICA債やJICAの取組みを周知できる対外発信策の企画立案、実施 (3) 金融市場の動向に関する情報収集・分析 その他、インターン生による提案業務も検討可能です。			
■参考情報			
・ JICAのIR資料： https://www.jica.go.jp/about/investor/ir/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
・ 投資家へのIR ・ 投資家とのエンゲージメント企画（もしあれば）			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までの1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2～3回、1ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	国際協力事業への関心		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
一部リモートでの参加も可ですが、可能な範囲で週2回以上は対面で参加されることを推奨します。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本05
■部署名：	企画部	■募集人数（人）	0～2
■課名：	総合企画課（イノベーション・SDGs推進班）		
■テーマ			
JICAにおけるイノベーション推進の企画・運営、SDGsに関連する情報収集・分析・発信			
■テーマの概要			
JICAの事業全体を統括する企画部では、「イノベーション・SDGs推進班」を設け、SDGs達成への貢献・開発インパクトの拡大を目指し、国内外の幅広いパートナーとの連携やイノベーション推進に取り組んでいます。従来の方法や前例にとらわれず、よりよい開発を実現していくために、「共創」「革新」を重要なアクションとしてとらえ、組織内の仕組みづくりや機運醸成、外部連携や広報等に注力しています。 本インターンシップでは、JICAが未来に向かって新しい国際協力のあり方を模索し、国内外の多様なパートナーと共にインパクトを創出していくための仕組みづくりや機運醸成（広報・発信・イベント企画等）に参画いただきます。イノベーション推進やSDGsに関連するJICA内外の動向・取組の情報収集・分析・発信にも携わっていただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について、ご経歴や強みを踏まえ活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に企画運営・情報収集分析・資料作成等を実施いただくことになります。 ・開発インパクト創出に資する多様な関係者との共創促進のための調査分析、企画運営 ・国際協力への外部資金動員に向けた施策検討 ・JICAにおけるイノベーション推進のための機運醸成戦略の策定・運営 ・SDGs、イノベーション推進等に関する情報収集・対外発信業務支援			
■参考情報			
開発のための新しい資金動員に関する有識者会議 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/kaikaku/pagew_000001_11364.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
共創・イノベーションによる実証実験及びコレクティブインパクト創出のためのコミュニティ形成に関する調査業務の一環として実施する、共創促進のための各種プログラムへの同行（時期・条件等によって検討予定） https://www2.jica.go.jp/ja/announce/pdf/20241211_245791_1_02.pdf			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までの3～6ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：応募者のスケジュールも踏まえ、期間内で柔軟に調整	可	週2～3回、3～6ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生・社会人ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	社会人経験、または主体的に研究等の計画を立案し実施した経験		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
2025年度企画部イノベーション・SDGs推進班では、共創による開発インパクト創出を目指す新しいプログラムを開始します。立ち上げフェーズにおいて、主体的に業務を企画・実行し、ご自身のスキルや強みを活かして共に取り組んでいただける方を募集します。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本06
■部署名：	東・中央アジア部	■募集人数（人）	1
■課名：	計画課		
■テーマ			
東・中央アジア地域事業の効果的な広報促進			
■テーマの概要			
東アジア（中国・モンゴル）、中央アジア5か国、コーカサス3か国を所掌する当部地域は、他地域と比較し事業予算規模が小さく、一般的な知名度も高いとは言えない国々が多い。一方、今年度「中央アジア＋日本」対話における初の首脳会合の計画もあり、この機会に広報を充実させ、同地域の地政学的重要性、ODAに馴染みのない国民の目線に立ち同地域に協力する意義、政治・文化的側面などについて広く理解を得る必要がある。とりわけ中長期的な国民の理解を得るためにも、若年層へのアクセスが重要になる。外務省の国際協力70周年における若年層向けイベント・ロゴ、中央アジア対話20周年における漫画『乙嫁語り』作者によるイメージキャラクターなどの広報活動を参考に、JICAとしても若年層へのアクセスにおいてどのような広報が効果的か、また具体的な施策の実施を通じ、業務を補佐する受入インターン生の広報スキル向上、そして同インターン生のJICA及び当地域でODAに取り組む意義への理解を深めることを目的とする。同インターン生には持続性のある当部地域広報活動の骨格づくりの一助となる活動を期待する。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・東・中央アジア地域に関する広報の現状（本部・在外拠点におけるWebサイト、SNS等）の情報集約・周知方法の改善 ・東・中央アジア地域に関するWebサイト情報リンクの整理（NORENシステム登録作業含む） ・東・中央アジア地域に関する画像データ等の整理、活用指針の策定補助 ・東・中央アジア地域における事業や活動（専門家・研修員・関連団体等）の広報取材・記事の執筆・調整・掲載 ・東・中央アジア地域における本邦事業現場（研修、セミナー等）における業務補助 ・東・中央アジア地域における若年層向け広報計画（理解促進ツール、SNS発信）の策定補助・提案・実施			
■参考情報			
・東アジア、中央アジアコーカサスWebサイト https://www.jica.go.jp/Resource/regions/asia/index.html ・中央アジア・コーカサス地域Webサイト https://www.jica.go.jp/overseas/asia/Cooperation/index.html ・在外事務所SNSリスト https://www.jica.go.jp/information/social/#0overseas			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
以下すべて未定 ・記者勉強会（中央アジア、モンゴル）／・中央アジア企業連携セミナー／・モンゴルマッチングイベント、モンゴル招聘（エネルギー、新都市開発）／・民間ITイベント（アルメニア企業）／・地域別研修（中央アジア内視鏡治療、中央アジアエコツーリズム）、国別研修（トルクメニスタン統計整備）、長期研修（モニタリング、評価会、入学時面談等）、GRIPS交流会、JDSレセプション等			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：発信の効果的なタイミングの観点から、上記時期が望ましい		可	週3回以上、1～2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	広報活動への関心・知見（ITスキル・SNS活用経験があると尚可）		
望ましい	中央アジア地域（政経・文化・言語等）への関心・知見		
望ましい	地域を問わず国際協力事業への関心・理解		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： できるだけ対面が望ましい（必要に応じ一部リモート対応は検討可）			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000～4,000円/日		4,000～8,000円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本07
■部署名：	中南米部	■募集人数（人）	2～4
■課名：	南米課		
■テーマ			
南米地域における国別協力量針策定、案件情報整理、民間連携、長期研修員とのネットワーキングに係る業務の補助			
■テーマの概要			
JICAの五つのビジョンの一つは、「共創」です。組織内外の持つ多様な知と資源を活用して業務を進めることが求められます。中南米部南米課は、国際機関、外務省、民間企業、在京大使館等、様々な外部のアクターと接点を持ちながら、下記をはじめとする南米地域での開発協力に取り組んでおります。 （１）JICA国別分析ペーパーの作成支援、南米地域案件の情報整理支援 （２）日本のスタートアップ企業の中南米への事業展開支援を通じた、開発課題への貢献 （３）長期研修員との連携支援 ※応募書類には、（１）～（３）の中で取り組みたい活動に関して記載をお願いします。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
インターンは、各担当に指導を受けながら、以下のような活動を行っていただきます。 （１）JICA国別分析ペーパーの作成支援（対象国：パラグアイ）、南米地域案件の情報整理支援 ・対象国の政治、マクロ経済、産業構造等の情報収集、JICA及び他ドナーの協力状況の情報収集と整理補助 ・JICA内関係部署や、必要に応じて、在外公館、他ドナーやNGO、民間企業との意見交換への参加等 （２）TSUBASA：日本のスタートアップ企業の中南米への事業展開支援を通じた、開発課題への貢献 ・日本側のイノベーションエコシステムとの連携強化のための調査および連携実施 ・各種イベント（TSUBASA2024キックオフイベント準備、宣伝活動、民連部との協働イベント等）のアイデア出し、資料作成、イベント当日のお手伝い （３）長期研修員との連携支援（SDGsグローバルリーダープログラム） ・中南米各国から来日している長期研修員とのネットワーキング会の企画、運営の補助 インターン活動の初めと終わりに、活動内容について中南米部内で発表する機会を設けます。 その他、インターンによる提案業務も検討可能です。			
■参考情報			
※TSUBASAについては以下サイトをご参照ください。 https://tsubasa-jica.com/ ※SDGsグローバルリーダーコースについては下記をご参照ください https://www.jica.go.jp/Resource/regions/america/plaza/sdgs.html （ネットワーキング会の様子） https://www.jica.go.jp/Resource/dsp-chair/english/dsp/course/content/ku57pq00002ma5q9-att/brochure_01_j.pdf （コース紹介パンフレット）			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
実施中研修事業、TSUBASA関連イベント、留学生ネットワーキング会、大使館等関連イベント、海外移住資料館への訪問等			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月/10月～12月の2ヶ月間程度のいずれか		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2～5回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	国際協力に関心がある、JICAをよく知りたい		
望ましい	中南米に関心がある		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
地域部は対象とする地域に係るJICA協力の全体像が把握できる部署であり、また特定の国の複数の開発課題を見ることが出来る部署です。中南米各国の特徴を踏まえた開発の在り方を検討しつつ、JICAの最も大切に根幹となる業務の一部をリアルに体験されたい方、大募集です。 一部リモートでの参加も可ですが、可能な範囲で週1以上は対面で参加されることを推奨します。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本08
■部署名：	中南米部	■募集人数（人）	3
■課名：	中米・カリブ課		
■テーマ 中米・カリブ地域のODA業務補佐			
■テーマの概要 中米・カリブが日々行っている業務の補佐を行い、実際のODA業務について理解を深める。 また、2025年は中米5か国（コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ニカラグア、ホンジュラス）の外交樹立90周年にあたることから、外務省は2025年を日・中米交流年と位置づけており、これに関連したイベントが開催される可能性がある。これらイベントの補佐も行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容 中米・カリブ地域のODA案件（有償、無償、技術協力案件）案件形成や管理、対象国の分析、イベント・広報等の業務補佐を行う。			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等 留学生ネットワーキング会、日・中米交流年イベント等			
■受入時期・期間 2025年8月～10月の3ヶ月程度/2025年10月～12月の3ヶ月程度/2026年1月～3月の3ヶ月程度のいずれか			
上記期間内での調整可 理由：学業等との両立のため時期・期間は応相談		フルタイム以外の活動体系の可否	可
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	中南米地域のODAに関心がある方。スペイン語ができるとなおよい。		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： 対面が望ましい。			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本09
■部署名：	アフリカ部	■募集人数（人）	4
■課名：	計画・TICAD推進課		
■テーマ TICADテーマ別イベント等の運営業務補佐			
■テーマの概要 本年8月にアフリカ開発をテーマとする国際会議であるTICAD9（アフリカ開発会議）が横浜で開催されます（6年ぶりの日本開催になります）。JICAは、TICADにおいて、アフリカでの取組案を発表し、経済・社会・平和の3本柱に沿って、30以上のテーマ別イベントを開催する予定です。国内外の様々な関係者を招いて、JICAがアフリカに対して実施してきた取組を紹介するとともに、開発課題や未来への展望を各イベントで議論していきます。 インターンのみなさまにはJICA職員のアドバイスのもと、ボランティアをまとめながら、テーマ別イベント等の準備・運営等を補佐していただきます。また、この活動を通して、JICAがアフリカでどのような貢献をしているのか知る機会になるとともに、アフリカに必要な開発協力を考えるきっかけにしていきたいと思います。さらには、アフリカ出身の参加者との交流機会を通じて、より深く、より身近にアフリカを知り、感じるができます！是非、一緒に6年ぶりの日本で開催されるTICADを盛り上げていきましょう！			
■具体的なインターンシップ活動内容 インターンのみなさまには、TICADに参加するボランティアをまとめながら、JICA職員と共に、テーマ別イベントの運営補佐をしていただきます。 【TICAD開催前】 ・開催期間中のボランティアの役割分担、シフト、連絡体制等の作成・共有 ・ボランティアに対するブリーフィング準備（必要な資料作成や会議室の予約等） 【TICAD開催中】 ・ボランティアのシフト管理やイベントでの運営補佐 ・当日の活動のSNS等の発信を通じた広報活動 ・アフリカ出身の参加者と交流会運営 【TICAD開催後】 ・ボランティアからのアンケート回収、取りまとめ ・アンケート結果に基づく分析と報告書の作成			
■参考情報 TICAD7サイドイベント https://www.jica.go.jp/africahiroba/ticad/ticad7/index.html 2024年TICAD閣僚会合にあわせた会談やイベント https://www.jica.go.jp/information/press/2024/20240830_21.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 TICAD9テーマ別イベントを含む各種イベント			
■受入時期・期間			
2025年8月1日～9月15日		フルタイム以外の活動体系の可否	
調整不可	理由：TICAD9のテーマ別イベントが8月19日～22日に開催のため。	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	チームマネジメント経験（部活、アルバイト等の経験）		
望ましい	日常会話が可能な英語		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・8月19日～22日の期間はTICADに併せてテーマ別イベントを開催しますので、参加必須です。 ・TICAD開催期間中は、主たる活動場所は横浜です。 ・3年に1回開催されるアフリカをテーマとする国際会議に携わることができる貴重な機会です。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本10
■部署名：	アフリカ部	■募集人数（人）	1
■課名：	アフリカ第二課		
■テーマ アフリカ対象国（ガーナを想定）JCAP策定、内外関係者とのディスカッション等に係る補佐			
■テーマの概要 JICAでは途上国に対する協力を効果的に実施していくにあたり、対象国の開発の現状などを整理・分析し、協力の実施に関する考え方や方向性を論理的に示すための文書として、JICA Country Analysis Paper（JCAP）を策定しています。 机上調査や、関係部署・事務所へのヒアリング等を通じて、当該国の開発の現状及び課題を把握・分析し（根拠に基づいた定量・定性的な情報の分析）、開発援助機関としての経験・教訓の整理・評価を行います。 そして上記のような活動を通じて、当該対象国やJICA事業への理解を深め、課題解決に向けた効果的なアプローチ（協力リソースを効率的かつ効果的に活用するための選択と集中を推進し、戦略的な事業形成の観点から技術協力、有償資金協力及び無償資金協力等を柔軟かつ有機的に組み合わせたプログラム・アプローチ）を一緒に見つけましょう！			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・当該国の現状についての机上調査（JICA図書館、世銀HP等から各指標の入手など）。 ・関係部署／事務所へのヒアリング、入手した情報の取り纏め・分析。 ・JICAアフリカ部・事務所で検討中の内容（JCAP及び協力アプローチ案）に係る内容確認・整理、アイデアのインプット。 ・関係部署／事務所、外部関係者とのディスカッションを通じた内容の更新。 ・JCAP案としての取りまとめ、公開準備。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/cooperation/jcap/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年9月～2026年3月までの1～2か月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：JCAP骨子案が8月頃に策定予定であるため、受入れは9月以降が望ましい	可	週2回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本11
■部署名：	中東・欧州部	■募集人数（人）	4人程度
■課名：	ウクライナ支援室		
■テーマ			
民間企業によるウクライナ支援拡大に向けた取組の企画・実施			
■テーマの概要			
ロシアによるウクライナ侵略から2025年2月で4年目に突入しました。今後のウクライナ情勢を予測することは困難ですが、日本国内ではウクライナ支援に関連する様々な動きがあります。例えば、JICAは日本企業14社のウクライナ向けビジネス展開を支援する「ウクライナ・ビジネス支援事業」を立ち上げた他、ウクライナ避難民計18名にウクライナ-日本の架け橋人材として活躍してもらうことを目指し、就業支援や日本の戦後復興経験を学ぶプログラムを提供してきました。これらの活動は、民間企業・団体・学校や避難民の方々と協力することで、JICAが単独で実施する以上の効果を創出しています。 また、JICAはウクライナ復興支援・共創プラットフォームを立ち上げ、ウクライナの復旧・復興を産官学で取り組むことを目指していますが、同プラットフォームの効果的な活用に課題を抱えています。このプラットフォームを活用し、個々に関心がある関係者のリンケージを高めるような取り組みを目指し、熱意ある仲間を募集します。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. プラットフォームを活用した過去の取り組み分析 2. プラットフォームを活用したアイデア（イベント、セミナー、情報発信等）の検討 3. 2. に関する取り組みの企画・実施 4. 3. に関する取組みのフィードバック及び今後のJICAの取り組みに向けた提言			
■参考情報			
・ウクライナ復興支援・共創プラットフォーム https://www.jica.go.jp/overseas/ukraine/ukraine_co-creation_platform/index.html ・JICA各国における取り組み・ウクライナ https://www.jica.go.jp/ukraine/index.html ・JICAインターンインタビュー https://partner.jica.go.jp/Contents/PartnerColumn?htmlName=column_107			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
・関係団体、企業等への訪問及び面談 ・ウクライナ支援室が主催するセミナー、関連する外部イベント等への参加			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの3ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週3回、3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	ウクライナ人留学生やウクライナに詳しい方を歓迎します（知識がなくとも熱意のある方も歓迎します）		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
・本インターンシップは、明確なゴールが設定されているものでなく、インターンシップが始まるタイミングでゴール及び活動内容を検討いただく必要がある点を了承いただければ幸いです。開始にあたっては、JICAが考える事業全体像やこれまでの経緯について説明させていただきますので、ぜひ一緒に内容を考えていければと思います。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本12
■部署名：	民間連携事業部	■募集人数（人）	2
■課名：	計画・連携企画課		
■テーマ			
JICA民間連携事業部での就業体験：「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての広報業務補佐			
■テーマの概要			
日本の民間企業は、様々な分野で優れた製品・技術・サービスを有しており、開発途上国の社会的・経済的課題の解決に貢献する可能性を持っています。JICA民間連携事業部では「中小企業・SDGsビジネス支援事業」（※1：参考情報欄のリンクをご確認ください）を通じて、企業の開発途上国におけるビジネスづくりを支援しており、今後、更にこうしたビジネスの成功例を積み上げ、拡大していきたいと考えています。 このインターンシップでは、より多くの企業に「中小企業・SDGsビジネス支援事業」をご活用頂くため、本事業を活用した企業の成功事例について、JICAウェブサイトに掲載する広報記事作成を行って頂きます。インタビューを通じて企業の想いに触れながら、ビジネスによる開発課題の解決について理解を深めて頂ければと考えています。また、その他の企業連携に関連する業務の中から、インターン生の興味・ご関心に応じて、活動を追加いただくことも可能です。 「民間連携」、「価値共創」、「SDGsへの貢献」などに関心を持つ方からのご応募を歓迎致します。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
下記のうち（1）の活動を必須とし、それ以外の活動は参加者のご関心に応じて適宜選択して頂くことを想定しています。 （1）「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についてのグッドプラクティス記事作成：本事業に参画頂いた企業の成功事例を掲載するページ（※2）の記事作成を企業取材しつつ行う。その他に民間連携事業Facebook運営、メディア取材対応、メールマガジン発行、セミナー開催等の広報業務の補助を行う。 （2）「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての好事例リストの取りまとめ：ビジネス化の成功事例や、ジェンダー、防災、外国人材環流等の観点からの好事例を抽出・リスト化する。 （3）民間連携事業部の内部広報素材作成：各課業務の内容や魅力について、JICA内向け広報（形式自由）を作成する。 （4）他機関との連携業務補佐：他機関との連携関連の打ち合わせに同席し、準備や議事録作成を行う。			
■参考情報			
（※1）中小企業・SDGsビジネス支援事業：https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/activities/index.html （※2）グッドプラクティス：https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/case/release/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
（夏の実施のみ）第9回アフリカ開発会議（TICAD 9）サイドイベント運営補助			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの2ヶ月間／2026年1月～3月までの2ヶ月間のいずれか		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2～3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本13
■部署名：	ガバナンス・平和構築部	■募集人数（人）	2
■課名：	平和構築室		
■テーマ			
難民支援、地雷・不発弾対策支援に関連する各種イベントの準備・運営支援			
■テーマの概要			
平和構築室では、2025年に8月のアフリカ開発会議（TICAD9）等複数の公開イベントを予定している。既に確定しているものはTICAD9におけるアフリカの難民対応をテーマにしたサイドイベント、TICAD9におけるアフリカの地雷・不発弾対策をテーマにしたサイドイベントの2つ。この他、これらイベントに関連して海外から招へいする行政官やアフリカ地域機構等のパートナーとともに、日本国内で小規模なイベント等を実施する可能性がある。 本インターンシッププログラムでは、これら各種イベントの準備や訪日関係者の対応、イベント当日の運営への関与を通じ、主にアフリカの難民課題や地雷・不発弾の現状や課題について理解を深め、開発機関であるJICAがどのようなパートナーと協働し、課題解決に当たっているか理解を促進することを主眼とする。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
以下の各種イベントや研修の企画、広報、招へい者受入、当日運営支援、事後広報や報告書作成の支援。 ・TICAD9におけるアフリカの難民課題に係るサイドイベント（8月20日予定） ・TICAD9におけるアフリカの地雷・不発弾対策に係るサイドイベント（8月21日予定） ・TICAD9期間を通じたアフリカの平和に向けたメッセージの発信イベント（若者の参加に繋がる企画を検討中） ・マリ地方行政官向け国別研修への一部同行（8月下旬） ・ウクライナ地雷対策国際会議に向けた企画支援（会議は秋を予定、夏はその準備）			
■参考情報			
JICAの難民支援： https://www.jica.go.jp/activities/issues/peace/_icsFiles/afieldfile/2023/12/19/panfJPtan_1.pdf JICAの地雷・不発弾対策支援： https://www.jica.go.jp/activities/issues/peace/_icsFiles/afieldfile/2024/11/15/MApanfJP.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
TICAD9（横浜）、マリ関係の講義・視察（東京都内を想定）			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月末までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
調整不可	理由：8月のイベント対応が主目的のため	可	週3-4回、1-2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	基本的な英語能力（会話、読解、作文）を有していること		
望ましい	イベントテーマ及び平和構築分野についての基礎知識を有していること		
望ましい	イベント運営や海外からの渡航者受入対応の経験を有すること		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本14
■部署名：	人間開発部	■募集人数（人）	1～2
■課名：	基礎教育グループ基礎教育第一チーム		
■テーマ			
基礎教育グループが担当する業務全般の実施補佐（調査分析、広報発信、提言等）			
■テーマの概要			
基礎教育グループでは、全ての子どもたちに質の高い教育を提供するため、技術協力を中心に途上国で様々なプロジェクトを実施しています。案件担当者は、相手国政府を始め様々な関係者と協力・協議しながら、案件の形成や実施監理、また各国の長期的な視点での教育協力戦略の策定などを行っています。インターンの方には、そうした案件担当の活動を体験していただくとともに、ご関心ある国やテーマに関する情報収集、調査分析等を通じて、教育分野への学びを深めていただくことを想定しています。 また、当グループでは、より良い教育支援を提供するため、教育協力で携わる様々な関係者がつながる共創・革新の場である教育協力プラットフォームの運営や教育協力ウィークの開催、人材育成を目的とした能力強化研修の実施など、各国でのプロジェクト以外の事業も幅広く行っており、そうした取り組みにも携わっていただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
以下の項目は基礎教育グループが担当する業務の一部であり、カッコ内は現在想定しているインターンの方の活動です。実際の活動内容は、活動時期やご自身の関心事項も踏まえ、担当職員と相談しながら決定します。 ①各国での基礎教育プロジェクトに係る活動（実施国や案件テーマに係る調査分析・資料作成、関係者との定例会への参加） ②教育協力プラットフォームの運営活動（HPの充実化に向けた提言、HPに掲載する資料の作成、キャリア情報の発信） ③教育協力ウィークの運営補佐（当日の運営サポート、各セッション要約の作成） ④能力強化研修の運営補佐（登壇者との打ち合わせ、キャリアセッションの企画・実施） ⑤課題別 / 国別研修に関する活動（研修参加、研修員へのインタビューと広報記事の作成） ⑥企業連携の推進に関する活動 ⑦教育ナレッジマネジメントネットワークの運営に関する活動 等			
■参考情報			
・教育分野におけるJICAの主要な取り組み（クラスター事業戦略） https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/index.html ・教育協力プラットフォームHP https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/1561662_14951.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
インターン期間中に実施している基礎教育グループ所管事業の研修やイベント等			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までの1～3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：上記期間内にイベントや研修が集中しているため。	可	週2～3日
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint等）の基本操作		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
活動期間や活動体系は、インターン生の滞在拠点や学業・業務の都合等に合わせて柔軟に対応します。 教育分野の専門性は問いません。基礎教育に対する熱い想い、活動への高い意欲を持っている方をお待ちしています！			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本15
■部署名：	人間開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	基礎教育グループ基礎教育第一チーム		
■テーマ			
算数アプリの活用状況フォローを中心とした、算数学び隊のフォローアップ活動			
■テーマの概要			
JICAは2024年9月にJICA算数アプリ「JICAL（ジャイカル）」をリリースしました。途上国の子どもたちの、四則演算に絞った基礎計算力定着を支援することを目的としてタブレット端末等で自主学習できるアプリケーションとして開発したツールです。このアプリでより多くの国の子ども達の基礎計算力の向上に貢献することを狙いとしています。2025年2月現在、技術協力プロジェクトと連携してパプアニューギニアでの試行を行っており、その他、ザンビアやネパール、大洋州の国々での活用に向けて準備を進めています。スペイン語版も2025年3月に完成予定です。今後は算数学び隊として活動するJICA海外協力隊に広く活用いただき、アプリの有効性の更なる活用に向けた知見を蓄積していくことを考えています。また、算数学び隊が活用できるツールとして学力測定テスト、フラッシュカードも開発しており、算数アプリを中心に、こういった算数学び隊のツール活用状況のフォローアップや情報収集に携わっていただくことを想定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
以下の項目は、現在想定している活動案です。実際の活動内容は、活動時期やご自身の経験や関心事項を踏まえ、担当職員と相談しながら具体化・決定します。 ①JICALの理解（実際に触れていただき、理解を深めていただきます） ②JICAL英語版をこれまでに試行活用した地域（パプアニューギニア、ザンビア、ネパール、大洋州）の成果や教訓等の取りまとめ ③JICALスペイン語版の活用状況のフォローアップ（スペイン語圏で技術協力プロジェクトと連動して活用開始予定） ④JICAL活用に関わる関係者との打合せやヒアリング （国によって、技術協力プロジェクトのコンサルタントや専門家がJICAL活用のサポートをしており、こういった関係者との情報交換等を想定しています。また、軽微な機能改善等が生じる場合は、アプリ開発会社とのコミュニケーションも発生します） ⑤上記の活動を通じてJICALの魅力や実績を取りまとめた内容の広報発信 ※JICAL以外のツールについても、同様の活動を依頼する可能性があります			
■参考情報			
・教育分野におけるJICAの主要な取り組み（クラスター事業戦略） https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
インターン期間中に実施している基礎教育グループ所管事業の研修やイベント等			
■受入時期・期間			
2025年9月～12月までの1～3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：柔軟に調整可能	可	週2～3日
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	JICA海外協力隊経験（特に算数学び隊としての活動経験）		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
本プログラムでは、算数学び隊として活動した帰国隊員に応募いただき、次の進路決定までの期間にご自身の経験を踏まえて算数学び隊の活動のフォローアップを行っていただくことを想定しております。JICA本部から見た協力隊の活動や、教育協力の全体像を学ぶ良い機会となると考えております。多くの方からのご応募をお待ちしております。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本16
■部署名：	人間開発部	■募集人数（人）	2
■課名：	基礎教育グループ基礎教育第二チーム		
■テーマ			
アフリカにおける基礎教育分野の国際協力			
■テーマの概要			
学習貧困を解消し、すべての子どもに対して質の高い教育を継続的に提供するには、不就学や学習成果の改善など、子どもを取り巻く様々な教育課題の解決に包括的に取り組む必要があります。サブサハラアフリカ地域は、学習貧困が最も深刻です。JICAは、基礎教育分野における学習貧困の解消、教育課題の解決のため様々なアプローチによるプロジェクトを実施しています。その一つに「コミュニティ協働型教育改善」アプローチ（通称、「みんなの学校」プロジェクト）があります。教育開発の基盤として学校運営委員会を機能化させるため、教育行政や学校関係者に委員の民主的な選出、参加型計画・運営、ネットワーク構築の3分野について能力強化等を行っています。そして、確立された「機能する学校運営委員会」の活動により、さまざまな教育課題の解決を推進しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップでは、以下の2つのイベント・セミナーの運営補助を行っていただきます。活動内容はインターンの方が決まり次第具体化・決定します。 ●予定しているイベント（いずれも開催予定時期は2025年8月中下旬） - 第9回アフリカ開発会議（TICAD9）サイドイベント 「みんなの学校」プロジェクトに関連する経験共有セミナー ●主な活動内容 各イベント・セミナーの運営補佐として、事前の資料準備、広報の実施、当日の会場・資料準備、写真・動画撮影、事後の効果的な広報の実施など臨機応変にご対応をいただきます。これらの業務を実施していただきながら、関連するイベントや視察への参加も頂けます。			
■参考情報			
JICAグローバル・アジェンダ（教育） https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/index.html 第9回アフリカ開発会議 https://www.mofa.go.jp/mofaj/af/af1/pagew_000001_00002.html みんなの学校プロジェクト https://www.jica.go.jp/information/topics/2022/20221118_01.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
・第9回アフリカ開発会議（TICAD9）、「みんなの学校」に関する経験共有セミナー ・上記イベントに関連する各種イベント、視察への同行			
■受入時期・期間			
2025年8月の3週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：イベント開催時期が決定しているため	不可	週5回、3週間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	アフリカにおける基礎教育分野の国際協力に関心のある方		
必須	PCスキル（Word・Excel・Power Point、オンライン会議等）		
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（目安：TOEIC550点以上）		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
・活動内容の性質上、受入期間はフルタイムを想定していますが、相談可能です。 ・東京近郊のイベント・セミナー会場での活動も含まれます。（日帰り/イベント等の交通費は当部所有のPASM0を貸出し、負担します） ・勤務日・勤務時間は可能な限り各イベント・セミナーの開催日前から当日に勤務いただけるよう調整いただけるとありがたいです。イベントは平日ですが、夜の時間帯が含まれる可能性もあります。 アフリカにおける基礎教育分野の国際協力に関心のある方大歓迎です！			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本17
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第一グループ第一チーム		
■テーマ 農業・農村開発協力におけるフードバリューチェーンに関する情報収集、整理及び分析			
■テーマの概要 現在、貧困・飢餓人口の約80%が農村部で生活、貧困層の63%が農業に従事し、その数は全世界で5億人にも上ります。開発途上国の農業従事者の多くは市場ニーズに基づいた営農が実践できておらず、農産物の買い取り価格が低く貧困から抜け出せないという問題を抱えています。これらの課題解決に向けて、食を基軸とする生産から加工、流通、消費に至る各段階において付加価値を創出してつなぐことが重要になると考えられています。 現在、JICAでは農村部住民の生計向上及び安定した食料の供給を目標に包摂的且つ持続可能なフードバリューチェーン（FVC）の構築に取り組んでいます。 本インターンシップ・プログラムでは、農業・農村開発分野、特にフードバリューチェーンに関連する事項に取り組んでいただくことを予定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について、担当職員と活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成等を担当いただくことを想定しています。 ・JICAの農業・農村開発分野、特にフードバリューチェーンに関連する事業の実績取りまとめ、課題や教訓分析、結果の発信 ・フードバリューチェーンに関連する新規事業の形成に向けた情報収集、課題別研修で用いる教材の作成補助 ・他ドナーが実施するフードバリューチェーンに関連した事業の実績取りまとめと分析			
■参考情報 ・JICAグローバル・アジェンダ（農業・農村開発） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html ・【農業・農村開発】バリューチェーンの変化に対応した農業支援のあり方 https://www.youtube.com/watch?v=4t0yl7XBQ_0			
■参加(同行)可能な行事・視察等 農業・農村開発分野の各種会議や課題別研修へのオブザーバー参加、各種勉強会、在外事務所や専門家へのヒアリング調査（オンラインを想定）			
■受入時期・期間			
2025年11月～2026年3月までの間で1ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2回、2ヶ月間等
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint等）の基本操作		
望ましい	英語の論文や報告書等を読むのに支障がないレベルの英語力		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本18
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第一グループ第二チーム		
■テーマ 畜産・家畜衛生分野における国際協力に関する情報収集と支援活動			
■テーマの概要 経済成長の著しいアジアの新興国をはじめ、人口増加の続くアフリカにおいても、今後、畜産経営の集約化、家畜飼育頭数と密度の増加が進み、家畜疾病の発生リスクの増大が見込まれ、これに伴い畜産・家畜衛生に係る我が国の技術協力へのニーズが一層高まることが予測されています。こうした中で、JICAは、畜産振興を通じた小規模農家の生計向上及び経済的発展に資するため、家畜の生産性向上、畜産物の高付加価値化、畜産物の流通改善等を通じたバリューチェーン構築を図ると共に、人と家畜、環境の健康を推進する「One Health」の理念を踏まえた家畜衛生の強化に取り組んでいます。 本インターンシップでは、これまでの畜産・家畜衛生分野における技術協力をレビューするとともに、現在実施中の事業の推進に協力いただくことを予定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について、担当職員と活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成やセミナーの開催等を担当いただくことになります。 ・JICAの畜産・家畜衛生分野協力事業の実績取りまとめと課題・教訓分析、発信			
■参考情報 ・JICAグローバル・アジェンダ（農業・農村開発） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 JICA畜産・家畜衛生分野の各種会議・課題別研修へのオブザーバ参加、各種勉強会、在外事務所や専門家へのヒアリング調査			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までの2ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週3回
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	理系の学部学科（畜産学、獣医学、農業・農村開発分野を専攻）に在籍、または卒業していること		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☐ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・本インターンシップを通して、畜産・家畜衛生分野の国際協力に関する知見を深めたり、会議等に参加する経験を得られます。 ・畜産・家畜衛生分野に係る知識を必須とはしませんが、円滑な活動の実施のために、畜産、獣医、農業・農村開発分野を大学にて専攻していることが望ましいです。 ・インターンシップ活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助も含む可能性があります。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本19
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第一グループ第二チーム		
■テーマ			
水産分野における国際協力に関する情報収集と支援活動			
■テーマの概要			
水産業（漁業及び養殖業）で働く人々は世界でおよそ5,830万人に上ると推定されます。途上国にとって水産物は重要な外貨獲得源でもあり、水産資源の有効活用が期待されています。また、魚は漁村地域において比較的安価に入手できる動物タンパク源でもあり、水産物の振興は栄養価の高い食料の安定供給にも貢献します。 一方、近年は、気候変動に伴う海洋環境・沿岸生態系の変化に加え、乱獲による水産資源の減少により、その約3割が持続不可能な利用と評価されており、IUU 漁業対策を含む資源管理の取組みが求められています。また、増加する水産物需要への対応として、水産養殖の振興が期待されています。 そこで、JICAは、漁村の貧困削減と水産食料の安定供給のため、水産資源の適切な管理・活用による水産業の振興に取り組んでいます。本インターンシップでは、これまでの水産分野における技術協力をレビューするとともに、現在実施中の事業の推進に協力いただくことを予定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について、担当職員と活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成などを担当いただくことになります。 ・JICAの水産分野協力事業の実績取りまとめと課題・教訓分析、発信			
■参考情報			
・JICAグローバル・アジェンダ（農業・農村開発） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
JICA水産分野の各種会議・課題別研修へのオブザーバ参加、各種勉強会、在外事務所や専門家へのヒアリング調査			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までの2ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	可	週3回
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	理系の学部学科に在籍、または卒業していること（水産、農業・農村開発分野を専攻）		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
・本インターンシップを通して、水産分野の国際協力に関する知見を深めたり、会議等に参加する経験を得られます。 ・水産分野に係る知識を必須とはしませんが、円滑な活動の実施のために、水産、農業・農村開発分野を大学にて専攻していることが望ましいです。 ・インターンシップ活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助も含む可能性があります。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本20
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	2
■課名：	農業・農村開発第一グループ第三チーム		
■テーマ			
小規模農家向け市場志向型農業振興（SHEPアプローチ）			
■テーマの概要			
JICAは、農作物を「作ってから売り先を探す → 売れるものを作る」へと農家の行動変容を促し、ビジネスとして儲かる農業の実践を促進する「SHEP（市場志向型農業振興）アプローチ」を活用した農業普及事業をアフリカ、アジア、中南米、中東の各地域で実施し、併せてその普及を担うSHEP人材の育成を進めています。また、同アプローチを他ドナー、民間企業等の幅広いアクターに活用してもらうために、効果の検証と発信、事業の実践を通じて得られる知見・教訓の蓄積と共有等のナレッジマネジメントに取り組んでいます。2019年に開催されたTICAD7において、SHEPアプローチを活用した農業普及を少なくとも100万人の小規模農家に届け、より良い暮らしの実現を目指す「SHEP100万人宣言」をアフリカ各国関係者、国際農業開発基金（IFAD）、民間企業関係者と共に表明しました。以降、SHEPの着実な実施とSHEP広域展開のための様々な活動を進めています。2025年度上半期には、TICAD9にてサイドイベントを実施予定です。2025年度下半期には、パートナー国の行政官を対象にした課題別研修やSHEP関連プロジェクトの専門家を一堂に集めたSHEP専門家情報共有勉強会等を企画しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップ・プログラムでは、担当職員と業務の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成・セミナーの準備等を実施いただくことになります。現在想定している内容は以下の通りとなります。 ・SHEP課題別研修の実施支援 ・SHEP専門家情報共有・勉強会の実施支援 ・TICAD9サイドイベント実施補佐（2025年度上半期） ・国際ワークショップ運営補佐（2025年度下半期） ・SHEP活用案件の分析、過去開催された研修のまとめ作業等 ・SHEPアプローチの広報に係るレビュー・提案、HPの更新、リーフレット作成など			
■参考情報			
・JICA HP「SHEP（市場志向型農業振興）アプローチ」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/shep/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
SHEP課題別研修（国内出張の可能性あり）、SHEP専門家情報・共有勉強会			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの内1ヶ月間（一名）/2026年1月～3月までの内1ヶ月間（一名）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週3回、2ヶ月間/週間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農学または農業経済学に関する分野を専攻する者		
望ましい	開発学に関する分野を専攻する者		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
・本インターンシップを通して、農業普及分野の国際協力に関する知見を深める経験を得られます。 ・インターンシップ活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助も含む可能性があります。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本21
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第二グループ第四チーム		
■テーマ			
アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）に関する情報収集活動			
■テーマの概要			
2008年TICAD IVにおいてアフリカでのコメ生産倍増を目指す国際的なイニシアティブ「アフリカ稲作振興のための共同体（Coalition for African Rice Development: CARD）」を立ち上げた。JICAに加え、アフリカの機関、国際機関等が参画し2018年まで10年間にわたりアフリカでの稲作振興に取り組んだ結果、初期の目標（1,400万t⇒2018年2,800万t）を達成した。しかし、アフリカでの著しいコメ需要の伸長及び食料安全保障の観点から、更なる倍増（2,800万t⇒2030年5,600万t）を目指し、2019年からCARDフェーズ2を開始した。現在は、サブサハラアフリカの計32カ国及び地域経済共同体（Regional Economic Communities：RECs）を対象にコメ生産の強化に向けてRICEアプローチ（Resilience, Industrialization, Competitiveness, Empowerment）の推進、他機関との連携強化、戦略的な人材育成（現地、日本）、本邦民間企業の進出促進支援などに取り組んでいる。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
2025年度10月末にマダガスカルにおいてCARD加盟各国及びRECs、運営委員会のメンバーである関連開発機関（世界銀行、アフリカ開発銀行、FAO等）が一堂に会するCARD総会が実施予定です。 本インターンシップでは、CARD総会に向けたCARD関連の情報収集の補佐業務を行って頂く想定です。具体的には以下のような項目を検討しており、インターンシップ候補者の希望・関心に沿って最終的に決定します。 ・女性や若者（※）に関連するアフリカにおける稲作関連事業の優良事例の情報収集 ・カンパRAADP宣言において「女性」や「若者」がキーワードとなっています。 ・アフリカにおける稲作分野での気候変動対策（適応、緩和）に資する具体的な事例収集 ・CARDにおけるドナーによる資金動員状況の分析			
■参考情報			
・アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）：https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html ・CARDホームページ：https://riceforafrica.net/ ・カンパRAADP宣言：https://au.int/en/pressreleases/20250113/african-union-adopts-ten-year-strategy-and-action-plan-transform-africas-agri			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
・JICA筑波での研修等CARD関連で同行可能なものがあれば適宜お声がけします。 ・TICAD9（8月20日～22日。横浜で開催。）でのCARD関連のサイドイベントを開催する場合、同行可能です。			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	開発途上国における農業開発に高い関心を有すること		
望ましい	稲作にかかる基礎的な知識		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本22
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第二グループ第四チーム		
■テーマ			
気候変動適応策としての参加型灌漑管理に関する各国の情報収集及び分析			
■テーマの概要			
農業・農村は私たちが生きていくために必要な食料生産にとって不可欠な役割を有するとともに、雨水を一時的に貯留し、洪水や土砂崩れを防いだり、多様な生き物を育み、また、農業やコミュニティが維持される農村は、文化の伝承や教育の場など、私たちの生活に活力や潤いを与えるなど、多面的な役割を果たしています。 近年、気候変動によって洪水や干ばつなど自然災害が頻発し、農林水産の生産の場だけでなく、生活の基盤も揺るがす事態が発生しており、気象の変化がこれら農村での生産・生活に密接に関係している中で、気候変動に対してどのように適切に対処していくべきか検討することは重要かつ喫緊な課題です。 そのため、経済開発部では国際社会での議論も踏まえ、農業・農村開発分野に関する気候変動対策の取組を検討しています。その一環として、現在JICAでは、「参加型灌漑管理ガイドライン」と「活動リファレンス」の整備を進めています。本プログラムは、この整備に際して、各国で実施されている参加型灌漑管理案件の情報収集・整理と、より利用者にとって手取りやすく有用な資料とするための提言を行っていただくものです。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
地球温暖化（気候変動）の対策には、その原因物質である温室効果ガス排出量を削減する（または植林などによって吸収量を増加させる）「緩和」と、気候変化に対して自然生態系や社会・経済システムを調整することにより気候変動の悪影響を軽減する（または気候変動の好影響を増長させる）「適応」の二本柱があります。農業・農村開発協力で取れる有効な対策として、JICAは「参加型灌漑管理（以下PIM）」を推進しています。 「PIMガイドライン」と「活動リファレンス」の二つの資料は、プロジェクトの案件を形成、実施・管理するJICA職員、コンサルタント及び長期・短期専門家、各国政府の行政官や技術者等に読んでいただくことを想定したもので、気候変動への有用な対応策となるPIMの仕組みを広く開発途上国へ推進するための基本的な考え方やプロジェクトを実施する上で参考となる事項をとりまとめたものとなっています。 インターンシップでは、各国でJICA・他開発協力機関によって実施されているPIMの情報収集・分析と、上述の二つの資料に対する加筆と提言の補助を実施して頂きます。			
■参考情報			
JICAグローバル・アジェンダ「農業開発/農村開発」（気候変動対策についても言及） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html JICAグローバル・アジェンダ「気候変動」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/climate/index.html 農業・農村開発における気候変動対策の取組戦略 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/1553259_14948.html JICA経済開発部 参加型水管理で持続可能な農業を https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tech_pro/case/20220722.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
経済開発部では本取組の推進のため、サブタスクを設置。サブタスク事務局会合への出席、有識者委員会への参加を想定。			
■受入時期・期間			
2025年12月～2026年2月までの1ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：二点の資料は随時更新していく予定のため	可	週3回
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農業・農村開発分野またはコミュニティ開発等の専攻であること		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本23
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第二グループ第五チーム		
■テーマ			
食生活の見える化アプリの開発およびチーム内DX			
■テーマの概要			
JICAでは、栄養改善に関する機構全体の取り組み（参考リンク1）の一環で、「食と栄養のアフリカイニシアティブ（IFNA）」（参考リンク2）という農業分野に着目した国際的なプラットフォームを支援し、食と栄養に関するアフリカ各国職員向けの研修やツールの開発、ツールを活用したパイロット事業、栄養の視点を入れた農業開発に関する国際的な啓発活動をしている。現在、IFNAの活動の中で生まれた栄養素に基づいた食料アクセス改善のためのアプリケーション（通称「NFAアプリ」（参考リンク3））を開発し、各国への普及を進めている。同アプリは、2025年2月にバージョン1が完成したものの、利用者の利便性やニーズへの対応が求められており、引き続き機能改善を行っている。これと並行して、一部の国においてアプリの導入を支援しているが、より円滑な現場への導入に向けた教材やマニュアルの改善に取り組んでいる。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. NFAアプリに関連する業務補佐 （1）NFAアプリの機能改善の検討・提案 （2）NFAアプリの各国への導入の支援（専門家・各国関係者との協議・調整） （3）研修教材の改訂 （4）操作マニュアル、研修運用マニュアルの修正 2. その他チーム内（または部内）のDXに関する業務補佐 （1）第5チーム内（または部内）でのニーズ確認と要件定義 （2）DX試行（例：Power Automateを利用した自動化や、Power BIを利用した業務見える化など） （3）フィードバックの聴取と、利用に関する簡単なマニュアルの作成			
■参考情報			
1. グローバルアジェンダ「栄養改善」： https://www.jica.go.jp/activities/issues/nutrition/index.html 2. IFNA Website： https://ifna.africa/ 3. NFAアプリ/IFNAアプリ： https://youtu.be/OpNczU7BGho ※41:44頃から説明			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：業務のピークが、上記3カ月のどのタイミングになるか見えないため、着任可能なタイミングで具体的な業務を調整する。	可	週2-3回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	コンピューターサイエンス（特にモバイルアプリ開発）に関する分野を専攻または知識を有すること		
望ましい	将来のキャリアとして、食と栄養分野における国際協力に関心があること		
望ましい	Power BI、Power Automate、Microsoft List、Teamsに関する知識を有すること		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
本ポストの活動の中心は食生活の見える化に関するアプリの開発ですが、その活動を通じてアフリカの栄養改善や農業開発について学ぶ機会を得たい方々にご関心を持って頂きたいです。インターン場所はJICA本部経済開発部内を予定しています。勤務体系は柔軟に対応します。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本24
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	2
■課名：	農業・農村開発第二グループ第五チーム		
■テーマ			
栄養改善・農業開発分野の国際協力（特にアフリカ）			
■テーマの概要			
JICAは、2016年のアフリカ開発会議（TICAD）6において「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ（Initiative for Food and Nutrition Security in Africa: IFNA）」を立ち上げ、2025年までの10年間で、アフリカ各国の栄養改善の戦略策定やマルチセCTORALな栄養改善実践活動の促進、普及等に取り組む方針を掲げた。また、これまでJICAは、Community-based Smallholder Irrigation Development（COBSI：地域で入手可能な材料で農民が自前で簡易堰や用水路を建設し、同運用・維持管理も行う小規模灌漑開発）に取り組んでおり、マラウイやザンビアでの成果を踏まえ、更なる広域での協力展開を目指している。2025年8月のTICAD9では、IFNA・COBSIに関連したサイドイベントの実施を予定している。本ポストはIFNA・COBSIなどアフリカの農業開発・栄養改善事業を担当する農業・農村開発第5チームにおいて、栄養関連業務を中心に農業開発（稲作、園芸、灌漑、レジリエンス等）に関する業務も行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. 栄養改善・小規模灌漑支援（IFNA/COBSI）の戦略的な展開のための業務補佐 ・既存のIFNA/COBSIの案件実施状況、展開方針に向けた情報整理 ・IFNA/COBSIの組織内外への広報資料の作成・更新 ・IFNA/COBSIに関連した、特定のテーマの情報収集（他ドナーによる類似のアプローチなど） 2. 栄養サブタスクやTICAD9に向けた広報、イベント準備補助、資料作成等 ・TICAD9で実施する栄養・農業分野のイベントの広報（広報画像・告知文作成、各種媒体での告知、英語対応） ・同イベントの企画・準備・運営に係る補佐業務 ・栄養改善の協力実施を推進する「栄養サブタスク」の広報（SNS発信・ウェブサイト更新）・勉強会の企画や運営 ・栄養改善に関するSNS「みんなの栄養」の広報成果の分析、エンゲージメント向上のための戦略検討 3. その他栄養改善・農業開発分野の業務の補助			
■参考情報			
JICA Website（栄養改善）： https://www.jica.go.jp/activities/issues/nutrition/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
TICADアフリカ開発会議（横浜）（参加可否は調整による）			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの1～2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：主業務として8月開催のTICADの準備を想定しているため。	可	週2回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	栄養学、農学、農業開発に関する分野を専攻、または興味と知識を有すること		
望ましい	将来のキャリアとして、食と栄養分野における国際協力に関心があること		
望ましい	英語の論文や報告書等を読み、簡易な英文資料を作成するのに支障がないレベルの英語力		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
インターン場所はJICA本部経済開発部内を予定しています。勤務形態は柔軟に対応します。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本25
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第二グループ第五チーム		
■テーマ			
農業開発・栄養改善分野の国際協力（特にウクライナ・アフリカ）			
■テーマの概要			
JICAは持続的で包括的な農業・農村開発を推進し、農業（畜産業含む）や関連産業（加工・流通等）を振興することで農家の所得向上と農村経済の活性化を図り、貧困削減と食料安全保障を目指している。特にウクライナでは、戦乱の中で農業セクターの回復と、女性を含む社会的弱者や小規模農家の収入向上にも注力。一方、世界では約10人に1人が飢餓状態で、特にアフリカで子どもの低栄養が増加している。JICAは2016年のTICAD VIで「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ（IFNA）」を立ち上げ、栄養改善の戦略策定や活動促進を進めており、2021年には東京栄養サミットで「JICA栄養宣言」を発表した。そのような中、2025年3月のパリ栄養サミットを経て国際的な栄養改善の機運が高まっている。 農業・農村開発第二グループ第五チームでは、中東欧州、アフリカ地域の農業・農村開発に加えて、IFNAや食と栄養の協力を主導しており、本ポストは、本人の希望や専門性も踏まえて、同チームが所掌する協力案件の全体管理の補佐、各種会合の企画・運営補佐、机上調査、アプローチの整理、広報活動などを行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. ウクライナやアフリカの農業・農村開発・栄養改善協力に係る情報の収集・整理 ・農業・農村開発及び栄養分野の既存の協力案件の状況、新規案件形成に向けた本部・事務所などの取り組み状況を更新する。 ・協力全体の戦略的な展開に向けた取り組み状況表や予算や投入管理のフォーマットの更新 ・協力全体のモニタリングと対応策の整理 ・他の援助機関の支援状況の取りまとめ 2. 関連補助業務（農業・農村開発及び栄養分野の広報、イベントの準備補助、資料作成等）			
■参考情報			
1. JICA Website（農業・農村開発）：https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html 2. JICA Website（栄養改善）：https://www.jica.go.jp/activities/issues/nutrition/index.html 3. IFNA Website：https://ifna.africa/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年11月～2026年3月までの1～3ヶ月間程度（最低2週間）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：ウクライナ業務は流動的であり、希望する時期に応じてアサインメントを柔軟に設定することができるため	可	週2回、1.5ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農学、農業開発、栄養学に関する分野を専攻、または興味と知識を有すること		
望ましい	机上調査を実施するための語学力（英語）を有し、将来のキャリアとして、国際協力に関心があること		
■提供可能な執務環境等			
□完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：	完全リモート		
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
インターン場所はJICA本部経済開発部内を予定しています。勤務体系は柔軟に対応します。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本26
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	民間セクター開発グループ第一チーム		
■テーマ 「民間セクター開発」分野の技術協力プロジェクトにおけるJICA国内拠点との連携強化			
■テーマの概要 日本人材センター（通称：日本センター）は、中央アジアや東南アジア地域などの市場経済への移行を支援する目的で、各国のビジネス人材の育成と日本との関係強化の拠点として開設されました。JICAは、日本センターを通じて、所在国の中小企業振興に長年取り組んでおり、これまで育成してきた途上国の中小企業と、日本の企業のビジネスリンク形成を支援したいと考えています。このインターンシップでは、より多くの日本の皆様に「日本センター」をご活用いただくために、全国にあるJICA国内拠点との連携強化に取り組んでいただきます。また、その他のご関心に応じて活動を追加いただくことも可能です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 下記のうち、(1)の活動を必須とし、それ以外の活動はインターン生のご関心に応じて適宜選択・追加いただくことを想定しています。 (1) 国内機関と日本センター所在国等の連携状況に関する情報収集補佐 (2) 各国日本センター間の連携促進に向けた情報共有・会議等の企画・実施補佐 (3) 他機関との連携・調整業務補佐：他機関との連携関連の打合せに同席し、準備や議事録作成を行う。 (4) 本邦研修への同行、調整支援等（期間中にあれば）			
■参考情報 ・日本センター HP： https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tech_pro/japancenter/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・期間中、都内近郊で実施する国別研修があれば、同行可能。			
■受入時期・期間			
2025年9月～2026年3月までの1～3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2～3回、3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	基本的なやり取りが可能なレベルの英語能力（TOEIC 600点以上が目安）		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本27
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	民間セクター開発グループ第一チーム		
■テーマ			
「民間セクター開発」分野の技術協力プロジェクトについての広報活動（日本式経営を学んだ途上国の中小企業の好事例収集）			
■テーマの概要			
日本人材センター（通称：日本センター）は、中央アジアや東南アジア地域などの市場経済への移行を支援する目的で、各国のビジネス人材の育成と日本との関係強化の拠点として開設されました。JICAは、日本センターを通じて、所在国の中小企業振興に長年取り組んでおり、これまで育成してきた途上国の中小企業と、日本の企業のビジネスリンク形成を支援したいと考えています。 このインターンシップでは、より多くの日本の皆様に「日本センター」をご理解・ご活用いただくために、日本センターで日本式経営を学んだ現地中小企業に対するインタビュー記事を執筆いただきます（インタビューはオンライン実施）。また、その他のご関心に応じて、活動を追加いただくことも可能です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
下記のうち、（1）の活動を必須とし、それ以外の活動はインターン生のご関心に応じて相談の上、適宜選択・追加いただくことを想定しています。 （1）日本センターが支援した中小企業のグッドプラクティス記事作成：日本センターの技術協力プロジェクトで支援した企業へのインタビュー記事を執筆する。その他にFacebook運営、セミナー開催等の広報業務の補助を行う。 （2）日本センターHPの改善に向けた提言及び運営補助（コンテンツ管理システム（NOREN）での作業を含む） （3）内部広報素材作成：JICA他部署との連携が進むよう、民間セクター開発グループが主管する案件のJICA内向け広報（形式自由）を作成する。 （4）他機関との連携業務補佐：他機関との連携関連の打合せに同席し、準備や議事録作成を行う。			
■参考情報			
・日本センター HP： https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tech_pro/japancenter/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
・期間中、都内近郊で実施する国別研修があれば、同行可能。			
■受入時期・期間			
2025年9月～2026年3月までの10週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	可	週2～3回、10週間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語（途上国の企業へインタビューを実施可能なレベル）		
望ましい	日本センター所在国の公用語（所在国はHPをご覧ください）		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本28
■部署名：	社会基盤部	■募集人数（人）	1
■課名：	運輸交通グループ第一チーム		
■テーマ			
次世代モビリティの開発途上国での適用に関する調査研究			
■テーマの概要			
自動車（バス含む）の自動運転や電動化に関する技術開発や普及が急速に進んできており、特に電動車については一部の途上国では日本以上に普及しつつある。また、ドローンや空飛ぶ車といった、地上輸送手段を代替する技術も出てきており、ドローンの物流への活用については、JICAもブータンにて事業を開始しようとしている。 これらモビリティが実用化されてくると、途上国での人や物の動きが大きく変わってくる、また必要となる交通インフラについても変わってくるが見込まれ、JICAの支援内容について、それに即した内容に変えていく必要がある。 そのため、このインターンプログラムでは、急激に技術開発が進む次世代モビリティの実用化に向けた現状を整理するとともに、これらが途上国の暮らしをどう変えうるかを提案することを目的に実施する。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
上記活動内容にある目的に沿って、今回のインターンシップでは以下の調査研究活動を行っていただく。 ①文献やインターネット情報を通じた次世代モビリティの技術開発状況に関する情報整理 ②関係民間企業や大学等へのヒアリングを通じた次世代モビリティに関する情報整理 ③途上国からの留学生等へのヒアリングを通じた、途上国での次世代モビリティ活用への期待、想定されるインパクトの情報整理 ④上記①～③を踏まえたうえで、途上国での暮らしへの影響の分析、インフラ整備のあり方に係る提言			
■参考情報			
・JICA運輸交通グローバルアジェンダ： https://www.jica.go.jp/activities/issues/transport/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
インターン期間中に実施している道路交通安全クラスターの技術協力プロジェクト及び研修事業の会議、打合せ、視察など			
■受入時期・期間			
2025年9月～10月までの4週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	Outlook、Word、Excel、PowerPointに関する基礎的操作		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		10,000円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本29
■部署名：	社会基盤部	■募集人数（人）	2
■課名：	資源・エネルギーグループ第一チーム		
■テーマ			
脱炭素に向けたエネルギートランジションに関する調査研究			
■テーマの概要			
JICAはエネルギートランジションクラスターを策定し、カーボンニュートラルと安価なエネルギーの安定供給の両立を実現させるための協力を行っている。この中で特に①エネルギートランジション政策・計画の策定・更新・実施、②次世代脱炭素技術（水素、次世代原子力、核融合、宇宙太陽光、合成燃料等）の開発・社会実装、③国毎ではなく地域（ASEAN、南アジア、中央アジア、アフリカ等）でエネルギートランジションを目指すパワープールの促進させる取り組みを強化しているところ。 これらに解はないが、実現するには社会科学やエンジニアリングの観点から、特に以下の調査研究が重要である。 ・カーボンニュートラルと安価なエネルギーの安定供給を両立させるための政策 ・途上国に適した次世代脱炭素技術の研究開発状況と今後の課題 ・次世代脱炭素技術を社会実装するための政策・規制 ・地域でエネルギートランジションを実現するにあたっての課題と対応（国際関係や技術的な障壁） ・エネルギートランジションを促進するための民間企業の役割と投資環境整備			
■具体的なインターンシップ活動内容			
今回のインターンシップでは上記に関係する調査研究のいずれかを行う。応募者自らが、テーマや国・地域の絞り込みを行うこととし、JICA社会基盤部資源・エネルギーグループは必要な資料や助言、ヒアリング先との調整を可能な範囲で支援する。			
■参考情報			
・JICA資源・エネルギーグローバルアジェンダ： https://www.jica.go.jp/activities/issues/energy_minig/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
資源・エネルギーグローバルアジェンダ関係の研修事業のイベントがあれば参加可能。			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月中旬のうち4週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	Outlook、Word、Excel、PowerPointに関する基礎的操作		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		10,000円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本30
■部署名：	社会基盤部	■募集人数（人）	2
■課名：	資源・エネルギーグループ第二チーム		
■テーマ 途上国による鉱物資源の開発促進に関する調査研究			
■テーマの概要 JICAはエネルギーtransitionクラスターを策定し、カーボンニュートラルと安価なエネルギーの安定供給の両立を実現させるための協力を行っている。この中で特に①エネルギーtransition政策・計画の策定・更新・実施、②次世代脱炭素技術の開発・社会実装、③国毎ではなく地域でエネルギーtransitionを目指すパワープール、④脱炭素に必要な鉱物資源のサプライチェーン構築の促進させる取り組みを強化しているところ。 これらに解はないが、④鉱物資源のサプライチェーン構築を実現するには、社会科学やエンジニアリングの観点から、特に以下の調査研究が重要である。 ・途上国が鉱物資源開発をする上での課題と対応、促進するための政策・規制 ・途上国に適した採掘や精錬、リサイクル技術の開発状況と今後の課題 ・鉱物資源開発を促進するための民間企業の役割と投資環境整備			
■具体的なインターンシップ活動内容 今回のインターンシップでは上記に関係する調査研究のいずれかを行う。応募者自らが、テーマや国・地域、鉱種の絞り込みを行うこととし、JICA社会基盤部資源・エネルギーグループは必要な資料や助言、ヒアリング先との調整を可能な範囲で支援する。			
■参考情報 ・JICA資源・エネルギーグローバルアジェンダ： https://www.jica.go.jp/activities/issues/energy_minig/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 資源・エネルギーグローバルアジェンダ関係の研修事業のイベントがあれば参加可能			
■受入時期・期間			
2026年2月の4週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	Outlook、Word、Excel、PowerPointに関する基礎的操作		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		10,000円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本31
■部署名：	地球環境部	■募集人数（人）	2
■課名：	防災グループ		
■テーマ 防災分野の知見の体系化と関連人材のネットワーク強化			
■テーマの概要 地球環境部防災グループでは、技術協力事業等を通じて途上国における防災の取り組みと防災人材の育成を支援しています。本インターンシップでは、JICAの防災分野における活動の知識を深められると同時に、過去の防災協力に関する知見と人材のネットワークをとりまとめる業務に携わりながら、より効果的・効率的なJICAの防災協力の環境づくりに貢献できます。防災の知見の体系化においては、洪水、地震、気象等の防災支援分野において、JICA事業の成果発信、優良事例のとりまとめ、協力効果の検証、その他知見の整理といった活動を期待しています。また、防災人材のネットワーク強化に関しては、研修員・留学生、専門家や開発途上国防災機関職員、日本国内の関係機関・有識者等とのネットワークの構築・強化に対する体制作りの支援を期待しています。なお、JICA防災グループでは、防災インフラの整備と重要インフラの強靱化といった構造物対策を中心とした災害リスク削減に注力しており、土木・建築といった知見を持つ職員も多数活躍しています。このため、理系学部をはじめ多様なバックグラウンドの方の応募を歓迎します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 以下の中から、インターン生の関心の高いもの、専門性を考慮して所属部署と話し合った上で詳細な活動内容が決まります。 1. 知識の体系化 洪水、地震、気象といった分野において、特定の国における防災強化の事案を検証、とりまとめ。 防災グループ内で蓄積された情報の整理・発信（広報）に係る補助的な作業（10月下旬に予定されているトルコ自治体関係者などに対する防災・災害復興に係る日本における研修への同行と成果発信含む）。 2. 防災人材のネットワーク構築 防災分野の研修員、専門家、防災カウンターパート等の人材のリスト／データベース化。 防災人材のネットワーク体系の構想・試行的な取り組み立案（WhatsApp、Teams、LinkedIn等の活用案）、実施補助。 留学生ネットワークの運営・企画（留学生間のネットワーキングイベントの企画・実施、広報マテリアルの作成）			
■参考情報 JICAの防災分野における取り組みについて https://www.jica.go.jp/activities/issues/disaster/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 インターンシップ期間中に実施される研修員受入事業（10月下旬トルコ、テーマ：防災・災害復興）の講義・研修等(オンライン含)、技術協力プロジェクト等の先方機関との打ち合わせ・案件形成時の会議など。			
■受入時期・期間			
2025年10月～11月までの1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：応募者の希望時期含めて相談可		可	週3回程度以上
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	防災分野の事業に関心を有すること。		
必須	研修員等とのカジュアルなコミュニケーションが可能なレベルの英語力		
必須	MS Officeの利用に精通していること。		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 本インターンシップでの活動時間中（9:30-17:45）に、インターン活動に専念できる健康状態、他活動との両立を自立的に行えることを条件とします。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本32
■部署名：	国内事業部	■募集人数（人）	2
■課名：	市民参加推進課		
■テーマ			
JICAが日本国内で活動する意義を理解し、事業広報のための情報収集・分析・発信を行う。			
■テーマの概要			
多様化・高度化する開発途上国の開発課題の解決のためには、国際協力の専門知識を有する人材や、様々なパートナーとの連携が必要です。また、国際協力を継続的に実施するためには、日本の方々の国際協力への理解促進や、国際協力の経験を日本国内に還元し、地域の課題解決や活性化に取り組むことも重要です。 JICA国内事業部では、①技術研修員の受入、②留学生の受入、③外国人労働者の受入支援、④市民参加による国際協力の促進を行っており、市民参加推進課では④に関連し、NGO・自治体・大学による国際協力の実施支援、これら国内パートナーとの連携事業、寄附金事業の運営を行っています。 本インターンシップでは、開発途上国の課題解決に貢献できる日本各地の人材・組織や技術・知恵、国内パートナーとJICAとの関係について学びます。そして、これらパートナーとの連携による開発課題解決、国際協力を通じた日本国内への還元の取組を理解し、国内外の課題解決に向けたWin-Winな事業の意義について理解します。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
（１）JICAおよび国内事業部の役割と機能について理解する ・JICAの活動概要（特に国内拠点の役割） ・JICAの国内事業および市民参加協力事業 ・国内における多様なパートナーの存在と連携の重要性 （２）事業広報のための情報収集・分析・発信（以下の活動の中からご希望も踏まえ取り組み内容を決定していきます） ・国際協力推進員の制度・活動についての情報収集・発信素材のとりまとめ ・JICAの寄附金事業の広報についての分析・改善案とりまとめ ・市民参加事業についての説明資料の更新・内容改善 （３）インターン結果およびJICAへの提言の取りまとめ、発表			
■参考情報			
JICA市民参加事業 https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/index.html JICA寄附サイト https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/index.html JICA-Netライブラリチャンネル「国際協力を日本の文化にー市民参加ー」 －フルバージョン https://youtu.be/t-RN68nWWdM －ダイジェスト https://youtu.be/EocefufCSHU			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
・国際協力推進員の活動現場、寄附金活用事業の現場視察 ・自治体やNGO等との連携協議会合への同席 ・JICA職員が出向している大学、自治体等の見学、連携現場視察 ・国内拠点の活動（研修員受入事業、市民参加事業、多文化共生、開発教育等）の現場視察、行事参加 例：東京センター、横浜センター、筑波センター等			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までの2-3ヶ月間（詳細時期は要相談）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2-3回、2-3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	開発分野や国際協力に対する関心		
必須	事務処理能力（Microsoft Word, Excel, Power Pointなどを用いた資料作成等、事務作業）		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式 ☐ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
JICAのキャリアを知ってもらうための機会（職員訪問等）についても、要望に応じて、可能な範囲でアレンジ可能です。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本33
■部署名：	国内事業部	■募集人数（人）	2
■課名：	外国人材受入支援室		
■テーマ 移住と開発（外国人材受入・多文化共生社会構築支援）			
■テーマの概要 JICAは、人間の安全保障及び質の高い成長の実現と日本及び国際経済社会の健全な発展を目指して、開発途上国の経済・社会開発に協力しています。特に近年は、外国人材受入支援・共生社会構築が、重要な課題として取り上げられています。JICAは、日本に多くの外国人材（高度人材、技能実習生、特定技能外国人等）を送り出しているアジアを中心とする送出国において適正な移動のための取組や、日本国内で多文化共生社会構築に資する取組をそれぞれ行っています。 具体的には、①移住労働者の人権尊重、②（送出国・日本双方の）経済成長のための人材育成、③外国人材との共生社会の構築の3つの柱に基づき、誰一人取り残さない日本・世界の実現に向けて取り組んでいます。 日本だけでなく、世界各地でますます重要性の増す「移住と開発」のテーマをともに探求しませんか。			
■具体的なインターンシップ活動内容 以下の活動候補から、応募者の関心事項を踏まえて決定します。 ■各国の移住労働者送出の動向調査・分析 ■育成就労制度の開始に向けた国内の動きの把握（責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム（JP-MIRAI）の取組含む） ■移住と開発をめぐる他ドナーの動き ■国内の地方創生にかかる外国人材受入・多文化共生関連の活動集約と可視化 ■外国人材受入・多文化共生にかかる広報支援 ■外国人材受入・多文化共生にかかる統計情報の取りまとめ			
■参考情報 ■JICA HP https://www.jica.go.jp/activities/schemes/multicultural/index.html https://www.jica.go.jp/activities/schemes/multicultural/info/n_files/jica%20in%20action%20japanese.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ■能力強化研修「移住と開発」（7/31-8/6） ■JICA／JP-MIRAIが実施するイベント（セミナーや研修など）			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの2ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：インターンシップに集中できる夏期休暇期間中をメインの活動時期とする	可	週2日以上
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本34
■部署名：	評価部	■募集人数（人）	若干名
■課名：	評価企画課		
■テーマ			
インパクト評価（JGAエビデンスHUB及びJGAエビデンス集の作成・更新）			
■テーマの概要			
昨今、多くの援助機関や日本政府が、更なる事業効果の向上、事業の質の改善のために、エビデンス（根拠）に基づく事業実施（Evidence-Based Practice:EBP）やエビデンスに基づく政策推進（EBPM）を推進しており、その主要なツールとして、インパクト評価（IE）を重視しています。 JICAでは、保健、教育、農業をはじめとした様々な分野の事業でインパクト評価を実施するとともに、アカデミアでの発信も視野に入れた学術的研究も推進しています。 JICAは現在、新しいマネジメント方式であるJICAグローバル・アジェンダ（JGA）/クラスターを推進しており、その文脈で特に、IEやシステムティックレビュー（SR）、更にはそれらを概観できるエビデンス・ギャップ・マップ（EGM）の「利活用」（エビデンスの「つくる」「つたえる」「つかう」の特に「つたえる」「つかう」の点）を推進しています。 今回のテーマでは、JICAがJGA/クラスターを推進していく上で必要となるエビデンスの利活用のためのJGAエビデンスツール（JGAエビデンスHUB及びJGAエビデンス集）の作成・更新作業を実施するものです。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
①IE及びSR報告書等の内容吟味、収集及び活用提案（JICAエビデンスHUB（日本語）の作成・更新）：JICA、他機関（3ie、J-PAL、キャンベル共同計画、コクラン等）が実施済のIE/SR/EGMを、JGA/クラスター単位で内容吟味・収集し、評価部指定のフォーマットに沿ってリンク集を作成、活用提案を行う。 ②国際機関、NGOが実施済のIE/SR/EGMの情報収集、文献分析（JGAエビデンス集（日本語）の作成・更新）：JICA及び上記他機関等が発行済のIE/SR/EGM等についてセクター（JGA）毎に情報収集し、主要な報告書の概要及びリンク先を記載した要約を、評価部指定のフォーマットで作成する。 ※①及び②の作業では、評価部職員や国際協力専門員等から助言を行う。 ③その他：衛星データ活用、JICA事業の評価指標の確認作業、事業評価報告書における教訓の取りまとめなどをお願いすることもあります。			
■参考情報			
JICAグローバル・アジェンダ（JGA）：https://www.jica.go.jp/activities/#anchor1 JICAインパクト評価：https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/impact.html 3ie：https://www.3ieimpact.org/ キャンベル共同計画（龍谷大HP）：https://crimrc.ryukoku.ac.jp/campbell/library/international.html コクラン：https://www.cochranelibrary.com/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
評価部など構内各部門が実施する構内勉強会や外部セミナー等			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までの3週間～2ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2、3回、3週間～2ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	インパクト評価		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
・執務スペースは用意しますが、状況に応じて在宅リモートでの活動も可能です。 ・応募にあてっては、上記参考情報もよくご覧ください。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本35
■部署名：	評価部	■募集人数（人）	1～2
■課名：	事業評価第二課		
■テーマ			
事業評価（教訓活用状況の整理）			
■テーマの概要			
JICAの事業評価は、過去に実施した事業から得られる学びを通して事業のさらなる改善を図る（学習と改善）とともに日本国民や相手国関係者等に事業評価の結果を適時に公開すること（説明責任）を目的としている。特に、「評価による事業の改善」については、途上国の現場における多様な事業経験を通じて蓄積された教訓を活用・反映し、途上国の複雑かつ困難な開発課題の解決に向けたより効果的な事業を実施していくことが重要である。こうした認識のもと、評価部ではこれまで事業評価制度の拡充・強化を図るとともに、様々な分野課題に関する教訓を整理・分析して実用性・汎用性の高いナレッジ（知識）として取りまとめ、評価結果の事業へのフィードバックを推進している。 今回の活動は、事後評価の対象案件について、案件計画段階において過去の類似案件から教訓を活用した優良事例を抽出し、活用の背景やどのような教訓が有用であるか類型化を図る。また、これまで事後評価を実施した開発政策借款を対象としてその教訓の類型化を図り、案件形成に活用するための手引き案を作成し、更なる教訓の活用を促進することを目的としている。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
①事後評価案件における教訓活用事例の抽出・整理 現在事後評価を実施中の案件から、過去の類似案件の教訓を活用している優良案件を抽出し、活用に至った背景や活用においての工夫について整理を図る。活動の結果は、別途、事業評価年報の記事としてまとめることを想定している。 ②特定テーマに関する事後評価における教訓整理 過去に実施した事後評価における教訓を分野・特定テーマごとに整理し、今後の案件形成に活用することを想定した教訓活用の手引きを作成する。テーマはインターン生の希望を踏まえて決定する。 ③評価実務の実施 技術協力や資金協力の事前評価・事後評価にかかる評価実務の一部を活動として実施する。 ④インパクト評価／衛星データ分析にかかる業務補佐 インターンが希望する場合、評価部が実施するインパクト評価／衛星データ分析にかかる実務の一部活動として実施する。			
■参考情報			
・ JICA事業評価の概要 https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/ku57pq000001n698-att/development_evaluation.pdf ・ JICA評価年報 https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/general_new/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
評価部内での勉強会等			
■受入時期・期間			
2025年8月～11月までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2-3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	国際協力に関する基礎知識		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本36
■部署名：	青年海外協力隊事務局	■募集人数（人）	6
■課名：	国内グループ参加促進課		
■テーマ			
JICA海外協力隊事業における広報活動の強化			
■テーマの概要			
1965年に始まったJICA海外協力隊（青年海外協力隊）はこれまで累計で57,000人以上の隊員を累計で99か国に派遣、コロナ禍以前は常時2,000人の隊員が世界70か国以上で活躍していた。現在は約1,800人程度まで派遣規模を回復、コロナ禍以前の派遣規模まで回復することができた。認知度調査を行ったところメインターゲットの応募層である20-30代の6〜7割近くがJICA海外協力隊の名前を知らない、事業のイメージを全く持っていないという結果が出た。そのため青年海外協力隊事務局では2023年より、右年齢層をメインターゲットにしたインスタグラムやLINEを使った広報にも力を入れている。2025年は海外協力隊事業が発足してから60周年の記念の年であり、様々な広報イベントが予定されている。インターンには、応募者視点からの様々な広報施策へのインプットと同時に、必要な広報素材の収集、製作（撮影、編集等）によるSNSを中心とした発信強化への貢献にも期待する。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
JICA海外協力隊の募集広報、事業広報の一環として、特に応募者の不安払拭に向けたSNS向けの動画コンテンツの取材、編集（過去のインスタライブのアーカイブ映像からの再編集含む）を中心に活動する。具体的には、グローバルプログラム（派遣前研修）に参加している隊員内定者への取材、インタビューを通してJICA海外協力隊ウェブサイトやSNSに掲載する映像素材を集め、整理、精査、編集を行う。また、各在外事務所、派遣中隊員、海外協力隊訓練所、訓練生、国内機関、グローバル実習生、帰国隊員等を対象としたインスタグラムランブリやインスタライブの企画、実施、編集、投稿等を行う。動画を集める際に若者の興味喚起を引き起こすようなテーマやハッシュタグを検討し、提案する。 なお、インターンは常時2名体制を原則とし、互いにチームを組んで業務を行う予定。ただし、インターンの活動可能時期、人数やそれぞれの特技、関心などに応じて、チーム体制や活動の内容を調整することとする（1名のみもしくは3名以上で活動する可能性もあり）。			
■参考情報			
JICA海外協力隊 https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html 帰国後の日本国内への社会還元 https://www.jica.go.jp/volunteer/shakaikangen/index.html 帰国後のキャリア https://www.jica.go.jp/volunteer/people/index.html また昨年度受け入れたインターンが作成した成果品は以下のリンクから確認可能です。 https://www.instagram.com/share/BANiyPRvIX https://www.instagram.com/share/BAREWPr4Ee https://www.instagram.com/share/BA5Qn0wXiM その他Instagram、X、Facebookに青年海外協力隊事務局公式アカウントがありますので、参照してください。			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
・ グローバルフェスタ（9月予定） ・ 海外協力隊60周年記念式典（11月予定）			
■受入時期・期間			
2025年8〜10月、10〜12月、2026年1〜3月		それぞれの期間で2名程度	
フルタイム以外の活動体系の可否			
上記期間内での調整可 理由：		可	週2-3回、3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	素材となる写真や動画の撮影、編集などの経験があること。その判断材料として具体的な経験（個人・所属団体等のSNSアカウントでの発信等）を記載、あるいはリンクの共有をお願いします。		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
撮影に使用するカメラ、編集用PC等最低限のものはJICA側で用意するが、使い慣れた本人所有の機材、PCの活用も可能。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本37
■部署名：	青年海外協力隊事務局	■募集人数（人）	4
■課名：	海外グループ海外業務第一課・第二課		
■テーマ			
JICA海外協力隊発足60周年記念事業の業務補佐、JICAグローバル・アジェンダ（JGA）に基づく応募勧奨など			
■テーマの概要			
1965年に、ラオス・カンボジア・マレーシア・フィリピン・ケニアの5か国に派遣したところから始まったJICA海外協力隊は、2025年で60周年を迎えます。これまで9つの分野・190以上の職種で、隊員が技術・経験を活かし、開発途上国の人々のために活動し、2024年12月には累計派遣隊員数が約57,000人に到達しました。60周年記念事業のテーマは、「世界と日本を変える力」です。世界と日本に変革をもたらすJICA海外協力隊の姿を多くの方に知ってもらうため、青年海外協力隊事務局ではイベントなどの企画・運営を実施しています。インターンの方には、関連する情報収集や、派遣60周年に関連する派遣国（ラオス、マレーシア、セネガル等）の周年を祝う各イベントの企画・運営等の支援いただくことを想定しています。 また、青年海外協力隊事務局ではJICAボランティア事業と親和性が高いJGAについて、14のグループを作り、多様な力を結集した上で、開発途上国の課題解決を目指しています。インターンの方には、複数のJGAグループ担当を補佐し、大学などにおける協力隊への応募勧奨の支援をしていただくことも想定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
主に以下案件に関連する業務補佐 ・ JICA地球ひろばでの展示イベント、対面イベントの企画・運営支援（ラオス等の東南アジア諸国、セネガル等のアフリカ諸国） ・ 東京国際フォーラムロビーギャラリーでの展示イベントの企画・運営支援（協力隊派遣実績国の複数国と調整する予定） ・ イベントに関連する映像や動画作成、SNS等を活用した発信など ・ 大学など外部団体向けの出前講座などの企画・運営支援 ・ JICA内におけるJGAに登録歴のある協力隊経験者リストの作成（JGAアルumnaiネットワーク及びJOCVアルumnaiネットワーク強化のための情報収集） ・ JICA海外協力隊の派遣業務に関する業務補佐 ・ その他、JICA海外協力隊に関する業務補佐			
■参考情報			
・ JICA海外協力隊HP https://www.jica.go.jp/volunteer/ ・ JICA海外協力隊発足60周年記念事業HP https://www.jica.go.jp/volunteer/60th/ ・ JICAグローバル・アジェンダについて https://www.jica.go.jp/activities/#anchor1			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
JICA海外協力隊60周年記念式典（11月に東京国際フォーラムで開催予定）、JICA地球ひろばでの展示イベント（10月セネガル、11月ラオス）、JICA地球ひろばでの対面イベント（ラオス、11月のいずれか1日）			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までのうち3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	可	週2～3回 3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	JICA海外協力隊への関心		
望ましい	対面イベント・オンラインイベントの企画運営や情報発信の経験		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
インターンシップでは、他部署・在外事務所・外部団体とコミュニケーションを多くとります。そのため、幅広い国や部署、事業に対する理解を深める機会となります。また、上記記載の業務以外にも取り組みたいものがあれば、ご提案可能です。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本38
■部署名：	青年海外協力隊事務局	■募集人数（人）	2
■課名：	社会還元促進課		
■テーマ			
JICA海外協力隊の新しい時代を作る「JICA海外協力隊応援基金」の立ち上げサポートメンバー			
■テーマの概要			
JICA海外協力隊を派遣するJICAボランティア事業は、2025年で60周年を迎えます。青年海外協力隊事務局では、2年間の活動を終えて日本に帰ってきた帰国隊員の皆様（通称Old Volunteer=OV）が開発途上国での活動を通して得た知見・経験を国内外の社会に効果的に還元していただくことを非常に重視しており、社会還元促進課では、そのためのキャリア支援、進学支援、起業支援、ネットワーキング支援等を行うことで人材の環流を生むことを目指しています。また当課では、OVの活動のみならず、JICAボランティア事業全体をさらに発展させるための「JICA海外協力隊応援基金」の運用を行う寄附金事業も主導しています。 本インターンシップにおいては、JICA海外協力隊応援基金のファンドレイジング活動を中心に、広報等の活動サポートに取り組んでいただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
活動例：JICA海外協力隊応援基金のファンドレイジングサポート、PR企画の補佐（インターン生による自主企画も歓迎します！（大学等とのコラボ企画など））、広報用ツール・ウェブサイトのデザイン・制作補佐、ウェブマーケティング戦略策定補佐、事例収集等 実際の活動は、合格者のこれまでの経験、関心に応じて相談の上決定します。			
■参考情報			
JICA海外協力隊応援基金：https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/kyoryokutai.html 帰国隊員の皆様へ：https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/ JICA海外協力隊帰国隊員社会還元表彰：https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/syakaikangen/index.html JICA海外協力隊起業支援プロジェクトBLUE：https://blue.jica.go.jp/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
TICAD9サイドイベント「Start up with Africa！（仮）（日本・アフリカの起業家を招へいたイベント）」（8月）、JICA海外協力隊60周年記念式典（11月）、その他イベント・行事等			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までの3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：一定のコミットメントの元、目標達成をしていただきたいため	可	週2～3回、2～3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	団体（NGO, NPO, 学生団体等）・企業等におけるCSR活動やファンドレイジングまたはそれに類する経験		
望ましい	団体（NGO, NPO, 学生団体等）・企業等におけるSNS発信活動経験		
望ましい	団体（NGO, NPO, 学生団体等）・企業等におけるセミナー・イベント企画・運営経験		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
様々なOVの方々との交流する可能性があるポストですので、高いコミュニケーション能力と自発的に課題を発見し、活動する意欲の方をお待ちしています。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本39
■部署名：	青年海外協力隊事務局	■募集人数（人）	1
■課名：	社会還元促進課		
■テーマ			
JICA海外協力隊の帰国後のキャリア支援及び活動の広報サポート			
■テーマの概要			
JICA海外協力隊を派遣するJICAボランティア事業は、2025年で60周年を迎えます。青年海外協力隊事務局では、2年間の活動を終えて日本に帰ってきた帰国隊員の皆様（通称Old Volunteer=OV）が開発途上国での活動を通して得た知見・経験を国内外の社会に効果的に還元していただくことを非常に重視しており、社会還元促進課では、そのためのキャリア支援、進学支援、起業支援、ネットワーキング支援等を行うことで人材の環流を生むことを目指しています。また当課では、OVの活動のみならず、JICAボランティア事業全体をさらに発展させるための「JICA海外協力隊応援基金」の運用を行う寄附金事業も主導しています。 本インターンシップにおいては、当課の業務を学生の皆様の視点でアップデートする可能性を探ったり、活躍しているOVの皆様の国民の皆様に関わりやすく発信したり、また実際にセミナーを企画していただいたり、様々な活動を行っていただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
活動例：帰国後に活躍しているOV（学校の先生、地域活動の推進、社会課題への取り組み等）の取材・記事や動画などのコンテンツの作成 補佐、取材したOV情報等のデータ入力（マッピング）補佐、セミナー・イベント企画補佐（インターン生による自主企画も歓迎します！）、OVの帰国後支援戦略策定補佐（外部事例調査・事業ロードマップの作成等）等 実際の活動は、合格者の興味関心に応じて相談の上決定します。			
■参考情報			
JICA海外協力隊応援基金：https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/kyoryokutai.html 帰国隊員の皆様へ：https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/ JICA海外協力隊帰国隊員社会還元表彰：https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/syakaikangen/index.html JICA海外協力隊起業支援プロジェクトBLUE：https://blue.jica.go.jp/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
TICAD9サイドイベント「Start up with Africa！（仮）（日本・アフリカの起業家を招へいたイベント）」（8月）、JICA海外協力隊60周年記念式典（11月）、その他イベント・行事等			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までの3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：一定のコミットメントの元、目標達成をしていただきたいため	可	週2～3回、2～3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	団体（NGO, NPO, 学生団体等）・企業等におけるセミナー・イベント企画・運営経験		
望ましい	団体（NGO, NPO, 学生団体等）・企業等におけるSNS発信活動経験		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
様々なOVの方々との交流する可能性があるポストですので、高いコミュニケーション能力と自発的に課題を発見し、活動する意欲の方をお待ちしています。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本40
■部署名：	青年海外協力隊事務局	■募集人数（人）	1
■課名：	社会還元促進課		
■テーマ			
JICA海外協力隊起業支援事業BLUEの企画・運営サポートを中心とした海外協力隊の帰国後のキャリア支援業務サポート			
■テーマの概要			
JICA海外協力隊を派遣するJICAボランティア事業は、2025年で60周年を迎えます。青年海外協力隊事務局では、2年間の活動を終えて日本に帰ってきた帰国隊員の皆様（通称Old Volunteer=OV）が開発途上国での活動を通して得た知見・経験を国内外の社会に効果的に還元していただくことを非常に重視しており、社会還元促進課では、そのためのキャリア支援、進学支援、起業支援、ネットワーキング支援等を行うことで人材の環流を生むことを目指しています。また当課では、OVの活動のみならず、JICAボランティア事業全体をさらに発展させるための「JICA海外協力隊応援基金」の運用を行う寄附金事業も主導しています。 本インターンシップにおいては、特に起業している方など、活躍しているOVの皆様を国民の皆様にはわかりやすく発信したり、また実際にセミナーを企画していただいたり、起業支援プロジェクトBLUEに関する様々な活動を行っていただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
活動例：JICA海外協力隊起業支援プロジェクトBLUEのセミナー・イベント企画補佐（インターンによる自主企画も歓迎します！）、広報・PR活動のサポート、OV起業家へのインタビュー、日本や海外で起業する際に活用できる制度や補助金の調査・解説コンテンツの作成・メルマガ配信 等 実際の活動は、合格者のこれまでの経験、関心に応じて相談の上決定します。			
■参考情報			
JICA海外協力隊起業支援プロジェクトBLUE：https://blue.jica.go.jp/ JICA海外協力隊応援基金：https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/kyoryokutai.html 帰国隊員の皆様へ：https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/ JICA海外協力隊帰国隊員社会還元表彰：https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/syakaikangen/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
TICAD9サイドイベント「Start up with Africa!（仮）（日本・アフリカの起業家を招へいたイベント）」（8月）、JICA海外協力隊60周年記念式典（11月）、その他イベント・行事等			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までの3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：一定のコミットメントの元、目標達成をしていただきたいため	可	週2～3回、2～3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	起業経験または起業支援に関わる活動経験		
望ましい	団体（NGO, NPO, 学生団体等）・企業等におけるSNS発信活動経験		
望ましい	団体（NGO, NPO, 学生団体等）・企業等におけるセミナー・イベント企画・運営経験		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
様々なOVの方々との交流する可能性があるポストですので、高いコミュニケーション能力と自発的に課題を発見し、活動する意欲の方をお待ちしています。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-1本41
■部署名：	緒方貞子平和開発研究所	■募集人数（人）	2
■課名：	企画課		
■テーマ			
緒方貞子平和開発研究所の広報・発信活動ほか			
■テーマの概要			
緒方貞子平和開発研究所は、平和と開発のための実践的知識の共創をビジョンとして掲げ、世界の平和と開発のために、現場重視の視点をもった質の高い研究を行い、政策インパクトのある発信を目指しています。インターンシップを通じて、JICA内外での緒方研究所やその研究活動への認知度向上を目的とした広報・発信業務を補佐することで、開発×研究×広報発信の分野で発信計画の立案からコンテンツ作成までを一通り経験していただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・緒方研究所の研究や緒方研究所に関する主に学生層向けの広報・発信アイデアをまとめ、具体的なコンテンツを作成し、緒方研究所の広報媒体（ウェブサイト、SNS、動画、メルマガ）への掲載やセミナーにて活用する。 ・例としては、緒方研究所の研究に関する広報コンテンツ等の作成、「プロジェクト・ヒストリー」シリーズの著者へのインタビュー動画の作成、SDGsやSDGsにまつわる緒方研究所の研究の発信の補佐等であるが、本人の希望と関心に応じた活動を実施する。緒方研究所HPに掲載の研究活動紹介（領域紹介）や既存の動画コンテンツ等を参照の上、特に関心のある分野や取り組みたい活動内容をアピールすることも歓迎。 ・その他、セミナー開催準備やその他の研究所運営業務（研究データ整理や図書館運営等も含まれる）への参加の可能性もあり。			
■参考情報			
・JICA緒方研究所ウェブサイト https://www.jica.go.jp/iica_ri/index.html ・研究活動紹介（領域紹介） https://www.jica.go.jp/iica_ri/research/clusters.html ・プロジェクトヒストリーシリーズ https://www.jica.go.jp/iica_ri/publication/projecthistory/index.html ・人間の安全保障 https://www.jica.go.jp/iica_ri/research/pickup/humansecurity/1546300_56109.html ・JICA緒方研究所 動画コンテンツ https://www.youtube.com/playlist?list=PLq4Q49ttPGrku6o9f5JbG3GnMKGguEi_8			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
緒方研究所が企画するJICA内および対外セミナー			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週1～3回
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	緒方研究所ウェブサイトの記載内容が理解できる程度の英語力		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☐ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国01
■部署名：	北海道センター	■募集人数（人）	3
■課名：	道東業務課		
■テーマ			
国際協力を通じた地方創生・SDGsへの貢献 ～多文化共生・開発教育・研修・広報を通じて～			
■テーマの概要			
JICA北海道センター（帯広）では、地方自治体、大学、NGO、民間企業等との協働を通じ、「途上国の課題解決」と「道東地域の活性化・国際化」への貢献を目指しています。本インターンシップでは、農畜産業、自然環境、観光に強みを持つ道東地域（十勝、オホーツク、釧路、根室）の特徴や課題を把握するとともに、JICA北海道センター（帯広）が実施する多様な国際協力メニュー（研修、開発教育、外国人材受入支援、広報等）を理解・体験することで、地域密着型の国際協力の在り方を考察いただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
＜事前プログラム（オンライン）＞ ・オリエンテーション：自己紹介、志望動機、取り組みたいことの共有 ・道東地域発展の映像視聴 ＜メインプログラム＞ ・多文化共生・外国人材受入支援業務：道東各地域における多文化共生事業の補助 ・国際理解教育支援事業の運営補助：小中学生のJICAセンター訪問、JICA研修員の小中学校訪問の運営補助 ・国際交流イベント運営補助：国際交流を目的としたイベントの一部企画の計画・運営 ・研修コース運営補助：途上国の行政官や技官向け研修コース（家畜衛生等）の講義・視察、研修員との交流プログラム参画 ・ボランティア事業の広報：派遣中ボランティア隊員や帰国隊員、JICA海外協力隊グローバルプログラム（派遣前型）参加者への取材 ・広報活動：各種事業のHP・SNS記事作成・発信、FMラジオ番組への出演、地域イベントでのJICAブース運営補助、映像撮影 ※上記プログラムを基本とし、ご希望・関心事項に応じたプログラムを検討。取り組み内容によって、オンライン事前打ち合わせ実施の可能性有。			
■参考情報			
JICA北海道パンフレット（札幌・帯広共通） https://www.jica.go.jp/sapporo/office/pr/ku57pq000005mliy-att/profile.pdf JICA北海道（帯広）とSDGs https://www.jica.go.jp/domestic/obihiro/activities/1520565_2432.html JICA北海道（帯広）館内案内 https://www.youtube.com/watch?v=V1bT5Krxjpw JICA北海道（帯広）instagramアカウント https://www.instagram.com/jica_obihiro/ JICA北海道（帯広）Facebookアカウント https://ja-jp.facebook.com/jicahokkaido.obihiro 道東地域発展のプロセスの映像視聴 https://www.jica.go.jp/domestic/obihiro/material/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
地域の多文化共生イベントの運営補助（2月上旬） JICA研修員受け入れ事業課題別・国別研修（2月上旬） JICA研修員地域学校訪問・交流プログラム 開発教育支援事業（センター訪問受入れ、出前講座など） JICA広報番組へのラジオ出演（随時） 道東地域のイベントのブース出展補助			
■受入時期・期間			
2026年1月下旬～2月末までの2週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 補足：上記期間内であれば、活動期間・頻度は調整可能		可	1.5ヶ月間のうち週1、2回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☐ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：		執務スペース、Wi-Fi	
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
・JICA北海道センターは、札幌と帯広にそれぞれ拠点があります。本インターンシップは、JICA北海道センター（帯広）で実施します。 ・空室がある場合、希望により、JICA北海道センター（帯広）館内の宿泊施設をご利用いただけます。 ・メインプログラムは、基本的に対面での実施を想定しております。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国02
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	2名程度
■課名：	総務課		
■テーマ			
国内センター理解：国際協力キャリア形成のきっかけ作りのために			
■テーマの概要			
JICAの国内センターは、開発途上国と日本の地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を生かした国際協力を推進するとともに、地域の発展に貢献する活動を進めています。JICA筑波は、保有する農業・農村開発分野の実践的研修施設を活かしつつ、筑波研究学園都市に集積する研究・教育機関との連携を強化し、農業、防災、気候変動対策などの研修員受入事業を実施しています。また、所管する茨城県と栃木県のJICA海外協力隊、草の根技術協力、開発教育支援、中小企業・SDGsビジネス支援、外国人材受入支援・多文化共生等の事業を実施しています。 今回のインターンシップでは、JICA筑波が実施する研修員受入事業、開発教育支援、広報・総務等の事業を体験しつつ、各自の個別テーマ設定を行った上で、情報収集・分析、各自のアイデアの提案を行って頂きます。また、JICA筑波で勤務する職員、研修委託先スタッフ、協力隊OV等多様な人材のキャリアに触れる機会を設定しますので、ご自身のキャリア検討の機会として活用いただけます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップは、JICA筑波が実施する幅広い業務の体験、個別テーマの対応、キャリア面談などを行って頂きます。詳細な活動はインターン生の決定後に、各自の希望を踏まえて相談しながら設定します。特に、2025年2月に開所したJICAつくば地球ひろばの企画展の企画・実施、45周年記念の広報事業の企画・実施などに関する個別テーマを推奨します。 具体的な活動例は以下のとおりです。 1. 途上国の農業開発を担う中核人材を育成する研修の講義、圃場実習、実験への参加 2. 日本の優良事例を学ぶ、研修員の日帰り視察研修への同行 3. JICA筑波への施設訪問、研修員の学校訪問などの開発教育の補助 4. 収穫祭、ちびっこ博士などの広報業務の補助、経理・契約・総務業務の補助 5. 個別テーマの設定、情報収集・分析、アイデア提案：例 2025年2月に開所したJICAつくば地球ひろばの企画展の企画・実施、45周年記念の広報事業の企画・実施、DX化など 6. 多様な国際協力人材とのキャリア面談			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。 昨年度イベント実施例：https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/information/event/1516580_23964.html ちびっこ博士等：https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/other/index.html			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの6～8週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：イベントが多くある時期での実施とするため	可	週4日以上
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点以上）		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,000円/日		学生料金2,600円/泊（朝食込）	
■備考・留意点			
JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合に限り、学生料金2,600円／泊（朝食付）でご利用いただけます。（要予約） 受入時期・期間は、インターンの皆様と相談の上、設定いたします。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国03
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	2～3
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
課題別研修「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの業務補佐			
■テーマの概要			
多くの開発途上国において、農業セクターは、総労働人口の過半を占める就労人口を抱える主要な産業です。イネは多くの開発途上国で栽培・消費されている主要穀物の一つであり、この生産量向上を食料安全保障の課題に掲げる国も少なくありません。しかしながら、とりわけアフリカでは、イネの生産面積は拡大しているものの、依然として生産性は低い数値です。また、発展途上国の研究機関、農業技術普及等の行政組織が人的、資金的に脆弱であり、かつ研究員、普及員の能力が農家のニーズに対応しきれておらず、人材の育成が喫緊の課題となっています。このような状況から、「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースでは、筑波センターで保有する農業研修施設・圃場等を活用し、アフリカ稲（ネリカ）等を中心に①畑地、水田にける稲栽培技術に関する知識・技術の向上、②種子生産、品種比較の実証試験、③技術普及の検討・改善に向け、講義・実習・視察等を通じて、求められる知識と能力の向上を目指しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップでは「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースに参加し、JICA、及び研修委託先と協力して研修実施の補助を行って頂きます。詳細な活動はインターン生決定後に設定します。 具体的な活動例は以下のとおりです。 1. 指導業務補助（技術指導補佐、圃場での調査補佐） 2. 個別実験補助（施肥や栽植密度、品種の比較実験）／収量調査補助 3. 研修旅行計画補助 4. 月別研修カリキュラム作成補助 5. 研修計画に沿った資料作成・講義補助 6. 国際協力事業指導の現場理解（研修員が抱える課題とその解決策の聞き取り等） なお応募者の関心と上記「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースに係る業務量に応じて、当センターで実施している「農業共創ハブ」に関連する業務、広報活動（SNS記事作成）、その他研修業務課の業務を補助いただくことも可能です。			
■参考情報			
「農業共創ハブ」ホームページ https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/agricul/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。 昨年度イベント実施例： https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/information/event/index.html			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：合計2週間以上であれば、受入期間は調整可能です。	可	週2～3日程度の活動でも調整可能です。
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での（できれば）作物に関する調査等、試験研究の経験または行う予定のある方。		
必須	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点以上）		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		学生料金2,600円/泊（朝食込）	
■備考・留意点			
圃場や実習施設での実験・実習にあたっては、作業しやすく汚れてもよい服装と靴が必要です。 JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合に限り、2,600円／泊（朝食付）でご利用いただけます。（要予約） 受入時期・期間は、相談の上、設定いたします。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国04
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	1～2
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
課題別研修「小規模農家の生計向上のための野菜生産技術」コースの業務補佐			
■テーマの概要			
JICAの国内センターは、開発途上国の開発課題への取組を支援するために、海外と国内の地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を生かした国際協力を推進するとともに、地域の発展に貢献する活動を進めています。JICA筑波センターは、農業分野の実践的研修施設を活かし、筑波研究学園都市に集積する研究・教育機関との連携を強化し、農業、防災、気候変動対策などの研修員受入事業を実施しています。 今回インターンを募集している「小規模農家の生計向上のための野菜生産技術」コースでは、各国の農業普及員等を対象に主要野菜の栽培技術をはじめ施肥、病害虫防除、施設栽培、採種技術に加え、農業経営、マーケティングや販売、普及手法に及ぶ総合的な知識と技術の習得を目指しています。 本インターンシップでは、国際協力に関する仕事に関心をお持ちの方を対象としており、研修コースの業務補佐を通じて、研修員と英語でコミュニケーションを取りながら国際協力の現場を体験できるだけでなく、JICA職員・スタッフ、研修指導員、海外協力隊出身者等多様な人材キャリアを知ることが可能です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップでは、「小規模農家の生計向上のための野菜生産技術」コースに参加し、JICA、研修指導員と協力して研修実施の補助を行っていただきます。 主な活動は以下を想定していますが、詳細な活動は、応募者の専門性を考慮し、インターン生の決定後に設定します。 （１）各種野菜の栽培実験の概要説明や種蒔き、育苗管理、トマトの接木実習などの見学・参加 （２）研修員の各国農業・野菜生産状況発表と課題解決のワークショップ、個別実験計画作成授業の見学 （３）講義・実習・見学の準備や資料作成の補助 （４）研修員との各国事情についてのコミュニケーションや日本での生活相談 （５）本コースの広報活動補助（Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事） （６）その他、JICA筑波センター研修業務課の業務補助等			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/agricul/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
同時期にJICA筑波センターが実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加			
■受入時期・期間			
2026年3月の2～4週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農業・農村開発分野での研究を行っている、または行う予定のある方		
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点以上）		
望ましい	PCスキル（Word・Excel・PowerPoint等）		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		学生料金2,600円/泊（朝食込）	
■備考・留意点			
本インターンは、自ら研修員やJICA関係者とコミュニケーションを図り、積極的に活動することでより学びを深めることが可能なポストです。 JICA筑波センターの宿泊施設に空きがある場合、2,600円/泊（朝食込、学生料金）でご利用いただけます。 受入時期・期間は、インターン生と相談の上、設定いたします。基本的にはご自身のPCを使用いただきますが、PCをお持ちでない方には貸与します。また、機構内の情報へアクセスが必要な場合はPCも貸与します。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国05
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	1～2
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
課題別研修「市場志向型農業振興 —SHEPアプローチ—（普及員）」コースの業務補佐から農業協力実務を経験しよう			
■テーマの概要			
JICAはビジネスとしての農業による所得向上を目指しながら、農家ひとりひとりの「やる気」を引き出し、自助努力によるさらなる成長を推進する、というSHEP (Smallholder Horticulture Empowerment and Promotion) アプローチを提唱しています。「市場志向型農業振興（普及員）」コースでは、小規模農家が作物を「作ってから売る」のではなく「売るために作る」というケニアで成果をあげている、このSHEPアプローチという手法を中心に市場志向型農業の基本的な考え方について学びます。また、市場ニーズに対応した野菜栽培技術、流通・販売方法および普及手法について、講義や視察に加え、演習や圃場実習も取り入れ、帰国後活動を見据えながら実践的に学んでいきます。このコースは、事前プログラム・本邦プログラム・事後プログラムの3つのプログラムから構成され、事前および事後プログラムは遠隔研修、本邦プログラムは来日研修により実施されます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップでは「市場志向型農業振興 —SHEPアプローチ—（普及員）」コースの事前プログラム（遠隔研修）に主に参加し、JICA、研修業務委託先と協力して研修実施の補助を行って頂きます。なお、詳細な活動はインターン生の決定後に設定します。具体的な活動例は以下のとおりです。 1. 研修計画に沿った資料作成等の補助 2. オンラインセッション等における研修員とのコミュニケーションを含む研修運営補佐 3. 研修員が抱える課題とその解決策の聞き取り 4. 事前プログラム（遠隔研修）で実施するオンラインセッションや動画教材等に関する研修員に対するサポート 5. 野菜栽培指導のための圃場等の準備作業（土壌消毒、トマト播種・育苗等を含む） 6. 本コースの広報活動補助（Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事） 7. その他、研修業務課の業務補助等			
■参考情報			
【日程案】2026年 2月9日（月）～2月13日（金） オンライン参加（筑波センターでの参加も可能です） 遠隔研修の業務補佐（研修員のプロフィールデータの作成、研修員の抱えている問題のまとめ、キックオフミーティングのオンライン参加、キックオフミーティングの参加結果についてSNS・HP記事の作成） 3月9日（月）～3月13日（金） 筑波センターでの参加（オンライン参加はできません） 来日後受入の業務補佐（ブリーフィング、開講式、プロオリ、図書室オリ、コースオリ、作業着試着採寸、現地課題の抽出と個別課題案の検討、ベンチマークテスト、インセプションレポート作成）※このほか、冒頭にJICAブリーフィング、終了時に所長面談があります。			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。			
■受入時期・期間			
2026年2月～3月までの2週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での研究を行っている、または行う予定のある方		
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点以上または英検2級以上）		
望ましい	PCスキル（Word・Excel・PowerPoint、オンライン会議、動画編集等）		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		学生料金2,600円/泊（朝食込）	
■備考・留意点			
JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合、2,600円／泊でご利用いただけます。 受入時期・期間は、インターン生と相談の上、設定いたします。基本的にはご自身のPCを使用いただきますが、PCをお持ちでない方には貸与します。また、機構内の情報へアクセスが必要な場合はPCも貸与します。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国06
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	3～4
■課名：	研修業務課		
■テーマ 課題別研修「稲作技術向上（普及員）」コースの業務補佐			
■テーマの概要 JICAの国内センターは、開発途上国の開発課題への取組を支援するために、海外と国内の地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を生かした国際協力を推進するとともに、地域の発展に貢献する活動を進めています。 JICA筑波センターは、農業分野の実践的研修施設を活かし、筑波研究学園都市に集積する研究・教育機関との連携を強化し、農業、防災、気候変動対策などの研修員受入事業を実施しています。 今回インターンを募集している「稲作技術向上（普及員）」コースは、農業研修施設・圃場等を活用し、アフリカ稲（ネリカ）等を中心に①稲作に関する知識・技術の向上、②農家圃場レベルのニーズに即した基礎的実証試験、③普及体制の整備拡充、④農民への普及方法の改善について、講義、実習、視察等を通じて求められる知識と能力の向上を目指しています。 本インターンシップでは、国際協力に関する仕事に関心をお持ちの方を対象しており、研修コースの業務補佐を通じて、研修員と英語でコミュニケーションを取りながら国際協力の現場を体験できるだけでなく、JICA職員・スタッフ、研修指導員、海外協力隊出身者等多様な人材キャリアを知ることが可能です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップでは「稲作技術向上（普及員）」コースに参加し、JICA、研修指導員と協力して研修実施の補助を行っていただきます。 詳細な活動は、応募者の専門性を考慮し、インターン生の決定後に設定します。 具体的な活動例は、圃場で実施する実験・試験（施肥や栽植密度、品種の比較実験）の研修員（13名アフリカ地域）に対するサポートを想定しております。 8月は主に生育調査、圃場管理、下旬は収穫、9月は収穫及び収量調査がメインとなります。 加えて、本コースの広報活動補助（Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事）を実施いただく可能性があります。			
■参考情報 「稲作技術向上（普及員）」コース概要 https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/agricul/_icsFiles/afieldfile/2025/03/05/course_01.pdf アフリカ稲作振興のための共同体（CARD） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html CARDフェーズ2 目標達成に向けたシナリオ https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card_02.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの3週間以上		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2、3回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農業・農村開発分野での研究を行っている、または行う予定のある方。		
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点相当）		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		学生料金2,600円/泊（朝食込）	
■備考・留意点 本インターンは、自ら研修員やJICA関係者とコミュニケーションを図り、積極的に活動することでより学びを深めることが可能なポストです。また、研修員と同様に水田内に入り稲刈り鎌を使います。そのために長靴、水田用長靴、手袋、作業ができる服装（帽子を含む）のご準備をお願いいたします。また圃場や実習施設での実験・実習にあたっては、作業しやすく汚れてもよい服装と靴が必要です。 JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合、学生に限り2,600円／泊（朝食込み、学生料金）でご利用いただけます。 受入時期・期間は、インターン生と相談の上、設定いたします。基本的にはご自身のPCを使用いただきますが、PCをお持ちでない方には貸与します。また、機構内の情報へアクセスが必要な場合はPCも貸与します。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国07
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	2名程度
■課名：	連携推進課		
■テーマ			
地域の国際協力パートナー（民間企業、NPO/NGO、大学、自治体等）へのインタビューと成果発信（国際協力キャリア相談可）			
■テーマの概要			
JICAの中小企業・SDGsビジネス支援事業および草の根技術協力事業に対する理解・参加を促進するための事業広報の取り組み。茨城・栃木にてこれらの事業を実施したことのある機関より5～10団体を選定し、事業や実施プロジェクトの概要・成果、教訓・学び等について、聞き取りを行う。聞き取りは各2時間前後、団体訪問による対面もしくはオンラインで実施。上記聞き取り結果についてとりまとめ、広報媒体を通じて発信する。掲載先は、JICA筑波ウェブサイトや事業紹介ページ。加えて見開き5ページ前後のパンフレット制作を検討中。各結果を比較し、地域アクターが国際協力に参画する意義、JICAに求める支援について分析する。本分析結果についてはJICA職員向けの報告会を企画する。 <成果品イメージ> https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/story/index.html https://www.jica.go.jp/Resource/tsukuba/enterprise/volunteer/ku57pq000005lept-att/pamphlet_ibaraki.pdf			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・上記のテーマについて、JICA職員と協働で、企画書の作成、聞き取り先の選定および関係機関への協力依頼、ヒアリングのアポ取りを行う。 ・聞き取りにかかる時間は各団体2時間程度を想定。質問票の作成および聞き取りはJICA職員と協働で行うが、インターン生の積極的なアイデアを歓迎。 ・聞き取った結果のとりまとめ、広報媒体の原稿作成についてはインターン生が中心となっていく。原稿の確認や広報物作成はJICA職員や支援スタッフがサポート可能。 ・聞き取り結果の分析および報告会の企画はJICA職員がリードするが、同職員の業務を補佐する形で発表資料等を作成する。			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/index.html https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/kusanone/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
インターンシップ期間中にJICA筑波が実施・参加するプログラム（大学生・大学院生向け国際協力理解講座、海外協力隊体験談、中高生向けJICA紹介セミナー、企業・NPO・団体との打ち合わせ、開発途上国からの研修員が受ける講義・活動等）への参加・同席。希望があれば、JICA筑波のスタッフによるキャリア相談や協力隊体験談の機会を提供可能。			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：可能な限り上半期での実施を希望。		可	週3回程度、対面・オンラインとの組み合わせ可
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	日本語でのコミュニケーション（話す、聞く、書く、読む）		
必須	タイピング・文字起こし、文書作成能力		
望ましい	インタビューや広報物作成の類似経験		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：出張に必要な交通経費、インタビュー等に必要機材の購入等			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,000円/日		学生料金2,600円/泊（朝食込）	
■備考・留意点			
JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合に限り、学生料金2,600円／泊（朝食付）でご利用いただけます。（要予約）			
週3回程度のペースで上記インターンシップ活動に参加できる方を募集します。活動期間中は少なくとも週1～2回はJICA筑波にて活動いただき、他はご自宅等でのオンラインでの活動参加も可能です。外部とのミーティングのため茨城県・栃木県内への外勤も複数回想定しています。活動開始時期・期間や対面/オンラインなどは柔軟に対応できますので、ご相談ください。地方創生・地域活性化にも貢献する地域のパートナーとの国際協力に関心がある方であれば、本インターン活動を通じて多くの専門家・関係者の話や思いを聞くことができるので、おすすめです。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国08
■部署名：	東京センター	■募集人数（人）	2
■課名：	産業開発・公共政策課事務支援・法司法		
■テーマ			
研修員受入事業の質の向上			
■テーマの概要			
東京センターは設立以来、JICAの国内最大規模の研修実施機関として、開発途上国の抱える様々な課題に対応するため、日本国内の関係機関の協力を得て、多種多様な研修メニューを開発途上国の方々に提供しています。研修は共に学び新たな価値を創造する「共創」の考え方にに基づき、講義、視察、実習、プレゼンテーション、意見交換などを通じて開発途上国からの研修員が国内外の講師と共に、学びを深め新たな気付きを得る場となっています。東京センターでは、こうした研修プログラムの企画・実施から実施後の振り返りまで、研修の一連の事業を行っています。 産業開発・公共政策課では法・司法、行政/財政・金融/民間セクター・資源エネルギー分野の研修事業を行っています。開発途上国の人材育成のニーズに合致した、より良い研修事業の内容・実施方法を検討し、研修の質の向上を目指しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. 研修員受入事業の広報記事作成 SNSを通しての広報記事作成（プレスリリース含む）・研修員へのインタビュー（インスタ、JICA東京HP、Facebook）および広報戦略への提案等 2. 研修員へのプログラムオリエンテーションで実施するアイスブレーキングのアイデア出しおよび実施 3. 過年度研修員とのネットワークづくり（同窓会）に係るオンライン実施運営の手伝い 4. 研修コース募集要項の事務補助（過年度研修員へのインタビュー（メール）含む）および研修員へのアンケートからJICA東京施設の要望をとりまとめる。			
■参考情報			
JICA東京ホームページ：https://www.jica.go.jp/tokyo/index.html 研修員受入事業：https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/summary.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
インターンシップ期間中に実施する課題別研修・国別研修、研修員向け福利厚生イベント（日本文化紹介、市民との交流等）等			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの2ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週1回、2ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	語学力（英語での意見交換に支障ないレベル（TOEIC730点以上が目安））		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 執務スペース			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
・具体的なインターンシップ内容は上記1～4を想定していますが、余裕があればJICA東京内の展示へのアイデア提案もお願いできればと考えております。 ・東京センターには宿泊施設もありますが、JICA研修員の滞在目的に設置されている施設であるため、宿泊施設を利用しながらインターンに参加いただく場合は、各自で予約していただき、空室がある場合にのみ利用可能となります。（5,300円/泊）			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国09
■部署名：	東京センター	■募集人数（人）	1
■課名：	長期研修課		
■テーマ			
長期研修員や関連する取り組みを取材して、HP、Facebook等で発信する。			
■テーマの概要			
JICAでは、途上国の未来と発展を支えるリーダーとなりうる人材を日本に招いて大学院の修士課程、博士課程に留学させており、この留学生を「長期研修員」と呼んでいます。JICA長期研修員には、それぞれの研究分野での専門性を高めるとともに、欧米とは異なる特色を持つ日本の近代の開発や発展について理解を深める機会があります。また、学業以外で、日本各地で培われてきた地域特有の開発事例を題材とし、地域に根差した具体的な開発事例を学ぶことで、JICA長期研修員が日本の開発経験に対する理解を深めることを目的とする地域理解プログラムも実施しております。インターンの方は、この長期研修の意義を理解し、長期研修員へのインタビューや長期研修員の参加する活動への同行を通じて、HPやFacebook等での発信記事を作成することで、長期研修員にかかる広報業務の一翼を担うことになります。英語の会話や文章作成の能力を向上させたい、との意欲をお持ちであれば、活動可能です。是非、挑戦してください。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
長期研修員への取材、または地域理解プログラムへの同行を実施し（オンラインでの取材を含む）、その結果をHPやFacebook等に投稿するための記事を作成する。			
■参考情報			
JICA東京 事業紹介 https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/index.html 研修員受入事業(長期)とは https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/activities/training/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
地域理解プログラム（関東圏：11月～2月の間で2回程度(予定)）、長期研修員の出前講座同行（不定期）、長期研修員への取材等			
■受入時期・期間			
2025年11月～12月の1か月程度/2026年1月～2月下旬の1か月程度のいずれかで受入		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：10月までの間は秋学期入学者対応があり、かつ長期研修員の夏期休暇期間の一部とも重複している、インターン受入は難しい状況です。	可	活動可能な曜日は予め固定した上での受け入れとなります。
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語による会話能力（流暢でなくても良いが意思疎通が確実に出来ること）		
望ましい	英語によるメールの執筆が出来ること（翻訳ソフトに頼っても良いが、その訳の妥当性判断が出来、自分で修正できること）		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☐ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
・地域理解プログラムに同行いただく場合には、東京センターから出発するバスに同乗し、日帰りを想定しています。ただし、出発時間は朝7時台と早期となる予定です。 ・毎日来る前提で2～3週間の集中型で取り組みたいか、週に2～3日、一定程度長い期間で考えたい方については、選考時に考慮しますので、申込時に言及していただくようお願いいたします。 ・東京センターには宿泊施設もありますが、JICA研修員の滞在目的に設置されている施設であるため、宿泊施設を利用しながらインターンに参加いただく場合は、各自で予約していただき、空室がある場合にのみ利用可能となります。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国10
■部署名：	東京センター	■募集人数（人）	2
■課名：	市民参加協力第一課		
■テーマ			
これからの市民参加協力事業に新しい視点・アイデアを導入しよう（開発教育支援事業を中心に）			
■テーマの概要			
市民参加協力第一課では、現職の教員に、世界の課題と日本の関係、国際協力の現場を理解し、研修成果を活かした授業を展開していただく教師海外研修、学校、自治体などの依頼を受け、JICA東京に講師登録している海外協力隊経験者、JICA東京で受け入れ中の長期研修員などを講師として紹介し、国際理解・キャリア教育などに資する講義を実施する国際協力出前講座などの開発教育支援事業を実施しています。 これまで開発教育支援事業は日本に住む方々になぜ日本が国際協力に取り組むのか、どんな活動をしているのか、そこで得られた知見は相手国や日本社会にどう活用できるのかを教師、生徒が考える機会を提供することを目的としていました。近年の日本社会の変化の中で、そうした取り組みは、高校を中心に積極的に行われている探求学習や日本に住む外国人との共生を考える多文化共生の文脈でも重要になっています。本テーマでは、これからの市民参加協力事業（開発教育支援事業を中心に）に対して、大学生・大学院生の視点から新しい視点・アイデアを出してもらい、それを反映した事業の実施に役立てたいと考えています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
具体的に想定している業務は下記のとおりです。 ・教師海外研修の国内研修実施運営を補佐する（8月中旬・下旬に行われる国内事後研修の実施運営補佐、それぞれにかかる記録作成やHP作成などの広報を行う。また、今後のプログラム実施運営に関し、改善案などの提言を行う。） ・JICA東京で2025年度に試行的な導入を検討している、東京センターの施設訪問プログラムについて、試行の準備、実施、振り返りを行う、今後に向けた示唆をまとめる。 ・市民参加協力第一課に所属する学校教育アドバイザーとともに、教師海外研修参加者による帰国後の授業実践、総合的な学習（探究）にかかる調査、訪問、授業見学などに同行し、資料作成補助や記録、データの整理などを行う。 ・出前講座講師を対象とした授業力アップセミナーの実施運営を補佐し、事業改善の提言を行う。また、関連するHP作成などの広報を行う。 ・JICA東京が作成する開発教育の教材・資料作成の補助、および改善案などの提言を行う。 ・ボランティア事業への応募促進や社会還元に関し、大学生・大学院生の視点から興味関心を持ち、参加しやすいイベントへの提言を行う。			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/index.html https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
教師海外研修派遣後研修 総合的な学習（探究）にかかる調査・訪問・授業見学 国際協力出前講座授業、探究学習関連の聞き取り・授業見学、授業力アップセミナー			
■受入時期・期間			
2025年10月～11月までの2ヶ月間、ただし8月の平日や週末（24, 25日）に参加活動あり		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：教師海外研修の国内研修参加必須のため	可	週2～3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	持続可能な社会づくりの担い手を育てることに對して高い関心を持っていること		
望ましい	教職課程履修者であればなお望ましい		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 授業見学等の際の少額交通費			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
東京センターには宿泊施設もありますが、JICA研修員の滞在目的に設置されている施設であるため、宿泊施設を利用しながらインターンに参加いただく場合は、各自で予約していただき、空室がある場合にのみ利用可能となります。（5,300円/泊）			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国11
■部署名：	横浜センター	■募集人数（人）	2
■課名：	総務課		
■テーマ			
海外移住資料館の教育プログラムおよび広報・イベント業務補佐			
■テーマの概要			
JICA横浜には海外移住資料館が併設されています。同資料館では、広く一般の方々（特に中高生等）に、日本人の海外移住の歴史、移住者とその子孫である日系人についての理解を深めてもらうことを目的とし、教育プログラムや広報活動を行っています。日本に居住する日系人の存在や活躍が知られるようになっている今日、日本の多文化共生社会の一例とも言われる日系人に関する当資料館の教育プログラムは、人権学習や国際理解教育においても活用されています。 2022年4月には開館20周年の節目を迎え、展示室を一部リニューアルし自治体、教育機関、福祉施設など、より多くの方にご活用いただくことを目指しております。 本ポストでは、海外移住資料館の広報発信やイベント実施の業務補佐を想定しています。同世代の方向けのイベントや広報、またオンラインを活用した児童・生徒向けのコンテンツ作成、来館者（小中高の児童・生徒、企業等を含む一般成人等）向けの教育プログラムの提案も期待しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. 海外移住資料館業務の補助：横浜センター併設の海外移住資料館にかかる広報業務補佐、イベント実施、オンラインを活用したコンテンツ作成および来館者向け教育プログラムの補佐等 2. 日系社会連携に関連する研修関連活動の補助：研修同行、広報、イベント実施等 3. その他、よりよい資料館運営のための提案、興味関心のあるテーマについての調査など			
■参考情報			
横浜センターURL: https://www.jica.go.jp/domestic/yokohama/index.html 海外移住資料館URL: https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
夏休み資料館イベント（8月予定）、コーヒーフェスティバルへのブース出展（9月予定） 多文化共生、国際理解教育に関する研修、イベント、日系社会研修への同行等			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年1月までの3ヶ月間程度（2週間からの受入も可）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週3回、3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	日本人の海外移住の歴史、海外・国内の日系人・日系社会に関する基礎的な知識		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		8,000円/泊	
■備考・留意点			
基本的に横浜センターでの活動を想定しています。 活動日は、月～金です。土日祝は基本的にお休みですが、イベントがある場合は、活動していただくことがあります。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国12
■部署名：	横浜センター	■募集人数（人）	2
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
JICA横浜 研修運営業務 ～対外発信と改善提案～			
■テーマの概要			
開発途上国の国づくりに寄与する人材を育成する目的で、JICA横浜では年間800名近くの研修員の受け入れを行い、神奈川県・山梨県内の官公庁や大学、民間団体等の協力のもと、水産、港湾、航空、国土開発、上水道、環境など多岐にわたる研修を実施しています。また、その他、日系研修、長期研修も実施しています。 本インターンシップ・プログラムでは、JICA横浜で実施する研修事業を実際の業務を通じて体感いただくとともに、参加者の視点から同事業を観察・評価いただき、その中で得られた気づきを対外発信や業務の改善につなげることを目的としています。 1名は短期研修中心に、1名は長期研修中心に対応頂くことを予定しています。 また、2025年8月には横浜市でアフリカ開発会議TICAD9が開催される予定ですので、連携イベントなどにも携わって頂きたいと考えています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
参加者の関心・希望をヒアリングした上で、以下から内容を決定します。 （１）研修・イベント運営補助 インターンシップ期間中に実施される研修・イベントの運営業務の補助を行います。 （２）広報記事の企画・作成 インターンシップ期間中に実施される研修・イベントについて、JICA横浜のホームページおよびFacebookに掲載する広報記事の企画・作成を行います。広報のターゲットや記事の構成は、参加者自身が提案することを想定しています。 （３）JICA開発大学院連携「地域理解プログラム」の実施補助 標記における視察プログラムの企画及び実施を補助し、その結果をJICA内外へ報告します。 （４）研修員とのネットワーク強化に向けた検討・提案 研修を修了した研修員とのネットワークを強化・活用する方策を検討し、提案します。SNSやオンラインツールの活用方法やネットワークを活用したイベントの企画などを行います。			
■参考情報			
JICA横浜 研修員受入事業 https://www.jica.go.jp/yokohama/enterprise/kenshu/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
受入期間中に実施される各種研修・イベント			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：業務内容に時期による制約がないため	可	週3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	技術協力・人材育成に対する高い関心		
必須	Microsoft OfficesやTeamsを利用する基本的なPCスキル		
必須	研修員とコミュニケーションが可能なレベルの英語力		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式 ☐ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		8,000円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国13
■部署名：	横浜センター	■募集人数（人）	2
■課名：	市民課		
■テーマ			
1) 民間連携事業に係る情報発信 2) 川崎国際環境技術展におけるJICA留学生と出展企業の交流推進			
■テーマの概要			
テーマ1) 持続可能な開発を実現するため、さまざまな関係者の連携が重視されていまして、民間企業の技術やアイデアによる貢献も期待されています。JICA横浜が担当しています神奈川県および山梨県の企業の、途上国の課題解決に資する活動について周知するための、インターン参加者のアイデア溢れる発信活動の提案をお待ちしています。 テーマ2) 2025年11月中旬に予定されている川崎国際環境技術展において、JICA留学生と出展企業の情報交換・意見交換を推進する。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
テーマ1) 情報発信の目的および手段・方法を提案にまとめ、了承を得られた案件は以下の段階に進む。 （以下の、1点目から3点目を、同時並行ならびに繰返して仮説検証しながら改善する） ・ 目的を達するため刺さる情報発信のマーケティング ・ 発信情報の素材収集・取材 ・ さまざまな発信方法の試行とモニタリング テーマ2) JICA留学生に向けた参加案内・勧奨に係る支援、出展企業の事前情報収集・事業概要確認、JICA留学生と展示ブース訪問先の相談・調整、JICA留学生の展示ブース訪問に同行して意見交換の促進支援、JICA留学生への質問票の作成と回答の集計・分析とフォローアップ			
■参考情報			
・ 民間連携事業 < https://www.jica.go.jp/priv_partner/index.html > ・ JICA横浜 < https://www.jica.go.jp/yokohama/index.html >			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
・ 支援機関等によるセミナー等 ・ 2025年11月中旬 川崎国際環境技術展			
■受入時期・期間			
2025年10月～11月までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	インターン活動の提案		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		8,000円/泊	
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国14
■部署名：	北陸センター	■募集人数（人）	4～6
■課名：	業務課		
■テーマ			
北陸3県におけるJICA北陸と地域との共創促進			
■テーマの概要			
昨今の少子高齢化、過疎、地域産業の衰退といった北陸3県が抱える地域課題は、開発途上国に近い将来に生じる諸課題と多くの共通点を有していることから、JICA北陸では、これらの双方の課題に対して一元的な視点をもって、地域のパートナーとの共創・協働を通じた課題の解決に取り組んでいる。 本インターンシップ・プログラムでは、北陸3県において地域課題・地球規模課題（SDGs等）の解決に取り組んでいる団体や個人を調査・ヒアリングし、その課題への理解を深めるとともに北陸地域と開発途上国の課題解決のために共創できるパートナーを探索し、JICA北陸との今後の連携を検討・提案することを目的としている。 取り上げる課題等については、各県の特徴を鑑みた上でインターン生間、JICA北陸との相談の上でテーマ選定する。 想定されるテーマ例： ・富山県：コンパクトシティ、スマートシティ、再生可能エネルギー、地元資源を活用した産業振興、外国人材との共生等 ・石川県：里山里海（生態系保全と経済活動）、SDGs教育、観光産業と地域経済等 ・福井県：外国人材の適切な受け入れ促進、高齢者福祉、教育等			
■具体的なインターンシップ活動内容			
インターンシップ活動としては、地域課題への理解・分析、取り上げる課題の選定、候補団体の抽出、当該団体等へのコンタクト、同意を得られた団体等への訪問・ヒアリングの実施、JICAと連携した地域課題解決のモデル検討をJICA北陸スタッフと協働しつつ実施する。その調査結果を報告書に取りまとめ、JICA北陸へ提案することが期待される。なお、複数名参加の場合は、各々の取り組み内容に相互にインプットし合い、発表内容をインターン生間でひとつにとりまとめることも奨励する。 想定されるインターンシップ活動の流れ： ①地域課題について知る ②扱いたい地域課題の選定 ③②に取り組んでいる組織の調査・ロングリストの作成 ④③からショートリストを作成し、インタビューや視察による調査を行い、JICAとの連携を探る ⑤インターン生間でとりまとめ、JICA北陸への提案発表			
■参考情報			
JICA北陸： https://www.jica.go.jp/domestic/hokuriku/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
JICA北陸と地域のステークホルダーとの面談、共創の活動現場への同行が可能。			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までの1～2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：大学の休暇期間等にあわせて実施期間変更は応相談。	可	週1、2回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	未知の団体関係者にコンタクトし、各種ヒアリング調査をおこなうため、対人関係において積極性を有する方が望ましい。		
望ましい	テーマ、活動計画策定等はJICA北陸スタッフのサポートのもと、インターン生主導で決定・実施するため、自ら積極的に考察・提案・活動できる方が望ましい。		
望ましい	複数名のインターン生による協働が想定されるため、チームワークによる作業を積極的にできる方が望ましい。		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		10,000円/泊	
■備考・留意点			
本インターンシップでは一部リモートで活動を行うことも可とするが、対象地域である北陸3県（富山、石川、福井）を実際に訪問する機会を設けることを必須とする。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国15
■部署名：	中部センター	■募集人数（人）	1
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
長期研修員（JICA留学生）受入れ支援を中心とした業務補助			
■テーマの概要			
「JICA開発大学院連携」では、国内の大学と連携し、開発途上国の将来を担う意欲と能力を持った人材（JICA留学生）を日本に招き、大学の学位課程の中で専門分野の教育・研究に加え、日本の近代の開発経験と戦後の援助実施国（ドナー）としての知見の両面を学ぶ機会を提供しています。 プログラムの一環として、日本の郷土史や開発経験を学ぶさまざまな「地域理解プログラム」を実施しており、日本各地で培われてきた地域特有の開発事例を題材とし、地域に根差した具体的な開発事例を学ぶことで、JICA留学生が日本の開発経験に対する理解を深め、その学びを母国の開発にも活かしていくことが期待されています。 本プログラムでは、関連施設の視察や体験のみならず、開発事例の歴史的考察・講義、参加者間でのディスカッション・ワークショップの開催を予定しており、留学生はより実践的な知識や経験を得ることができます。 JICA中部では過去に、「四日市公害」「静岡県中西部茶業」「愛知県なごやめし」「伊賀忍者」をテーマに実施しました。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・地域理解プログラム運営支援補助 今秋に計画する地域理解プログラムの企画や調整、広報業務、また当日運営や実施結果をとりまとめ、次年度計画への改善点などの提言を行います。本業務を通してJICAの国内事業への理解、および企画立案や内容調整/当日運営/評価など、一連のイベント実施の流れの体験から、業務実施に必要な企画力や調整力などを学ぶことが出来ます。 ・広報支援業務補助 当課が管理するHP上での情報更新や情報発信のサポート業務を担っていただきます。また、JICAやJICA中部が実施するイベントの広報素材作成や、ブースでの広報業務から、JICA事業の発信や理解促進、及び地域社会の繋がり等を理解する事が出来ます。			
■参考情報			
JICA中部研修員受入れ事業 https://www.jica.go.jp/domestic/chubu/activities/kenshu/index.html JICA開発大学連携/JICAチェア https://www.jica.go.jp/activities/schemes/dsp-chair/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
・地域理解プログラム ・インターン実施期間中の来日研修へのオブザーバー参加 ・JICA留学生との面談 ・JICAやJICA中部が出展するイベント 等実施時期に応じて検討			
■受入時期・期間			
2025年9月～11月までの3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	可	週1～2回、3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	JICA留学生と英語で会話ができること（TOEIC730～800点程度）		
必須	自ら進んで活動に取り組む自主性・積極性、協調性があること		
望ましい	イベント企画・運営経験があること		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,000(昼食目安)円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
・業務上発生する交通費については別途支給いたします。PCは希望があれば貸出し可能ですが、執務室外への持ち出し禁止のため、外出先及び在宅作業用についてはご自身のPCをご用意ください。 ・インターンシップ期間中に空きがあれば中部センターの宿泊施設を利用いただけます。（5,300円/泊）			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国16
■部署名：	関西センター	■募集人数（人）	11
■課名：			
■テーマ			
関西における国内事業全般（総務課、研修業務課、開発大学院連携課、市民参加協力課、企業連携課のいずれかに配属）			
■テーマの概要			
関西センターは、関西の2府4県（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県）のJICAの拠点として、多岐にわたるパートナーとともに、開発途上国のリーダーを育成する事業、自治体・大学・NGO/NPO、企業など地域の皆さんの知見や経験を開発途上国の課題解決に活かす事業、次世代の国際協力人材を育成する取り組みなどを行っています。中でも、阪神・淡路大震災の経験・教訓を様々な形で開発途上国に伝える取り組みは、関西センターの大きな特徴の一つとなっています。 本インターンでは、関西センターが行うJICA事業、そして日本でできる国際協力事業について理解することを目的とします。JICA関西HP・SNSを参照の上、インターンで活動してみたいテーマや内容を具体的に提案ください。インターン生の研究分野・興味関心と各事業の年間スケジュールを考慮の上、配属課を決定します。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・途上国の行政官・研究者等を招いての日本での研修実施（短期技術研修員受入事業） ・途上国の将来のリーダーとなるJICA留学生受入れ、日本文化理解プログラムの実施 ・自治体・大学・民間企業による国際協力への参画支援 ・一般市民や青少年が国際協力への理解を深めるための啓発事業 ・大学・高校・小学校との連携による開発教育支援事業 ・NGO 支援事業 ・多文化共生・外国人受入支援 ・SDGs推進 ・イベント開催を含む広報事業等 ※各事業詳細はJICA 関西のHP、SNS(X、Instagram)を参照のこと。			
■参考情報			
JICA関西ホームページ 更新情報 https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/information/topics/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
期間中に実施するイベント（市民向け、留学生や研修員向け、在留外国人向け等）、短期技術研修への同行、開発教育の講座への同行			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までのうち約2ヶ月間程度（期間は応相談）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2、3回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Officeの操作経験		
望ましい	日常会話レベルの英語能力（TOEIC600点程度）		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 外勤時の交通費（交通系ICカード貸出）			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
・週に2～3日を2か月程度参加可能な方を歓迎いたします。 ・具体的なインターンシップ内容は上記を想定していますが、取り組んでみたい特定の活動やテーマ等のアイデアがある場合には、応募申請書に提案を記載して下さい。また、インターン発意による企画の計画・実施も歓迎します。 ・空室があればJICA関西に宿泊可能です（1泊5,300円・朝ごはん付）			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■ 受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国17
■ 部署名 :	中国センター	■ 募集人数 (人)	2
■ 課名 :	市民参加協力課		
■ テーマ 広島県における外国人材受入・多文化共生に係る連携事業の提案			
■ テーマの概要 JICA中国がある東広島市は外国人住民の割合が広島県内で最も高い自治体であり、現在5%を超えている。JICA中国は東広島市と多文化共生及び多様な人材の活躍推進を目的に連携覚書を締結し、多様性のある地域社会の構築へこれまで以上に貢献していく。そのためには、東広島市役所、大学や高校、日本語教室を含む市民団体や外国人当事者コミュニティなど、様々な関係者との連携が不可欠となっている。本テーマでは、外国人材受入・多文化共生への関わり方をテーマに、イベントの企画・企画運営等を通じてJICAとしての具体的な関わり方を提案してもらうことを狙いとする。			
■ 具体的なインターンシップ活動内容 ・ 東広島市を中心とした外国人材受入・多文化共生関係者への課題等聞き取り、それをふまえた小規模イベントの企画・準備・実施 ・ JICA中国の事業への参加、業務体験およびそれらの広報活動 ・ 上記の経験をふまえて外国人材受入・多文化共生に資するJICA中国の取組みを提案する。			
■ 参考情報 インターンの業務の成果としてのHP掲載記事の例 https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/information/topics/2024/2024_s19.html https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/information/topics/2024/2024_s25.html			
■ 参加(同行)可能な行事・視察等 出前講座、JICA中国施設見学、市民向けイベント、教員研修、研修コースなど			
■ 受入時期・期間			
2025年8月上旬～9月中旬までの1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由 :		不可	
■ 希望する人材 (大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生ともに可			
■ 応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	自ら進んで活動に取り組む自主性、積極性があること		
必須	学生から社会人まで、多様な立場と年齢の関係者から自然な形で想いや取り組みを聞くことのできる傾聴力・質問力・コミュニケーション力		
望ましい	他のインターン、就職活動、アルバイトと重複をできるだけ避けること		
■ 提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他 (提供可能な事項) :			
■ 滞在費目安		■ 宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■ 備考・留意点 中国センターのある東広島市西条にはホテルの数が限られることから、インターン合格後速やかに宿泊手配等を進めることを推奨します。広島市内から通う場合、車で約1時間程度と考えておいてください。 ※空きがあれば中国センターの宿泊施設を利用いただけます。(5,300円/泊、朝食代含む)			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国18
■部署名：	四国センター	■募集人数（人）	2
■課名：	業務課		
■テーマ JICA国内事業の広報を考える			
■テーマの概要 JICAは海外のみならず、日本国内にも15か所の拠点を有し、国内でも事業も実施しています。 四国センターでは、四国4県（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）の自治体、大学、団体、企業等のご協力を得て、研修事業、海外協力隊事業、市民参加事業、民間連携事業、開発教育等の活動をおこない、開発途上国における課題の解決に寄与しています。 また、最近では、外国人材受入、多文化共生を含む、四国の社会・経済への貢献や地域との共創により一層力を入れています。 これらの取り組みを地域の皆様に広く発信し、JICAの認知度向上や事業への理解促進を図ることも重要であると考えています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・ JICA長期研修員（留学生）向けに実施する地域理解プログラム 別子銅山コース（愛媛県新居浜市）（2泊3日）の運営補助、ならびに広報用レポート作成。 ・ JICA国際協力推進員が実施するイベント等の補助、ならびに広報用レポート作成。 ・ JICA四国のプロモーション動画の作成。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/domestic/shikoku/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 地域理解プログラム 別子銅山コース（愛媛県新居浜市）			
■受入時期・期間			
2025年8月中旬～下旬までの2週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
調整不可	理由：上記の行事実施時期に合わせて受け入れるため	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☐ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
4,000円/日		11,000円/泊	
■備考・留意点 四国4県の大学生を歓迎します。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国19
■部署名：	九州センター	■募集人数（人）	1
■課名：	総務課		
■テーマ			
JICA九州センター広報			
■テーマの概要			
JICA九州センターの業務は全て広報とつながっている。九州センターは研修事業（短期の課題別や長期の大学院連携）、市民参加協力（海外協力隊員の募集・広報、出身地での支援・調整、開発教育、多文化共生、NGOや行政との連携）、企業連携（企業の海外進出による開発を支援する事業）を主に実施している。本インターンシップ実習では、九州センターのウェブサイト改善を行う。合わせて九州センターの業務を多角的に捉え、広報全般について現状を把握、分析し、改善または新規提案を行い、これを実施する。ウェブデザインや構築、広報に関心がある方のインターンシップ参加を求めている。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. JICA及び九州センターの組織目標の理解と把握。 2. 広報、特に九州センターウェブサイト、SNS発信に関する課題分析。 3. ウェブサイトおよび広報改善または新規提案。 4. ウェブサイトおよび広報改善または新規提案の実行。 5. 関係者への報告・共有。 広報には終わりがなく、また幅広いテーマであり、インターン生の外部から見える視点も活かしながら自由な発想と提案、実行が求められる。			
■参考情報			
JICA九州のウェブサイト https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
JICA事業を理解するために、セミナー等の様々なイベント、研修や海外協力隊関係会議への参加を奨励する。例えば以下の通り。 1. 九州センターが実施する技術協力プロジェクトの活動に同行し、現場での活動を体験する。 2. 課題別研修の講義や討論に参加し、研修員との交流を通じて異文化理解を深める。 3. 九州地域の自治体や企業等が実施する国際協力関連のイベントや活動に参加し、多様なステークホルダーとの連携を学ぶ。			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年2月までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語及び英語以外の外国語		
望ましい	デッサン力、デザイン力、Webデザイン・構築経験		
望ましい	九州の発展への関心を有すること		
■提供可能な執務環境等			
☐ 完全対面形式 ☒ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500 円/日		2,700円/泊	
■備考・留意点			
企業・組織・事業所広報に関心がある方、ウェブデザインに関心がある方の応募を期待しています。 九州センターはインターン実習学生向けに特別宿泊料金（一泊2,700円）を設定しましたので、ご活用ください。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国20
■部署名：	九州センター	■募集人数（人）	1
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
JICA九州研修員受け入れ（マレーシア青年研修/地方行政）の準備と実施支援			
■テーマの概要			
JICA九州では2025年10月中旬から約2週間マレーシアからの研修員9名を受け入れ、主に熊本県人吉球磨地域を中心とした少子高齢化が進む日本の中山間地域における経済振興や地域防災の取り組みを学ぶための視察型研修の実施を計画している。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・熊本県庁、他地域の市町村や大学等から提供される研修資料の内容確認、整理等の準備業務補助 ・研修プログラムの対外広報資料（プレスリリース、JICA九州HPへの研修リポート）の作成補助 ・研修期間中に実施する日本文化を知るための交流プログラムの企画、実施補助 ・研修に同行し、研修員の理解促進のサポート業務を行う。			
■参考情報			
研修員受入事業とは https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/activities/kenshu/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
マレーシア青年研修（25年10月中旬から3週間程度実施予定）			
■受入時期・期間			
2025年8月～11月までの最大3ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：準備段階の参加、実施段階の参加の場合は面接で相談願います。	可	週3回、2ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	TOEIC700点相当		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		2,700円/泊	
■備考・留意点			
・インターンシップ期間中（一部期間でも）希望があれば九州センターの宿泊施設を利用いただけます。（インターンシップ学生特別料金2,700円/泊、朝食付）			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国21
■部署名：	九州センター	■募集人数（人）	2
■課名：	市民参加協力課		
■テーマ			
九州地方の市民参加協力事業の一般市民へのアウトリーチ強化、活動活発化の各種企画の立案及び実施支援			
■テーマの概要			
JICA九州の市民参加協力課では、九州地方の開発教育/国際理解教育業務は草の根技術協力事業に関連し、活動活発化の各種企画の立案・実現に取り組んでいる。これら業務の魅力向上、利用促進努力が欠かせず、学生インターンの関与を得ることで、新しいアイデアを取り込み、実行に移すことが常に必要なとなっている。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
市民参加協力課が取り組む草の根技術協力・JICA基金、開発教育/国際理解教育について、以下に取り組む。 【草の根技術協力・JICA基金事業】 ①関連する各アクティビティや魅力度に対する気づきの提供（含む、提案）、②九州地方の草の根技術協力・JICA基金の潜在的利用者の情報収集・データベース化、③利用促進イベントの企画・実行への従事。 【開発教育/国際理解教育】 ①JICA九州が取り組む開発教育事業の各アクティビティや魅力度に対する気づきの提供（含む、提案）、②開発教育イベントの企画・実行への従事、③開発教育に対する潜在的ユーザーへのアウトリーチ強化に繋がる各種グッズの開発と製作（参考：2024年度では、学生インターンがJICA九州SDGsカルタを企画・製作）*完成品は以下「参考情報」を参照。*アイデアレベルであるが、JICA九州の来訪者への案内役も考えられる。			
■参考情報			
開発教育/国際理解教育：JICA九州SDGsカルタ（2024年度学生インターン企画・製作） https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/activities/kaihatsu/index.html#karuta			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
インターンシップ活動の開始時期にもよるが、インターンシップ期間中の以下への関与が想定される：①高校生国際協力実体験プログラム、②教師海外研修に関する事前研修、③開発教育指導者研修（全4回シリーズ）、④わっしょい百万夏祭り（JICA参加グループ部分）（2025年9月開催予定）、⑤草の根技術協力・JICA基金関連の利用勧奨イベント等への参加、その他。			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの2～3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：各種企画の立案・実施に必要な期間の確保。		可	週3～5回、2～3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	基本は日本語による会話や書類対応であるが、英語資料の一読に意欲的であることが望ましい。		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☒ PC貸出	☒ 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 原則として対面。			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		2,700円/泊	
■備考・留意点			
・インターンシップ期間中（一部期間でも）希望があれば九州センターの宿泊施設を利用いただけます。（インターンシップ学生特別料金2,700円/泊、朝食付）			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国22
■部署名：	九州センター	■募集人数（人）	2
■課名：	企業連携課		
■テーマ 中小企業・SDGsビジネス支援事業（JICA Biz）に関連する情報収集、広報ツールの作成			
■テーマの概要 中小企業・SDGsビジネス支援事業（JICA Biz）は日本企業が開発途上国でビジネス展開する際の支援を行うプログラムです。企業の海外展開を通じて現地の社会課題解決に貢献し、持続可能な成長を目指すのが特徴です。九州センター企業連携課では九州地域7県（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県）を所管し、自治体、地域金融機関等と共に、企業の海外展開を支援しています。 JICA BizはJICAの中では比較的新しい施策であるため、九州域内のより多くの企業に施策を知ってもらうべくセミナーやイベントで説明を行ったり、九州に特化した経済誌で情報発信を行ったりしています。 インターン生の方にはインターンシップの活動を通じて、中小企業・SDGsビジネス支援事業への理解を深めていただき、関連情報の情報収集を行ったり、採択企業連絡会や広報ツール作成などの業務補佐を行っていただくことを想定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 中小企業・SDGsビジネス支援事業に関連する情報収集 九州経済誌等に掲載されている情報をもとに、中小企業・SDGsビジネス支援事業の活用可能性がありそうな情報を収集し、継続的に活用できるリストにまとめる。 2. 採択企業連絡会 中小企業・SDGsビジネス支援事業に採択された九州圏内の企業を対象に企業間のネットワーキングや事業実施における課題・教訓の共有を目的に企業連絡会を開催予定。同連絡会の企画、運営に関わる活動を行うことを想定。 3. 広報ツール作成 九州圏内の企業にJICAの支援施策を知ってもらうため広報ツールを作成予定。広報ツール作成に係る活動に関わってもらうことを想定。			
■参考情報 中小企業・SDGsビジネス支援事業 https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/index.html 九州センターの民間連携事業Webページ https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/activities/priv_partner/index.html 2024年度企業連絡会開催報告 https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/information/topics/2024/1563212_52260.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ・企業との面談にオブザーバー参加			
■受入時期・期間 2025年8月～9月の最大2ヶ月間程度／2026年1月中旬～3月中旬までの最大2ヶ月間程度 フルタイム以外の活動体系の可否 上記期間内での調整可 理由： 可 週3、4回、1ヶ月間程度			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等 ☒ 完全対面形式 ☐ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		2,700円/泊	
■備考・留意点 ・インターンシップ期間中（一部期間でも）希望があれば九州センターの宿泊施設を利用いただけます。（インターンシップ学生特別料金2,700円/泊、朝食付）			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	25-2国23
■部署名：	沖縄センター	■募集人数（人）	1
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
中南米地域の日系社会と沖縄の連携強化及び日系社会の活性化			
■テーマの概要			
沖縄県の海外移民が1899年に始まってから、125年ほどが経過しようとしている。現在、中南米における日系移住地では、日系3世、4世と世代交代が進み、ルーツである「沖縄」を感じることができない世代が増えている。日系社会研修「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化」では、中南米地域の日系社会にて活躍することが期待されている次世代のリーダー達が参加し、沖縄の歴史や文化を学びながら、自身のルーツを再確認し、各国の日系社会の活性化に向けたアクションプランを作成する。日本有数の移民県である沖縄県は、各国の日系社会・県系社会とのつながりを重要視しており、ルーツ調査の取り組み、次世代へのネットワーク継承に向けたプラットフォームの設置、移民関連の公文書の公開、「世界ウチナーンチュ大会」の開催など、さまざまな取り組みをしている。研修への参加や、研修員への個別インタビューなどを通じて、中南米地域と日本、沖縄の日系社会連携強化について学び、沖縄県の取り組みとJICAの研修の相乗効果や、研修に取り入れるべき項目などをレポートにまとめる。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・日系社会研修「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化」への参加（10月上旬～11月上旬）。 ・上記研修への参加を通し、研修運営サポート及び研修員の理解が促進されるような議論への参加など、研修の質の向上に寄与する活動。 ・県が主催する日系社会連携関連、世界ウチナーンチュ大会関連イベントへの参加。 ・その他、日系社会連携事業（オキナワ・沖縄の過去・現在・未来～教員・若者の交流を軸に未来を作ろう～等）への参加、サポート。			
■参考情報			
・機会があれば、近隣在住者は事前に「JICA横浜移住資料館」への訪問をおすすめします。			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年10月上旬～11月上旬までの1ヶ月間程度（研修全日程の参加が望ましい）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：研修実施期間があるため	可	週3回以上
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式 ☐ 一部リモート可 ☒ PC貸出 ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
JICA沖縄センターの宿泊費は朝食込みで5,300円/泊。 JICA沖縄センターから徒歩5分の距離にモノレール（経塚駅）があり、そこから20分以内の都心周辺にはウィークリーマンションもあり、素泊まりで4,000円程度で宿泊可能な施設を見つけることができます。 ・昨年度のインターン生より、インターンシップ前にしておけば良かった点として下記3点があがっています。 ①JICA日系社会研修事業について概要を事前学習しておくべきだった（https://www.jica.go.jp/overseas/america/outline.html） ②海外移民の歴史について知ること。具体的には、JICA横浜にある海外移住資料館に行くべきだった。（https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html） ③インターン指導担当者にインターンシップ前にやるべきことはないか質問をしてみる（いつでも大歓迎です！！）。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在01
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 東南アジア		■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名	マレーシア事務所		
■テーマ			
JICA海外協力隊及びJICA技術協力プロジェクト等関連広報業務、対マレーシアODA70周年のための広報媒体の作成			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
マレーシアは、今年ASEAN議長国を務め、高所得国入りを目指し目下様々な取り組みを実施している。JICAもこれまでマレーシアの開発に寄与するプロジェクトを数々実施してきており、2026年には日本の対マレーシアODAは70周年を迎える。 今次募集するインターン活動では、現在マレーシアに派遣されている約20名のJICA海外協力隊員へのインタビューや各種技術協力プロジェクト等の取材・調査を行い、記事やパンフレット等を作成することを想定する。世界的にODAの意義が問い直される中、JICAのプレゼンス確保、JICA協力の成果最大化が求められており、インターン生には成果の対外的な発信とマレーシアODA協力70周年に向けた準備の一端を担っていただく予定。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・ JICA海外協力隊へのインタビュー実施・広報記事の作成 ・ 対マレーシア協力70周年に向けた広報媒体（パンフレット・チラシ・動画等）の作成 ・ 外部訪問者（学校訪問）に対するJICA事業についての説明（開発教育の実施） ・ 技術協力プロジェクト等の現場や協力隊活動の視察、取材、調査 ・ JICAマレーシア事務所広報媒体（ウェブページ、SNS、広報資料）の発信力向上に向けた改善策の提案・実行 ・ 会議議事録の作成など、実務体験			
■参考情報			
・ 国別開発協力方針（マレーシア） https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000072250.pdf ・ JICAウェブサイト（マレーシア） https://www.jica.go.jp/overseas/malaysia/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
インターン生の興味・関心も踏まえつつ、視察先を調整（協力隊活動現場、プロジェクトサイトなど）。			
■受入時期・期間			
2025年9月の1ヶ月間程度			
調整不可			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語で情報収集できる程度の基礎的な英語力を有すること（目安：TOEIC730点以上）		
■提供可能な執務環境等			
☒ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		8,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
無し。推奨される予防接種については、厚生労働省検疫所ウェブサイトを参照。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
滞在所：クアラルンプール（治安上大きな問題無し）			
■備考・留意点			
宿泊費は、1か月単位で予約すれば大幅な割引を受けられる宿泊場所もあります。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在02
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 東南アジア		■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	カンボジア事務所		
■テーマ			
カンボジアにおけるJICA事業の概要・成果の取り纏めと対外発信			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
カンボジアの課題解決に向け、JICAは様々な協力を行っています。カンボジア事務所は2025年、特にカンボジア国内の若い世代を対象にJICAの事業や成果を発信し、JICAや日本の取り組みをより身近に感じて貰い、さらにはカンボジアの将来の国造りについて一緒に考えるきっかけにして貰えるよう「Empowering Cambodia, Together with Japan」又は「Bridging Dreams : Cambodia Meets Japan」をテーマとした広報活動を年間を通じて実施したいと考えています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
詳細はご相談させて頂きたいと考えていますが想定している主な活動は次のとおりです。 ①カンボジアにて実施中のJICA事業概要、実施中のプロジェクトの特徴、目的、目指している成果の把握（机上調査、インタビュー） ②上記①を踏まえ、実施中の各プロジェクトの概要や進捗、成果を発信する英文・和文資料（PPT2ページ/1案件）の作成 ③実施中にプロジェクトからいくつかを選び、広報用のショート動画の作成補佐 これらの活動を実施するため、JICA事務所員からの説明、プロジェクトで活動されている専門家などの皆さんとの意見交換やインタビューなどの機会を提供しますので、国際協力への理解を深めて頂けると考えています。また、関心をお持ちのプロジェクトに入り実際に活動を体験する機会も出来る限り用意したいと考えています。			
■参考情報			
https://www.facebook.com/share/161u31jcjX/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
インターンシップ実施時期にもよりますが、実施中のプロジェクトへの一部参加、各種会議への同席などを想定。詳細は時期や希望を踏まえてご相談して下さい。			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までの1ヶ月間程度			
上記期間内での調整可	理由：		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	関係者と簡易なコミュニケーションが可能なレベルの英語力		
■提供可能な執務環境等			
☒ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000～3,000円/日		6,000～7,500円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
入国上の条件となっている予防接種はありません。狂犬病、A型、B型肝炎の予防接種を推奨。			
■滞在場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
プノンペン市内の宿泊を想定。治安は安定しているもののスリなどは少なからず発生しており貴重品の持ち歩きを必要最小限にするなどの留意は必須。渡航経路は経路便の利用となるが、ベトナム、タイ、韓国経由など多数あり選択の際に特に留意すべき点はありません。			
■備考・留意点			
本ポストはJICA側で全てを準備し提供するものではなく、インターン生の主体的な活動をご支援することを想定しています。この点をご理解頂き、主体性をもって活動出来る方のご応募をお待ちしております。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在03
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 大洋州		■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名 パラオ事務所			
■テーマ			
ODAが深める「トクベツ」な絆～日本・パラオの関係強化に向けた検討及び広報活動			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
パラオは人口18,000人の小島嶼国で、世界有数の美しい海で知られています。1914年から1945年まで日本の南洋群島の一部として委任統治されていた歴史があり、当時の名残で今も多く日本語由来の言葉がパラオ語として使われています。「トクベツ」もその一つです。第二次世界大戦ではペリリュー島等が激戦地となり、その後米国による信託統治を経て1994年に独立しました。 JICAは独立からほどなくして1997年に拠点を構え、以来30年弱に渡ってODAを通じ日バ関係の強化に貢献してきました。その一方、戦後80年が経過し日本統治時代のことを知る方は数少なくなり、日本語由来のボキャブラリーも減り、また観光業でも日本人観光客が占める割合が減少するなど、両国関係を考える上での不安要素も見え始めています。そうした中で、今後も日バ関係を維持・強化していくためには、JICAの活動やその広報活動も常に発展し続けなければなりません。 本インターンシップではこうした背景を踏まえ、日バ関係の強化のためにODAに何ができるか、どのような協力や広報が有効かについて日々の活動を補佐する中で考えを深めていただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
関心分野や渡航希望時期、事業の今後の進捗状況等によって受入期間中に体験可能な活動は変動しますが、一例として以下のような分野が考えられます（実際の活動はこれに限らない）。 ①遺産保全分野：現在JICAは日本統治時代の遺産を有効に保存・活用するための協力を検討しており、その開始に当たってパラオ国内でキックオフイベントを開催することも検討しています（時期未定）。同イベントの企画・運営や事業開始に向けた準備作業に関与いただける可能性があります。 ②観光分野：JICAは観光局に専門家を派遣するとともに、その他の協力においてもパラオ経済の要である観光業の振興に繋がるような活動を積極的に企画しています。今後どのような活動を強化すればパラオが日本の若い世代にとってより魅力的な観光地になることができるのか、分析・提案いただきます。 ③地域振興：パラオは小規模な島嶼国であるため、日本の知見を活用する中でも都市部ではなく島嶼部の知見がより有用であるケースが多く存在します。これを踏まえ、日本の島嶼部での取り組みについて情報収集いただき、パラオの文脈に適したものがあるかについて分析・提案いただきます。			
■参考情報			
現在パラオでは2件の無償資金協力（電力・橋梁）と約10件の多様な分野での技術協力（環境・水産・農業・観光・保健・インフラ等）を実施しています。また、約30人のJICA海外協力隊員が活動しています。参加者の関心や希望時期、事業の進捗状況に応じてどのような分野を中心に関与したいか相談可能です。			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
遺跡保存関連のイベント・調査等（時期未定）、観光専門家の活動、ペラウ・エコグラスセンター（廃瓶を利用したガラス細工）の活動、水産専門家によるワークショップ、各種協力隊員の活動、等			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までのうち1ヶ月間程度			
上記期間外含めて調整可	理由：大学の夏季休暇中を想定しているが、応募者の事情に応じて柔軟に調整可。冬季休暇中はクリスマスに被るため不可。日本と比べ物価が高いため滞在費の負担を考慮し1か月程度を想定。		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	放し飼いされている犬や野良犬が多く、街ですれ違うこともよくあるため（※狂犬病の危険はほとんどないとされています）、犬が極端に苦手な方はあまりお勧めしません。		
■提供可能な執務環境等			
☒ PC貸出	☒ 携帯電話貸出（必須）	☒ 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）： 事務所内デスク			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
5,000円/日		6,000円～15,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
特になし			
■滞在所の場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
コロール島内にあるJICAパラオ事務所から徒歩圏内に滞在いただきます。日本人観光客も多く、治安は比較的良好とされていますが、凶悪事件の発生例もあるので注意が必要です。標準的な経路は成田⇒グアム⇒パラオ、または成田⇒台北⇒パラオです。			
■備考・留意点			
パラオは一般的に物価が高く、上記のとおり滞在費用は高額になりがちである点にご留意ください。1泊6,000円はマンスリー契約のホテルに空きがあった場合の価格（月1,200ドル）、15,000円は一般的に出張者が利用するホテルの価格帯です（1泊100ドル前後）。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在04
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒東・中央アジア		■募集人数（人）	3
■部署名/事務所名	中華人民共和国事務所		
■テーマ			
中国対外援助機関との交流、政策・援助動向に係る情報収集・分析業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
2022年3月に対中ODAは終了し、現在JICA中国事務所では「新しいODA卒業国との連携にかかるグッドプラクティスの創出」と「中国対外援助機関との交流、政策・援助動向に係る情報収集・分析」を二本柱に業務を実施している。 中国の対外援助は、その存在感がますます大きくなっていることから、JICA内外からの関心・注目度が非常に高いテーマである。中国の対外援助に関する情報を開発機関の視点から継続的に収集・分析することは、JICAにとって重要な業務であり、当事務所としてはこの新たな取り組みを試行錯誤しつつ実施しているところである。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
中国対外援助にかかる公開情報の収集と分析。中国事務所員の指示に基づき、中国内外の論文等に加え、現地報道や論説などから多角的に情報を収集し、分析する。また、中国国内で活動するマルチ・バイのドナーの動きについても必要に応じて情報収集する。インターン期間中に要人訪問やフォーラム開催などの対外援助にかかるイベントがあれば、その情報についても収集する。また、関連機関との面談などがあれば同席予定。			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
中国研究機関・シンクタンク・他ドナー（EU、GIZ等）との面談や関連のフォーラムがあれば参加可 対外援助関係以外にも、活動期間内に所内の出張やイベントがあれば、参加可			
■受入時期・期間			
2025年8月の1ヶ月間程度／2026年1月～3月の1ヶ月間程度			
上記期間外含めて調整可		理由：	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	中国の対外援助に関心がある学生（学部・修士・博士）		
必須	リサーチ業務が遂行可能な日本語（ネイティブもしくは日本語N1取得者）及び中国語能力（ネイティブもしくは中国語HSK6級以上取得者）を有する者		
必須	国籍不問。中国国籍者以外（日本人を含む）の場合、インターン期間に留学ビザを取得し中国滞在が可能であること。		
■提供可能な執務環境等			
☒ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		5,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
特段なし（北京市内）			
■備考・留意点			
・インターン期間は合格後本人と調整可 ・既に現地に滞在されている方を対象としているため、滞在費及び渡航費の補助はありません。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在05
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 東・中央アジア		■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名 モンゴル事務所			
■テーマ			
日本とモンゴルの2国間交流事業への参画を通じた共創と還流（市民参加事業及び民間連携事業）に係わる業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
共創と還流（市民参加事業及び民間連携事業）に係わる業務補佐を通じ、モンゴルにおけるJICA事業や国際協力活動についての理解を深めてもらうとともに、モンゴルの団体・個人と交流することでモンゴルへの興味関心を高めてもらうことを目的とする。 2022年に日モ外交樹立50周年という節目を迎え、両国間の関係は「平和と繁栄のための特別な戦略的パートナーシップ」に格上げされ、10年間（2022年～2031年）の様々なレベルでの行動計画が策定される等、両国間の交流は益々盛んになってきている。モンゴルの現地NGOや大学、日本語教育機関などと連携・協力を希望する日本の大学、高校、NGOや、モンゴルでビジネスチャンスを開拓する日本の民間企業からJICAへの問い合わせも増えており、市民参加事業と民間連携事業は、一層重要になることが見込まれる。 今回のインターンシップ・プログラムで日本とモンゴルの市民レベルの協力と交流の一面に携わることにより、インターンシップ生のキャリアプランに国際協力活動を視野に入れるきっかけとなることが期待される。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
市民参加事業の活動として、夏季に集中する本邦大学生・高校生のスタディーツアー受け入れ対応（会場準備）、JICA教師海外研修プログラムの受け入れ準備（視察訪問先との打ち合わせ、下見など）、ジャパンフェスティバルにおけるJICAブース出展準備（草の根技術協力事業紹介、日本文化紹介）の業務補佐と、事務所Facebook投稿記事作成などの活動をおこなう。 また、当事務所NGOデスクが2021年に作成した、モンゴル国内のNGOの概要を整理した「モンゴルNGOハンドブック・日本語版」の情報更新の他、モンゴルで国際協力活動経験のある本邦団体リストの整理・更新の作業を担当してもらい、モンゴルと日本の連携・協力についての情報収集の成果物として提出してもらう。上記に加えて、民間連携事業の活動として、両国の民間企業関係者が一堂に会し、モンゴルへのビジネス進出の魅力や課題について話し合う、ビジネスフォーラム開催の準備及び当日の運営の補佐をおこなう。			
■参考情報			
関連情報リンク先 ジャパンフェスティバル：https://japanfestivalmn.wixsite.com/home/home ビジネスフォーラム： https://www.bing.com/search?pglt=41&q=%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B4%E3%83%AB+%E3%83%93%E3%82%B8%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%A0&cvid=686472b0ee774c78ba8644e18f54939c&gs_lcrp=EgRlZGdlKgYIABBFgDkyBggAEEUYOTIICAQ6QcY_FXSAQg1NTc5ajBqMagCALACAA&FORM=ANNAB1&PC=U531 モンゴルNGOハンドブック：https://www.jica.go.jp/partner/ngo_support/japandesk/ku57pq00002nusjz-att/ngo_handbook_mon_02.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
ジャパンフェスティバル、ビジネスフォーラム			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの1ヶ月間程度			
上記期間内での調整可		理由：	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
☐ PC貸出		☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		13,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
（任意）A型肝炎、B型肝炎、ポリオ、狂犬病、麻しん			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
在モンゴル日本国大使館よりの安全の手引き https://www.mn.emb-japan.go.jp/files/100733183.pdf			
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在06
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 南アジア		■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	バングラデシュ事務所		
■テーマ 教師海外研修受入にかかる各種業務補佐と事前視察及び研修同行			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 8月上旬から中旬にバングラデシュにて実施を予定している教師海外研修のバングラデシュ側の受入担当補佐として、参加する日本の教員にとって実りある研修にするための準備及び研修実施時の同行を予定。本インターンシップ終了後、機会があれば教師海外研修参加教員の学校での出前講座の実施や参加教員の実践授業視察も実施する。本インターンシップは、インターン生が海外の現場と日本の開発教育の現場をつなげる役割を担うことを目的とする。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・事務所の担当スタッフとともに教師海外研修の現地視察先との調整及び事前視察実施 ・国内センターとの教師海外研修実施に向けた事前調整 ・教師海外研修同行 ・教師海外研修実施後の振り返り及び次年度以降実施に向けた提言案作成 ・（機会があれば）バングラデシュでのインターンシップ終了後の教師海外研修参加教員の所属先学校での出前講座 ・（機会があれば）バングラデシュでのインターンシップ終了後の教師海外研修参加教員の実践授業視察			
■参考情報 JICA東京 教師海外研修 https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/activities/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 教師海外研修			
■受入時期・期間 2025年8月初め～8月下旬までの約3週間 調整不可 理由：本インターン生は教師海外研修の受入にかかる作業を実施することになるため			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 英語によるコミュニケーション			
■提供可能な執務環境等 ☒ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		6,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 必須はなし。破傷風、狂犬病は推奨。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_012.html#ad-image-0			
■備考・留意点 2025年3月現在、バングラデシュは外務省の危険度レベル1となっているが、情勢が変化してレベル2以上になった場合は、本インターンの受入は難しい。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在07
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域		■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名 エルサルバドル事務所			
■テーマ			
JICA技術協力プロジェクト（バリューチェーン振興）の運営補佐を通じ、国際協力の現場で実践的な知識と経験を深める。			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
エルサルバドル「工芸作物バリューチェーン振興プロジェクト」は、国立エルサルバドル大学農学部を配属先機関として、カカオ・バナラ・ハリナシミツパチなどの対象農産物のバリューチェーンを振興し、地域経済の活性化と、特に若者にとって魅力的な農業セクターの形成を目指す技術協力プロジェクトです。 単なる既存市場への対応にとどまらず、新たな付加価値の創出や未開拓市場の開拓を通じて、小規模生産者が持続的に発展できる仕組みを構築しています。 さらに、バリューチェーンの活性化を促す起業家の育成を目的に、農起業家コースを実施し、より高度な知識と実践力を備えた農業ビジネスリーダーを育成する農起業家マスターコースの開設準備を進めています。 インターン生は、プロジェクト業務の補佐を通じて市場創造の考え方を実践の中で学び、バリューチェーンの構築や持続可能な農業振興に関する知識と経験を深めます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
インターン生は、プロジェクトの運営補佐を通じ、プラットフォームの形成を通じたバリューチェーン振興や農起業家育成の実践に携わります。 主な活動は、プロジェクト運営補佐/農起業家コースの実施支援/農起業家マスターコースの開設準備/各種調査・支援です。具体的には、資料作成/データ整理/報告書作成/現地生産者や関係機関との活動にかかる調整/市場調査/バリューチェーン分析などを行います。 また農起業家コースでは、講義資料作成/ワークショップ運営/受講生のビジネスアイデア支援を担当し、マスターコースの開設準備では、カリキュラム検討/教材開発/パートナー機関との調整を行います。さらに、新市場開拓のリサーチ/ブランド開発/対象農産物（カカオ・バナラ・ハリナシミツパチ）の付加価値向上策の検討にも関わります。 フィールドワークとして、生産・加工現場の視察や関係者との交流/地域イベントやセミナーへの参加も予定しています。市場創造の考え方を学び、バリューチェーン振興や持続可能な農業ビジネスの実践的な知識と経験を得る機会となります。			
■参考情報			
プロジェクト背景、プロジェクト報告書を事前に提供可能。 スペイン語での業務が多いため、事前に基礎的なスペイン語を学ぶことを推奨。			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
プロジェクト関係機関（政府・企業・生産者組合等）との会議・視察。/工芸作物の生産・加工現場のフィールドワーク。/プロジェクトや関係機関の開催する各種イベントへの参加。			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの3ヶ月程度			
上記期間外含めて調整可		理由：	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	基礎的なスペイン語能力（日常会話レベルが望ましい）		
望ましい	PCスキル（Word、Excel、PowerPointの基本操作）		
望ましい	農村地域での活動やフィールドワークに抵抗がないこと、国際協力や農業ビジネスに強い関心を持ち、主体的に取り組めること		
■提供可能な執務環境等			
□PC貸出		☒ 緊急連絡用携帯電話貸与（ ☐ 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：		プロジェクト執務室（UES本校農学部、実証展示圃場）、必要資料の提供	
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		7,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
必須となる予防接種は特になし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
治安情報：エルサルバドルは一部地域で治安上のリスクがあるため、JICA事務所の安全対策措置に従うこと。 https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspotthazardinfo_244.html#ad-image-0 渡航ルート：日本→エルサルバドル（メキシコ経由または米国経由）			
■備考・留意点			
フィールドワークが含まれるため、暑さや環境の変化に適応できる方が望ましい。 プロジェクトの進捗に応じて活動内容が変更される可能性あり。 起業家支援に興味があり、新たな価値を生み出す意欲のある方を歓迎。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在08
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域		■募集人数（人）	1～2
■部署名/事務所名	メキシコ事務所		
■テーマ			
JICAメキシコ事務所における対外発信・広報活動の強化及び業務効率化の補助			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
メキシコは、400年を超える日本との交流の歴史を背景に、国際協力事業も発展を遂げてきました。1971年に開始された二国間交換留学・研修制度「日墨交流計画」を皮切りに、技術協力、無償資金協力、有償資金協力（海外投融資含）、協力隊派遣等様々な手法を組み合わせた協力を展開し、環境、水資源、防災、産業開発、資源・エネルギー、保健医療などの分野で人づくり、組織づくりを軸足とした取り組みを続けてきました。またメキシコには自動車企業をはじめとした1,500社を超える日本企業が進出しており、日本が有する高い技術を活用した民間連携事業にも力を入れております。2023年には、JICAのメキシコにおける活動が50周年、JICA海外協力隊が30周年を迎え、益々交流を深めています。本インターンシッププログラムでは両国間の関係をより強くするべく、事業サイトの訪問・取材・撮影を通じたSNSアカウントでの対外発信及び広報活動、事務所内業務効率化タスクやプロジェクトマネジメント補佐、各種イベント企画・準備や、学術機関での講演（JICA事業紹介）補助に携わっていただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
①メキシコ国内で活動する海外協力隊の活動視察、各種協力事業プロジェクトサイトの視察、日系企業及び日系団体・その他民間企業訪問、広報素材の入手、JICAウェブサイト等に公開される記事の作成・アップロード ②事務所内プロジェクト担当者や外部関係者との意見交換（案件形成及び案件監理）、現地カウンターパートや日本との各種調整業務補佐、事業実施サイト訪問時の面談録作成 ③メキシコ国内で実施中の各種事業を纏めたプロジェクトマップの作成・更新、JICAウェブサイト等に公開 ④事務所内の業務効率化に関するアイデア出し、意見交換（他中南米拠点との遠隔会議等含む） ⑤各種セミナー及びイベントの企画・準備・実施に係る業務の補佐 ⑥現地小・中学校や大学等での講演及びJICA事業紹介の補佐 ※1 インターン活動の終了時に、活動内容についてメキシコ事務所内で発表する機会を設けます（可能な限り西語での実施）。 ※2 大学 1・2 年生大歓迎			
■参考情報			
JICAメキシコ事務所HP : https://www.jica.go.jp/overseas/mexico/index.html JICA中南米PLAZA : https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/index.html ODA見える化サイト（メキシコで実施されたJICA事業）： https://www2.jica.go.jp/ja/oda/index.php?area1=%E4%B8%AD%E5%8D%97%E7%B1%B3&country1=%E3%83%A1%E3%82%AD%E3%82%B7%E3%82%B3&search=%E6%A4%9C%E7%B4%A2&p=1			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
海外協力隊が派遣されている各種活動先、実施中及び終了後案件のプロジェクトサイト、メキシコシティ及びその他都市で開催される日系団体主催イベント（例：10-11月に開催される秋まつり等）、JICA事務所や海外協力隊が主催する日本文化紹介イベント等			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までの2-3ヶ月程度/2026年1月～3月中旬までの2-3ヶ月程度いずれか			
上記期間内での調整可	理由：年末年始を跨ぐ受け入れは不可、また3月は中旬までの受け入れのみ可		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	基礎的なスペイン語が理解できること、所内ナショナルスタッフとスペイン語でコミュニケーションがとれること		
望ましい	中南米地域（特にメキシコ）の政治・経済・社会・文化状況に係る関心及び理解		
■提供可能な執務環境等			
☒ PC貸出 ☒ 緊急連絡用携帯電話貸与（ ☐ 関連情報・資料の提供等）			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		9,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
入国に際し接種が義務づけられた予防接種はありません。破傷風、A型肝炎、B型肝炎、腸チフスのワクチン接種は任意で推奨しておりますが、必須ではありません。狂犬病に対する予防接種（暴露前接種）は、通常の旅行であれば必要ありませんが、長期滞在者や野外活動を予定している人、動物と接触する機会が多い人には接種を推奨しています。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
・JICAメキシコ事務所が位置するメキシコシティが活動拠点となります。 ・外務省危険レベルは1（十分注意してください）です。特に一般犯罪、交通安全には十分注意が必要です。また、日没後（18 時頃）～21 時の間の外出は極力控え（徒歩移動は原則禁止）、夜間から日の出前（21 時～7 時頃）の外出は禁止となります（帰赴任時も同様）。			
■備考・留意点			
特になし			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在09						
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域		■募集人数（人）	1						
■部署名/事務所名	ニカラグア事務所								
■テーマ 首都マナグア湖の水質改善のためJICAニカラグア事務所が取り組む環境教育、環境保護活動及びこれらに関連する広報活動									
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 JICAニカラグア事務所が2020年度より推進する首都マナグア湖の水質改善の取り組み（BIWAKOタスクフォース）に関わり、マナグア市役所と連携して市内の小学校生徒等に対する環境教育活動に関わるとともに、ゴミポイ捨てを撲滅するための広報を通じた啓発活動、さらには連携関係を有する滋賀県関係者（滋賀県内の学生を含む）との連携活動強化や両国間学生の交流推進に携わる。									
■具体的なインターンシップ活動内容 ・ JICAニカラグア事務所BIWAKOタスクフォース（以下BTF）メンバーからのBTFの活動概要聞き取り ・ マナグア湖及び周辺施設の現場視察 ・ ニカラグア版UMINOKO（小学生に対する乗船型環境教育）視察 ・ BTF及びマナグア市庁関係者（海外協力隊「環境教育」隊員含む）とのゴミポイ捨て撲滅のための啓発キャンペーン企画・実施 ・ 滋賀県関係者との交流企画・実施 ・ マナグア市内小学校生徒他に対する環境教育活動の企画・実施 ・ JICAニカラグアFACEBOOKを通じた広報活動 ・ その他マナグア湖浄化に関連する諸活動の実施支援									
■参考情報 湖の保全 紙芝居で発信 彦根東高の生徒が中米ニカラグアと交流：朝日新聞デジタル（asahi.com） https://www.asahi.com/articles/ASS396X5SS39PTJB001.html 琵琶湖で環境学ぶ船「うみのこ」 ニカラグアの汚れた湖でも始まった：朝日新聞デジタル（asahi.com） https://www.asahi.com/articles/ASS385CM7S2LPTJB00W.html 第3回ニカラグア版UMINOKOへ、日本人絵画アーティストFloさん参加 https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/202311.html									
■参加（同行）可能な行事・視察等 上記「具体的なインターンシップ活動内容」参照									
■受入時期・期間 2025年10月～12月までの3ヶ月間程度 上記期間内での調整可									
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可									
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 <table border="1"> <tr> <td>必須</td> <td>日常会話レベルのスペイン語能力</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>				必須	日常会話レベルのスペイン語能力				
必須	日常会話レベルのスペイン語能力								
■提供可能な執務環境等 ☒ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：									
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安							
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。									
2,000円/日		7,000円/泊							
■渡航にあたり必須となる予防接種 必須となる予防接種は無いが、推奨として「A型肝炎・B型肝炎・狂犬病・麻しん風疹・破傷風」。なお、パナマや南米ペルーなど黄熱病流行国に24時間以上滞在の後6日以内にニカラグアに入国する場合、10日以上前に接種した黄熱病予防接種証明書の提示が必要となる。									
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 安全措置として、全土で22～06時の間の外出は禁止。首都マナグア市は交通事故が頻発しており注意が必要。移動は推奨ホテル～JICA事務所間の徒歩は認めるが、その他公共交通機関での移動はラジオタクシーもしくはアプリタクシーのみ可能。渡航は米国ないしメキシコ経由。									
■備考・留意点									

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在10
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域		■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	コスタリカ支所		
■テーマ			
コスタリカ国内のJICA事業における広報活動支援および支所の総務業務支援			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
・コスタリカでは、技術協力プロジェクトとして地熱発電能力強化、保護区の管理能力強化の第三国研修が2025年2月から3月にかけて行われている。また、ボランティアも短期を含めて30名程度の派遣が計画されている。それら活動の現場を訪問し、ホームページ、SNSに投稿するための記事を作成してもらいたい。 ・支所における総務業務の補助。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
技術協力（第三国研修）やボランティアの活動取材し、ホームページやFacebookにアップロードする。ファイル整理、消耗物品管理・補充、貸し出し機材管理等の補助業務。			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/overseas/costarica/office/index.html https://www.facebook.com/jicacr/			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
大学連携ボランティア（短期）派遣（2026年2月）第三国研修地熱開発能力強化、第三国研修保護区管理			
■受入時期・期間			
2026年1月～3月中旬までの2～3ヶ月間程度			
上記期間内での調整可	理由：広報をして欲しいイベントが集中する時期のため。		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	スペイン語検定4級、DELEB1相当のスペイン語能力を要すること。		
■提供可能な執務環境等			
☒ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
5,250円/日		10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
南米等黄熱病感染リスク国や地域から入国するインターン生の場合には黄熱病の予防接種が必須。			
■滞在場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
治安情報に関しては、支所の安全対策措置および安全対策マニュアルをご覧ください。渡航標準経路は米国経由（ロスアンゼルス、アトランタ、ヒューストン等）、メキシコ経由が考えられます。			
■備考・留意点			
宿泊費に関して、AirB&Bを活用すれば6,000円～7,000円程度。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在11
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒		■募集人数（人）	1
アフリカ地域			
■部署名/事務所名	ガーナ事務所		
■テーマ			
サステナブルカカオ産業、責任あるビジネスの在り方、児童労働、気候変動対策、コミュニティのレジリエンス強化等			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
日本で消費される約8割のカカオ豆はガーナから輸入されたものですが、ガーナのカカオセクターは農家の高齢化及び低収入によるカカオ農家離れ、気候変動、病害虫等によるカカオの低収量、金の違法採掘等による森林破壊・農地荒廃、児童労働等、様々な課題に直面しています。JICAは社会的、環境的、経済的課題の解決により持続可能なカカオ産業の実現を目指すために、業界団体、製菓企業、商社、コンサルティング会社、NGOなどと共に、サステナブル・カカオ・プラットフォームを立ち上げて活動をしています。 また、ガーナではカカオ産業、鉱業、漁業を中心に、子供の5人に一人が児童労働に従事していると言われており、JICAは児童労働を撲滅するために、「児童労働フリーゾーン」の実現を目指すべく、「児童労働フリーゾーンを通じた子どもの保護主流化プロジェクト」を2024年2月より開始しました。 また、日本の高専等と連携し、カカオ産業の持続性を向上させるための課題解決にも取り組んでいます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
インターンシップの受け入れ時期によって実施中の活動が異なるため、希望される方のバックグラウンドや専門性、インターンシップ実施時期等を踏まえて、取組内容をご相談させていただきます。以下は想定される主な活動になります。 また、インターン生にはサステナブルカカオに関連して何等かテーマを決めていただき、活動終了時に同テーマに関する報告書を提出いただきます。 1. 技術協力プロジェクトの活動体験及び補佐（児童労働フリーゾーンを通じた子どもの保護主流化プロジェクト（コミュニティにおける児童労働対策のアセスメント活動や研修、中央・地方政府関係者との協議に同行等）） 2. 高専イノベーションチャレンジ等の活動体験及び補佐 3. サステナブルカカオプラットフォームの活動補佐 4. カカオセクターで活動中の企業等へのインタビュー、活動同行			
■参考情報			
サステナブルカカオプラットフォーム：https://www.jica.go.jp/activities/issues/governance/platform/index.html#block2 児童労働フリーゾーンを通じた子どもの保護主流化プロジェクト： https://www.jica.go.jp/oda/project/202109061/index.html 高専オープンイノベーションチャレンジ 2025年度課題について（募集要項）：https://www.kosen-oi.com/s-projects-basic			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
「具体的なインターンシップ活動内容」に記載の通り。			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までの1ヶ月間程度			
上記期間内での調整可	理由：ご本人の都合や関心や受入側事業の都合等を勘案し、実施時期を調整します。		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
☐ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円～3,000円程度/日		4,500円～7,500円程度（地方）／泊、 8,300円程度（首都）／泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
黄熱病（必須）			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
JICA事務所のある首都アクラをベースとしつつ、受入れ先の事業等の計画に従い、地方部への出張を組み合わせる（渡航先は、JICA事業関係者が通常渡航するエリアに限定）ことを想定しています。			
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在12
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ガーナ事務所		
■テーマ			
稲作生産性向上プロジェクトでの活動を通じた日本型の技術協力の現場経験			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
ガーナは米の消費量が伸びているものの、自給率が50%を切っており、多くを輸入に依存しています。今回受け入れを予定しているのは、ガーナの国産米増産に向けた技術協力「稲作生産性向上プロジェクト」です。JICAはガーナの稲作分野で、食糧・農業省と共同でおよそ20年以上にわたる協力を実施しています。これまでに、実証的な試験結果や農家の需要状況をふまえてまとめられた稲作技術パッケージは、食糧・農業省の公式な文書として認められ、現場での普及が図られています。現地には稲作栽培技術、灌漑・水管理、普及、稲作政策といった異なる専門性を持った5名の専門家が日本から派遣され、天水稲作地域4州、灌漑稲作地域4か所での技術普及に向けた活動を実施しています。その内容は、稲作の生産性向上に向けた農家研修の実施にとどまらず、マーケティング活動を実施し、輸入米に負けない価格で販売できる道筋づくりを行ったり、機械化の実現に向けた効率的な水管理・営農計画の導入、ジェンダーコンポーネントの研修活動への組み込みなど、多岐にわたります。また、世界銀行やGIZ（ドイツ）など、稲作に取り組む他ドナーとの連携関係も構築しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
インターンシップを希望される方のバックグラウンドや専門性により、様々な取組内容を設定することが可能です。以下は一例となりますので、派遣が決まったのち相談の上、具体化していくことを想定します。 例）①研修前後の技術適応度や収量などのデータの整理・分析の補助、②視聴覚教材（SNSで簡易に展開可能なショートムービー等）の作成支援、③広報（プロジェクトレター、広報ビデオなど）支援補助			
■参考情報			
JICAによるプロジェクト概要 https://www.jica.go.jp/Resource/project/ghana/013/outline/index.html ガーナ農業省によるプロジェクト活動の紹介 https://orcc.gov.gh/grip-rice-training-in-jasikan-oti-region/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
稲作栽培研修、水利組合研修、マーケティング活動、ジェンダー研修、Farmer's Day（国家行事である農民の日イベント）等			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までの1ヶ月間程度		ただし年末年始を除く	
上記期間外含めて調整可	理由：上記期間以外を希望される場合には、時期や受入側の都合等により不可となる可能性がありますのでご相談ください。		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生・社会人ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農業系の学部卒業		
■提供可能な執務環境等			
☐ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円～3,000円程度/日		4,500円程度（地方）、8,300円程度（首都）／泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
黄熱病（必須）			
■滞在場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
アクラのプロジェクト事務所のほか、プロジェクトの対象州および灌漑スキームへ出張・滞在の可能性もありますが、安全管理上、渡航制限のある北部5州への渡航は予定されません。			
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在13
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒		■募集人数（人）	1
アフリカ地域			
■部署名/事務所名	タンザニア事務所		
■テーマ			
タンザニアにおける稲作振興協力 - JICAの技術協力の現場から -			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
タンザニアはサブサハラアフリカ有数の稲作大国で、日本は1970年代からタンザニアにおける稲作振興を支援しています。また2008年第四回アフリカ開発会議（TICAD IV）でJICAは「アフリカ稲作振興のための共同体（Coalition for African Rice Development: CARD）」を立ち上げ、現在2030年までにアフリカにおけるコメ生産量の倍増（2800万トンから5600万トン）を目標として取り組みを他の協力パートナーとともにアフリカ各国で進めています。今回のインターン先は、アフリカ稲作協力の中でも、フラッグシッププロジェクトと言えるタンザニア技術協力プロジェクト「コメ振興能力強化プロジェクト（通称TANRICE3）」です。TANRICE3は2023年6月に開始され、灌漑及び天水稲作技術の普及、農家の生産性・収益性を高める課題別の研修（種子生産、農業機械、灌漑組織運営、ジェンダー等）を行っています。インターンの方には、タンザニアの稲作振興の最前線で、JICAの専門家と共に、稲作農家が抱える課題解決に取り組んでいただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. 現地研修補助（活動地域：キリマンジャロ農業研修所以外の農業研修所） (1) 現地研修の準備・実施状況のモニタリング、改善点の検討 (2) 現地研修実施後の進捗確認・フォローアップ 2. 自身が設定する稲作関連テーマの調査・検証（活動地域：キリマンジャロ農業研修所、もしくはローアモシ灌漑地区） (1) テーマの設定、活動計画の検討、活動実施 (2) プロジェクトに対する報告 3. その他プロジェクト業務補助			
■参考情報			
・ TANRICE3関連調査報告書（詳細計画策定調査報告書） https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/1000048840.pdf ・ アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）について https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
2・3月 灌漑稲作研修フォローアップ（現地研修実施後の進捗確認）、天水低湿地稲作研修（現地研修）、種子研修（モニタリング）、ローアモシ灌漑地区及び近隣地区における活動（関連機関である研修所、県事務所、国家灌漑庁と連携し各課題に取り組む）			
■受入時期・期間			
2026年2月上旬～3月中旬までの1.5ヶ月間程度			
上記期間内での調整可	理由：		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	稲作関連の各種研修事業（モニタリングを含む）、政府職員に対する人材育成、もしくはプロジェクト運営に関心があること		
望ましい	将来、農業分野の専門家を志向していること		
■提供可能な執務環境等			
☐ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,400円/日		10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
厚生労働省のウェブサイト（https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html）を参考に、推奨されるワクチンの接種を検討してください。タンザニアは黄熱病のイエローカード対象国にはなっていませんが、黄熱に感染するおそれのある国・地域の国籍を持つ渡航者は、現在の居住地にかかわらず、証明書の提示を求められる場合があります。この点については厚生労働省検疫所のウェブサイト（https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/yellow_fever_certificate.html）をご覧ください。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
JICAウェブサイト（https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/rule.html）をご参照のうえJICA安全管理部（JICA安全対策情報申請窓口）：jicast@jica.go.jp へメールを送付し、JICA国別安全対策情報を入手ください。また外務省の海外安全ページ（https://www.anzen.mofa.go.jp/readme/readme.html）をよく読み、必ずたびレジに登録ください。			
■備考・留意点			
・ 本ポストではJICAタンザニア事務所でのインターン勤務は想定しておりません。到着時の安全ブリーフィングや中間・最終時報告以外は、TANRICEプロジェクトでインターン勤務をして頂きます。 ・ 滞在許可証取得にかかる必要書類は、派遣決定後、JICAタンザニア事務所の指示に従って速やかに提出してください。 ・ 深夜早朝の発着便（20時～6時）は極力避けてください。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在14
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ アフリカ地域		■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	タンザニア事務所		
■テーマ			
タンザニアにおけるワンヘルス（人獣共通感染症対策）の実現に向けて - JICAの科学技術協力の現場から -			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
タンザニアでは、畜産を含む農業セクターに人口の約7割が従事している。同国の家畜飼養頭数はアフリカで3番目に多く、畜産は同国の農業GDPの27%を占める重要な産業である。ブルセラ症及び人獣共通結核は、乳や肉等の動物由来食品を介した人獣共通感染症であり、その制御のため、バリューチェーンを含む畜産セクターだけでなく保健等の他セクターと協働したワンヘルスアプローチによる感染源対策がタンザニアにおいても必要である。本事業（地球規模課題課題対応国際科学技術協力、SATREPS）は、酪農学園大学を本邦研究代表機関とし、タンザニア南東部のモロゴロ州において、家畜と人のブルセラ症及び人獣共通結核の制御に有効な基盤情報と介入条件の特定ならびに介入体制の整備を行うことにより、ワンヘルス・教育・官民連携による制御アプローチの確立を図り、もって同アプローチの実践に寄与するものである。インターンの方には、タンザニアのワンヘルス（人獣共通感染症対策）の実現に向けて、タンザニアおよび日本の研究者と共に、課題解決手法の検討に取り組んでいただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・保健・獣医療サービスシステムの聞き取り調査の補助 ・農家および住民への疫学的・社会経済的な質問票調査の補助 ・専門家が実施する各種サンプリング作業、検査の補助			
■参考情報			
・JICAタンザニア事務所ホームページ： https://www.jica.go.jp/overseas/tanzania/index.html ・JICAタンザニア事務所パンフレット： https://www.jica.go.jp/Resource/tanzania/office/others/bp63r60000005gz3-att/brochure_en.pdf ・本案件の事業事前評価表： https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2023_202209775_1_s.pdf			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
・農家および住民への訪問 ・現地の保健・獣医療サービスの視察 ・実験施設での作業			
■受入時期・期間			
2026年2月上旬～3月中旬までの1.5ヶ月間程度			
上記期間内での調整可		理由：	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい		獣医学部／学科	
■提供可能な執務環境等			
☐ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,400円/日		10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
厚生労働省のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html ）を参考に、推奨されるワクチンの接種を検討してください。タンザニアは黄熱病のイエローカード対象国にはなっていませんが、黄熱に感染するおそれのある国・地域の国籍を持つ渡航者は、現在の居住地にかかわらず、証明書の提示を求められる場合があります。この点については厚生労働省検疫所のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/yellow_fever_certificate.html ）をご覧ください。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
JICAウェブサイト（ https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/rule.html ）をご参照のうえJICA安全管理部（JICA安全対策情報申 請窓口）： jicast@jica.go.jp へメールを送付し、JICA国別安全対策情報を入手ください。また外務省の海外安全ページ（ https://www.anzen.mofa.go.jp/readme/readme.html ）をよく読み、必ずたびレジに登録ください。			
■備考・留意点			
・本ポストではJICAタンザニア事務所でのインターン勤務は想定しておりません。到着時の安全ブリーフィングや中間・最終時報告以外 は、「ワンヘルス・教育・官民連携を通じた参加型人獣共通感染症対策プロジェクト」（モロゴロ州）でインターン勤務をして頂きます。 ・滞在許可証取得にかかる必要書類は、派遣決定後、JICAタンザニア事務所の指示に従って速やかに提出してください。 ・深夜早朝の発着便（20時～6時）は極力避けてください。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在15
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒		アフリカ地域	2
■部署名/事務所名	カメルーン事務所	■募集人数（人）	
■テーマ			
「バリューチェーンの強化を通じたコメ振興プロジェクト（PRODERIP-RCV）」（農業）における事業運営補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
国内で消費する米の多くを輸入に頼るカメルーンは、米の生産量を拡大し、自給率を高めることを国家戦略に掲げています。2011年から続くコメ振興プロジェクトでは、カメルーン国内の複数のサイト（中央州、南部州、東部州、北西部および西部州）において、陸稲と水稲双方の種子生産から販売・消費に至るバリューチェーンの強化を行うことにより、国産米の増産と品質向上を図り、灌漑水稲米の販売量と陸稲米の自家消費量の増加に取り組んで来ました。本インターンシップでは、第3フェーズとなる当該プロジェクトにおいて、日本人専門家及びカメルーン側実施機関である農業省並びにヌン溪谷開発公社と連携し、事業目標達成に向けた活動を支援することを目的としています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
PRODERIPは灌漑水稲から天水陸稲までを取扱っており、それぞれ種子生産から販売・自家消費を目的とした多彩な活動を行っています。そのため、日常は圃場での種子生産や試験活動、精米、籾や白米の品質検査、営業、販売促進まで様々な活動を経験することが可能です。灌漑水稲分野の1～3月の具体的な活動は、1)新米の粳品質（混種や匂いなど）および精米品質（砕米率や白度など）の検査、2)2025年生産統計の整理（栽培面積、生産量など）、3)精米、4)農業祭出店やビルボード広告展示などの販売促進、5)スーパーマーケットCarrefourへの出荷やSPARとの販売交渉、6)米販売収支モデルの構築などです。天水水稲・陸稲分野では、1)2026年度第1作期に向けた陸稲栽培研修（普及員・中核農家向け研修および一般農家向けの現場研修）、2)在庫種子管理（種子在庫量の確認や発芽試験）、3)育種化種子および原原種種子生産（乾期作）、4)精米機（SB10）の維持管理および収穫後処理研修を実施する予定です。これらの日々の活動を専門家やカウンターパートとともに実施します。			
■参考情報			
・JICAホームページ（各国における取組 カメルーン）：https://www.jica.go.jp/overseas/cameroon/index.html ・JICAホームページ（カメルーン事務所）：https://www.jica.go.jp/overseas/cameroon/office/index.html ・JICAホームページ（JICAカメルーン事業紹介動画）：https://www.jica.go.jp/Resource/cameroon/office/others/movie.html ・ODA見える化サイト：https://www.jica.go.jp/oda/project/1500396/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
・ヤウンデでの圃場活動、水稲に関する普及員・中核農家向け栽培・収穫後処理研修への参加、補助 ・南部州および東部州に位置する種子生産圃場への出張（種子生産圃場準備、栽培管理） ・西部州での天水水稲に関する活動（調査およびモニタリング） ・スーパーマーケット（Carrefour、SPARなど）への出荷、販売交渉			
■受入時期・期間			
2026年1～3月中旬までの1.5ヶ月から3ヶ月弱程度			
調整不可	理由：2025年10月に予定されている大統領選挙の治安への影響可能性を踏まえると第4四半期が適切。		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	圃場での農作業に従事可能なこと		
望ましい	農学部または生物生産系の学部・学科		
■提供可能な執務環境等			
☐ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		7,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
必須：黄熱病 推奨：A 型肝炎、B 型肝炎、ポリオ、狂犬病、髄膜炎菌、麻しん・風しん、水痘、破傷風、腸チフスを推奨します。他にも厚労省検疫所FORTHのホームページを確認し、必ず医師と相談し必要な予防接種を行ってください。 https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
滞在拠点は首都のヤウンデを想定しています。ヤウンデの治安は他のアフリカ諸国の首都と比べると良好ですが、軽犯罪が増加傾向にあります。またマラリアにも注意が必要です。 渡航にかかる標準経路は、アジスアベバ（エチオピア）あるいはパリ（フランス）経由です。			
■備考・留意点			
本インターンシップは2名を募集しており、2名の開始日を合わせるように調整させていただきます。 また本インターンシップは技術協力プロジェクト「バリューチェーンの強化を通じたコメ振興プロジェクト（PRODERIP-RCV）」への張り付きとなります。プロジェクトオフィス及びサイトでの活動が主となり、活動期間中はプロジェクト専門家（邦人）との密な連携が必要となります。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在16
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒		■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名			
マダガスカル事務所			
■テーマ			
マダガスカル農村部での稲作振興と森林保全を含む環境負荷軽減に貢献するための技術開発普及プロジェクト補助			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
マダガスカル農村部では、主食かつ主な収入源である稲作の生産性が低いため、人々の貧困・栄養不良や農地拡大にともなう森林破壊など、深刻な社会問題を抱えています。JICAでは、日本とマダガスカルの研究機関と連携し、稲作の生産性を改善するための施肥技術や新品種を開発してきました。これらの成果を社会問題解決に繋げるために、2つの事業を開始します。事業①社会実装型技術協力プロジェクト「養分欠乏水田における稲作振興のための革新的技術普及プロジェクト」では、同国の農業畜産省や民間企業と連携して、効果的な普及方法を検証しながら、開発した施肥技術と新品種を多くの農家に届けることを目指します。事業②地球規模課題解決型技術協力プロジェクト（SATREPS）「森林と水田が共存した持続的で多様なファームリングシステムの構築」では、化学肥料の施用量と温室効果ガスの排出量を抑えつつ、作物の生産性や多様性をより高めるための新たな技術開発や1つ目の事業と連携した技術の普及を推進するとともに、地域の安定的な農業生産を支える森林の役割を明らかにすることで、ランドスケープレベルでの持続的な食料生産システムの構築を目指します。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. 事業①の活動補助（活動地域：ヴァキナンカラチャ県アンチラベ） ・JICA専門家やマダガスカルの普及員と農家への技術指導 ・技術が普及するための課題の探索や整理 ・農家に広く分かりやすく技術を伝えるための伝播手法やパンフレットの改善 ・アプリを用いた技術普及状況のモニタリング 2. 事業②の活動補助（活動地域：フエニ県アンカラファンチカ国立公園） ・調査観測補助（森林が保全された流域と破壊された流域における、水田の生産性や水田に流入する土砂・栄養分の量、干ばつや洪水のリスク、水田からの温室効果ガスの排出量などの調査） ・地域住民や行政が森林をどのように管理し、利用しているかといった生態系サービス（エコツーリズム、有用植物種等）に関する情報収集、整理			
■参考情報			
https://www.jst.go.jp/global/kadai/r0608_madagascar.html https://www.jica.go.jp/oda/project/1600509/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
農家への訪問、現地の農業普及サービスの視察、農業研究所視察			
■受入時期・期間			
2025年10～12月までの1ヶ月程度/2026年2～3月中旬までの1ヶ月程度いずれか			
上記期間内での調整可		理由：	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい		農業分野や開発分野の素地があるとよい。	
■提供可能な執務環境等			
☐ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
アンタナナリボ：1,000円～2,000円/日 地方：1,000円～1,500円/日		アンタナナリボ：6,000円～7,000円/泊 地方：3,000円～5,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
厚生労働省のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html ）を参考に、推奨されるワクチンの接種を検討してください。			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
滞り場所：アンタナナリボ市内 勤務地：アンタナナリボ市内の事業①・事業②のオフィス、アンチラベ、アンカラファンチカ国立公園 通常使用している渡航経路：日本～アディスアベバ／ドバイ～アンタナナリボ 治安状況：最新の安全対策措置、安全対策マニュアルを参照ください。			
■備考・留意点			
当国での安全な滞在のために、マダガスカル事務所から必要な安全情報（治安、健康管理）を提供します。空港への送迎、アンタナナリボ～アンチラベ／アンカラファンチカ国立公園間の移動、視察含むプロジェクト現場での移動に使用する車両は、基本的にプロジェクトが手配します。アンチラベもしくはアンカラファンチカ国立公園に数週間滞在する可能性があります。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在17
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒		アフリカ地域	■募集人数（人） 1
■部署名/事務所名	モザンビーク事務所		
■テーマ モザンビークの観光、地場産業振興分野にかかる調査・分析、および今後の日本の協力に向けたイノベティブなアイデア検討			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 モザンビークは16世紀末に天正遣欧少年使節団一行が日本への帰途天候待ちで滞在したと言われる世界遺産「モザンビーク島」をはじめ、歴史的価値のある建造物やビーチリゾート、サファリ、彫刻や踊りなどの有望な観光資源を有し、政府は国際観光客の受け入れによる地域経済の活性化を目指している。しかし現状では、観光産業の地域経済や雇用へのインパクトは限られており、今後はより地元裨益する観光開発を進めていくことが重要となっている。 2025年1月にはダニエル・シャボ大統領が就任し、観光開発、地場産業振興は経済省の所掌となった。新政権の観光開発にかかる戦略・方針の分析、JICAによる観光、地場産業振興分野にかかる技術協力、ボランティア事業等における過去の協力アセットの現況調査を行うことにより、現在実施中または今後実施予定の協力に対する教訓やグッドプラクティスを抽出し、中長期的なJICA協力案件形成のための基礎情報とすることを目的とする。			
■具体的なインターンシップ活動内容 JICA事務所が有する既存情報、インターネット等で公開されている情報も活用し、担当職員の協力を得ながら、具体的な調査を企画・実施し、帰国前に活動報告会を行う。 ①モザンビーク訪問前に、インターネット等を活用して、モザンビークの政治・経済ならびに観光、地場産業振興分野のJICA案件（実施済、実施中）にかかる基本情報を収集・理解する。 ②質問票によるアンケート調査やインタビュー調査など調査手法の検討も含めた、調査の計画・実施・結果分析を行う。 ③政府機関、プロジェクトサイト、帰国研修員訪問などを通じてJICA協力アセットの現況を調査する。 ④調査ではモザンビークの政治・経済状況も踏まえたインパクト発現あるいは阻害要因も分析し、現在実施中の案件及び今後実施予定の案件に対する教訓、グッドプラクティスの抽出を試みる。 ※活動にかかる調査等のため地方出張の可能性あり。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/mozambique/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 終了済及び現在実施中の協力案件の視察・訪問、ボランティア事業の視察等			
■受入時期・期間 2025年10月～12月までの2ヶ月程度/2026年1月～3月中旬までの2ヶ月程度いずれか 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語での会話、読み書きができること		
望ましい	ポルトガル語での会話、読み書きができること		
■提供可能な執務環境等 ☐ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
5,000円/日		12,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 黄熱病（黄熱に感染する危険のある国から来る1歳以上の渡航者もしくは乗り継ぎで黄熱に感染する危険のある国の空港に12時間以上滞在が必要な場合のみ要求される）			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 ・治安：滞在先のマプト市内でも各所でスリや強盗等の被害に遭う恐れがある（そのため夜間22時以降は徒歩移動禁止）。（参考）外務省海外安全HP：https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_123.html#ad-image-0 ・健康管理：マラリア汚染国であり首都（マプト）以北の地方滞在時はマラリア予防薬の内服を推奨。 ・渡航にかかる標準経路：①日本→アディスアベバ（エチオピア）→マプトまたは②日本→ドーハ（カタール）→マプトが主流。①の場合は、エチオピアを経由するため、黄熱病ワクチン接種証明書（イエローカード）の携帯が必須。			
■備考・留意点 政治的には比較的安定していたが、近年の物価上昇や格差拡大による民衆の不満の高まりにより、2024年10月の大統領選挙を契機にデモやゼネストなどが断続的に発生しており、同様の状況が2025年4月下旬～5月くらいまで継続する可能性がある。左記の背景もあり、本インターンシップの受入は2025年度後半とする。仮に情勢不安が2025年6月以降も続く場合、本インターンシップの受入が困難となる可能性もある。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在18
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒		アフリカ地域	■募集人数（人） 1
■部署名/事務所名	モザンビーク事務所		
■テーマ			
開発途上国の給水を考える！ 持続可能な水資源利用を叶える施設建設と技術移転の相乗効果の分析。			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
モザンビークにおける安全な水へのアクセス率は全国平均55%であり、地方部においては給水率は45%と未だ低い水準にあります。JICAは、モザンビーク北部のニアッサ州で、住民の共同利用を目的としたハンドポンプ付きの井戸を建設すると同時に、各家庭への給水設備の接続を進めています。ニアッサ州は開発に伴う人口増加が進んでいる一方で、水資源確保と給水施設の整備が進んでいないためです。住民が安全な水にアクセスするには給水設備の建設だけでは不十分です。多くの人に効率的に水を届けるには、給水設備の維持管理と、維持管理のための財源が必須となります。JICAは、給水施設・設備という“ハード”の支援と、給水サービス改善のための関係機関の能力強化という“ソフト”の支援を組み合わせ、ニアッサ州での水道事業改善に取り組んでいます。			
※活動にかかる調査等のためには地方出張の必要性が大きい。首都から空路にて約2時間半程度。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
トピック：『モザンビーク、ニアッサ州の水衛生課題解決に向けたJICA支援の有効性の検討と、今後の支援の在り方』 1. モザンビーク訪問前にJICAのODA事業について基本情報を収集、理解する。 2. モザンビーク訪問前に、インターネット等を活用して、モザンビークの歴史、政治、経済、並びに水衛生にかかる基本情報を収集しまとめる。 3. 担当職員から助言、協力を得ながらモザンビーク水衛生分野における課題や、関連機関からの支援内容について情報収集する。 4. ニアッサ州の水衛生課題を解決するためのJICAの支援について情報収集する。 5. ニアッサ州の水衛生課題の解決に向けたJICAのプロジェクト効果を分析する。 6. 今後、JICAはどのようにアプローチすることが求められているか、モザンビーク、日本、双方の立場から考察する。 7. 上記1～7で取りまとめた内容につき、所内やモザンビーク側関係者に対して発表を行うとともに、左記を用いた広報活動を行う（メディア、あるいはJICAの媒体を通じた情報発信とし、対象はモザンビーク及び日本の双方）。			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/overseas/mozambique/index.html https://www2.jica.go.jp/ja/oda/index.php			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
終了済及び現在実施中の協力案件の視察・訪問、ボランティア事業の視察等			
■受入時期・期間			
2025年10月～12月までの1ヶ月程度/2026年1月～3月中旬までの1ヶ月程度いずれか			
上記期間内での調整可	理由：案件進捗状況を考慮。また、無査証で滞在できる期限に基づき提案。		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生・社会人ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語での会話、読み書きができること		
望ましい	ポルトガル語での会話、読み書きができること		
■提供可能な執務環境等			
□PC貸出		☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
5,000円/日		12,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
黄熱病（黄熱に感染する危険のある国からくる1歳以上の渡航者もしくは乗り継ぎで黄熱に感染する危険のある国の空港に12時間以上滞在が必要な場合のみ要求される）			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
・治安：滞り先のマプト市内でも各所でスリや強盗等の被害に遭う恐れがある（そのため夜間22時以降は徒歩移動禁止）。 （参考）外務省海外安全HP： https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_123.html#ad-image-0 ・健康管理：マラリア汚染国であり首都（マプト）以北の地方滞り時はマラリア予防薬の内服を推奨。 ・渡航にかかる標準経路：①日本→アディスアベバ（エチオピア）→マプトまたは②日本→ドーハ（カタール）→マプトが主流。①の場合は、エチオピアを経由するため、黄熱病ワクチン接種証明書（イエローカード）の携帯が必須。			
■備考・留意点			
政治的には比較的安定していたが、近年の物価上昇や格差拡大による民衆の不満の高まりにより、2024年10月の大統領選挙を契機にデモやゼネストなどが断続的に発生しており、同様の状況が2025年4月下旬～5月くらいまで継続する可能性がある。左記の背景もあり、本インターンシップの受入は2025年度後半とする。仮に情勢不安が2025年6月以降も続く場合、本インターンシップの受入が困難となる可能性もある。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在19
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒		■募集人数（人）	1
アフリカ地域			
■部署名/事務所名	モザンビーク事務所		
■テーマ			
保健分野における5s-kaizen活動の促進補佐、保健分野の案件を中心とした広報活動の推進			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
モザンビークにおける公的サービスの多くはドナー等の国際社会からの支援に依存しており、保健分野も同様と言える。それでも十分なりソースがあるわけではなく、国民による保健医療サービスへのアクセスやその質には大きな課題がある。かかる状況下、既存のリソースの効果・効率的な活用が求められるが、必ずしもそのような状態とはなっておらず、改善の余地が大きい。この状況に対し、JICAモザンビーク事務所では病院管理、特に5s-kaizenの導入を通じた協力を開始したところであり、この協力の促進に関連した活動を中心にインターンシップを実施いただくことを想定している。あわせて、保健分野全般の協力の状況、日本の案件管理に触れつつ、広報活動を実施することが期待される。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. 保健分野における5s-kaizen活動の促進補佐 (1) 5s-kaizenにつき、日本での実践事例や成果を保健分野を中心に取りまとめる（可能であれば、他分野での取り組みも盛り込む）。 (2) 1. (1)で取りまとめた内容につき、所内やモザンビーク側関係者に対して紹介する。 (3) 保健分野を中心に、5s-kaizenにかかる当地での進捗や成果を調査し、取りまとめる。 (4) 1. (3)で取りまとめた内容につき、所内やモザンビーク側関係者に対して発表を行うとともに、左記を用いた広報活動を行う（メディア、あるいはJICAの媒体を通じた情報発信とし、対象はモザンビーク及び日本の双方）。 2. 保健分野の案件を中心とした広報活動の推進 (1) 実施済/中の案件の現場を訪問する。 (2) 訪問した案件の進捗や成果を取りまとめる。 (3) 取りまとめた内容を基に、広報活動を行う（メディア、あるいはJICAの媒体を通じた情報発信とし、対象はモザンビーク及び日本の双方）。			
■参考情報			
マプト中央病院新生児棟建設計画 https://www.jica.go.jp/oda/project/2260270/ 母子栄養サービス強化プロジェクト https://www.jica.go.jp/Resource/project/mozambique/012/outline/index.html アフリカ保健システム情報収集・確認調査 https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/12346193.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
5s-kaizenのワークショップ等（現時点では実施時期が未定）			
■受入時期・期間			
2025年10月～12月までの2ヶ月間程度			
上記期間外含めて調整可		理由：日程については応談可能なため	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語での会話、読み書きができること		
望ましい	ポルトガル語での会話、読み書きができること		
■提供可能な執務環境等			
☐ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
5,000円/日		12,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
黄熱病（黄熱に感染する危険のある国からくる1歳以上の渡航者もしくは乗り継ぎで黄熱に感染する危険のある国の空港に12時間以上滞在が必要な場合のみ要求される）			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
・治安：滞在先のマプト市内でも各所でスリや強盗等の被害に遭う恐れがある（そのため夜間22時以降は徒歩移動禁止）。 （参考）外務省海外安全HP： https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsposhazardinfo_123.html#ad-image-0 ・健康管理：マラリア汚染国であり首都（マプト）以北の地方滞在時はマラリア予防薬の内服を推奨。 ・渡航にかかる標準経路：①日本→アディスアベバ（エチオピア）→マプトまたは②日本→ドーハ（カタール）→マプトが主流。①の場合は、エチオピアを経由するため、黄熱病ワクチン接種証明書（イエローカード）の携帯が必須。			
■備考・留意点			
政治的には比較的安定していたが、近年の物価上昇や格差拡大による民衆の不満の高まりにより、2024年10月の大統領選挙を契機にデモやゼネストなどが断続的に発生しており、同様の状況が2025年4月下旬～5月くらいまで継続する可能性がある。左記の背景もあり、本インターンシップの受入は2025年度後半とする。仮に情勢不安が2025年6月以降も続く場合、本インターンシップの受入が困難となる可能性もある。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在20
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 中東・欧州		■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	エジプト事務所		
■テーマ			
エジプト事務所における総務業務補佐・研修関連業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
エジプト事務所総務班では、事務所が管理している有償/無償資金協力、技術協力、ボランティア事業が円滑に進むよう、また所員とナショナルスタッフ働きやすい環境を整えるべく、ルール作りとそのフォロー、調達関連業務、予算管理、所内イベント企画、所内庶務を行っています。また本邦で実施される課題別研修、国別研修、長期研修の募集から派遣手続きも担当しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・要望調査サポート（8月） ・課題別研修・国別研修の募集から派遣までの手続きにかかるサポート（8月から12月頃） ・ABEイニシアティブ（長期研修）にかかる募集選考、派遣前ブリーフィング等のサポート（9月から11月頃） ・業務効率化推進案の計画と実施（適時） ・事務所規定等の整理（適時） ・事務所イベント企画等（適時）			
■参考情報			
（日本語） https://www.jica.go.jp/overseas/egypt/index.html （英語） https://www.jica.go.jp/english/overseas/egypt/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
事務所が管理する直営または業務実施契約のプロジェクト現場への視察 ABEイニシアティブの派遣前に実施されるABE生の同窓会への参加（9月頃）			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までの2ヶ月間程度			
上記期間内での調整可		理由：	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語の読み書き能力		
必須	事務所内外の関係者とのやり取りに欠かせないコミュニケーション能力		
■提供可能な執務環境等			
☒ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		12,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
接種しておくべきワクチン：A型肝炎、B型肝炎、破傷風 できれば接種しておくワクチン：腸チフス、狂犬病 https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/africa/egypt.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
滞在所：事務所近辺のホテル 治安状況：外務省の海外安全情報ではカイロ大都市圏はレベル1 標準経路：日本⇒ドーハ⇒カイロ			
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在21
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 中東・欧州		■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名 エジプト事務所			
■テーマ			
ユニバーサルヘルスカバレッジ達成のためのエジプト向け保健分野協力の業務補佐および、広報・企画班業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
エジプト政府は現在、ユニバーサルヘルスカバレッジの達成を目指し、Egypt's Vision 2030等の長期戦略の中でも目標として掲げている。2017年には国民皆保険制度が制定され、現在は大統領のマニフェストとしても2030年までにエジプト全県にて国民皆保険制度を導入することを目指している。JICAは円借款にて保健医療財政の安定化を支援し、保健医療の質の向上および医療保障制度の整備という2つのサブセクターでの技術協力プロジェクトを展開している。併せて、新興感染症対策および生活習慣病対策等をテーマとした7件のアフリカ・中東向けの第三国研修を主管し、アフリカ諸国向けにエジプトの経験を共有し発信している。 今次インターンの募集では、特に上述の保健分野を中心に、広報・企画（エジプト政府からの要請対応、大使館窓口、要望調査）業務も含め、JICA事務所員、現地職員との協働および業務補佐を依頼したい。また同分野におけるプロジェクト活動の支援も必要に応じて依頼する可能性がある。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
以下記載案件に関係するJICA事務所員・現地職員・JICA専門家・JICAコンサルタント業務補佐 -UHCのための開発政策借款 -病院の質向上プロジェクト -患者中心ケアプロジェクト -UHI政策実施能力強化プロジェクト -UHI政策実施能力強化プロジェクト2 -第三国研修 -JICAエジプト事務所SNS発信補佐、プレスリリース発信補佐 -2025年度要望調査関連業務支援 -政策対話準備 -上記および上記以外のJICA ODA実施に関する業務			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/oda/project/201903635/ https://www.jica.go.jp/Resource/egypt/english/activities/activity20.html https://www.jica.go.jp/oda/project/1701764/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
時期未定ながらも滞在期間中に開催される場合 Universal Health Insurance Conference, Egyptian Health Authority Annual Conference			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までの3ヶ月程度/2026年1月～3月中旬までの3ヶ月程度いずれか			
上記期間内での調整可	理由：		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	医学/歯学/薬学等保健医療系分野を専攻		
望ましい	英語、アラビア語の語学力を有すること		
■提供可能な執務環境等			
☒ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		75USD/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
外務省、厚生労働省等推奨の予防接種を受けることをお勧めします。			
■滞在场所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
ZamalekやMaadi等の地域がJICA事務所への通勤を考えると推奨される。治安状況は外務省の情報を参照のこと。滞在中はJICAエジプトの安全管理担当より安全管理情報を共有するので順守のこと。			
■備考・留意点			
エジプト生活では、移動にUber等のアプリライドを利用することが多くなります。 冬場は日中夜間の気温変化が大きいのので体温調節できる服装等のご準備をお勧めいたします。 当地では円からの両替も可能ですが、エジプトポンドから外貨への両替には制限がありますので必要量を両替されることをお勧めします。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	25-3在22
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 中東・欧州		■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	モロッコ事務所		
■テーマ			
モロッコにおける開発課題とJICA事業への理解促進、JICAモロッコ事務所の広報体制の拡充			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
JICAモロッコ事務所では有償資金協力、無償資金協力、技術協力、市民参加事業（海外協力隊）、民間企業との連携など多様なスキームを活用した事業を、幅広いセクターにわたって展開している（水産、教育、農業、保健、etc.）。 一方、取組内容や事業成果を効果的に発信するための広報素材のアップデートが追いついていない現状がある。特にパンフレットなどの紙媒体は素材集めから紙面へのレイアウトまでを自前で実施しており制作に手間と時間がかかるため、一度作成すると数年間は同じ内容を使い続けることになるものの、実施中の事業内容や実績値は刻々と変化するため、内容が古いものを使わざるを得ないという課題に長年直面している。 本インターンシッププログラムを通じて、モロッコの経済社会状況や開発課題、JICAや他ドナーの動向等の理解促進が図られるとともに、JICAモロッコ事務所の広報体制の拡充が期待される。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
①JICAがモロッコで実施している事業を紹介する広報素材（パンフレット、リーフレット等）の改訂、新規作成（事業全般、特定分野、特定事業など複数の媒体を想定） ②上記①の過程において、以後の改訂作業が容易になるようなフォーマット化や仕組みの検討、事務所への提案 ③（滞在期間中に開催の場合）広報イベントの企画、準備、実施にかかる支援 ④JICAモロッコ事務所内での各種業務補助および、モロッコ政府や他ドナーとの協議現場への同行等 ⑤JICA事業現場訪問（海外協力隊員との交流や活動視察等）			
■参考情報			
特になし。			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
海外協力隊の活動現場の視察、広報イベントへの参加（滞在期間中に開催の場合）			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までのうち1～2ヶ月間程度			
上記期間外含めて調整可			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語もしくはフランス語で最低限の日常的なコミュニケーションが取れること		
■提供可能な執務環境等			
☒ PC貸出 ☒ 携帯電話貸出（必須） ☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		7,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
治安は特に問題なし 渡航は、欧州経由か中東（ドバイ、ドーハ等）経由			
■備考・留意点			
特になし			

**2025年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入**

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	25-4開コ01
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒		募集人数（人）	2
ドロップダウンリストより選択⇒ (株)アルメック			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
<フィリピン/東南アジア>メトロダバオ圏包括的・持続的都市開発マスタープラン策定プロジェクト		開発計画調査型技術支援	
■プロジェクト概要			
本プロジェクトは、メトロダバオ圏の持続可能な都市開発を促進するために実施される計画策定事業であり、急速な都市化や人口増加に伴う交通渋滞、環境問題、防災対策の課題に対応し、経済成長と住民の生活の質向上を両立させることを目的としています。メトロダバオ圏はミンダナオ島南部に位置するダバオ市を中心とした経済・行政圏で、ダバオ市を含む15の地方自治体から構成される。中でも、ダバオ市はフィリピン第3の都市であり、農業、貿易、観光の拠点として発展している。 本プロジェクトでは、土地利用計画、インフラ整備、交通、防災・環境対策、産業開発など、多分野にわたる包括的な戦略を策定する。また、地域の特性を活かした持続可能な開発モデルを提案し、フィリピン政府および自治体と連携しながら、政策の実行可能性を高めることを重視している。 本プロジェクトの重要な実施機関の一つがメトロダバオ開発庁(MDDA)であるが、MDDAは、メトロダバオ圏の統合的な都市開発を推進する政府機関であり、各自治体間の調整を行いながら、計画の実施と管理を担っており、本プロジェクトで策定する開発計画の実施機関となるのも、このMDDAである。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
メトロダバオの案件ではあるが、インターンの実施場所は安全を考慮してメトロマニラとなる。 プロジェクトの補佐として活動。具体的には必要な情報収集・整理、会議資料の作成・会議への同行・議事録作成、報告書作成支援など。また、プロジェクト補佐以外に、インターン生の興味に沿った研究テーマを設定してもらい、インターン期間中にその研究を行う。			
■プロジェクトの参考情報			
https://www.jica.go.jp/information/press/2023/20231114_41.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
関係機関・JICAとの協議			
■受入時期・期間			
2025年8月～12月までの1ヶ月間/2026年1月～2月までの1ヶ月間いずれか		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：弊社日本人社員がマニラに在籍することを条件とするため。	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	日常会話程度の英会話ができること		
必須	オフィスソフトウェアの基礎的な作業能力		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☐ フルリモート可	☐ P0貸出可
☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
2,000円/日		9,000 - 12,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_013.html#ad-image-0			
■備考・留意点			

2025年度第二回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	25-4開コ02
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	あ行	募集人数（人）	2
ドロップダウンリストより選択⇒(株)アルメック			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
＜国内＞全世界気候変動対策に貢献する都市計画マスタープランのあり方にかかる研究、タンザニア国交通安全強化プロジェクト等		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
現在、アルメックでは「全世界（広域）気候変動対策に貢献する都市計画マスタープランのあり方にかかる研究（プロジェクト研究）」や「タンザニア国交通安全強化プロジェクト」「ソロモン国ホニアラ都市交通管理能力向上アドバイザー業務」などの複数のJICA業務を実施していますが、現地での受け入れは難しい状況です。またインターンシップ受け入れ予定時期である2025年8月から2026年3月までで具体的な現地受け入れ可能な案件はありません。しかし、これら案件の国内業務や、新規JICA案件を実施している予定なので、これら複数のJICA案件の国内サポートをお願いしたいと思っています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
情報収集や情報整理、リモートによる国際会議への参加など			
■プロジェクトの参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
未定			
■受入時期・期間			
2025年8月～2026年3月までの1か月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可		可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	特になし		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☐ フルリモート可	☐ PC貸出可
☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
国内のため記載なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
国内のため記載なし			
■備考・留意点			
特になし			

**2025年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入**

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	25-4開コ03
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒		募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒ (株)オリエンタルコンサルタンツグローバル			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
<カンボジア／東南アジア>カンボジア国/物流改善実施能力向上プロジェクト		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
カンボジア政府は、物流改善に向け、物流マスタープラン（物流MP）を策定し、物流総局を設置する等その実施体制整備を進め、主要インフラ整備や物流改善に資する政策策定を進めてきた。物流MPの策定及び優先事業の実施体制が整いつつある一方で、定量的なデータや定期的なモニタリングに基づく物流改善に資する計画策定や、事業の実施促進・調整及び越境交通の改善には依然課題がある。今後も堅調な経済成長を背景に物流量の増加やサービスの高度化への需要の高まりが見込まれる中、モニタリングの結果や定量的なデータに基づく計画策定能力の強化、インフラ整備やソフト施策の実施能力の強化、越境交通改善のためのファシリテーション能力強化を通じた、物流コスト・時間の縮減と物流サービスの質の向上が、産業開発にむけた最重要課題の一つとなっている。本業務においては、こうした課題に対応すべく、能力強化支援を行っていくことに加えて、これまでの計画・政策策定支援に続き、その実施による具体的物流の改善に資する協力を行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
物流実態調査の実施支援（収集データの集計や図表化、分析など）、合同調整委員会（JCC）やセミナーの開催準備などを想定していますが、実施時期やプロジェクトの状況により内容が変更になることがあります。			
■プロジェクトの参考情報			
カンボジア国物流改善実施能力向上プロジェクト https://www.jica.go.jp/oda/project/202108074/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
JICAや現地との打合せ等			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月までの2ヶ月間/2-3週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語力（現地スタッフと打合せが可能なレベル）		
望ましい	交通計画、国際物流に関する知識		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☐ フルリモート可	☐ PC貸出可
☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000円/日		6,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
治安状況：外務省HP参照 (https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsposhazardinfo_004.html#ad-image-0)			
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	25-4開コ04
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	あ行	募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
＜カンボジア／東南アジア＞カンボジア国プノンペン都総合都市交通管理能力強化プロジェクト		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
カンボジアの首都プノンペン都は、人口約230万人を有しており、今後も増加が見込まれているほか、新規登録車両台数が直近10年で2倍に伸び、交通渋滞が深刻化している。2000年代初頭と2014年にマスタープランが策定されたが、公共交通セクターにおける優先事業の多くが実現に至っていない。現在、プノンペン都における都市交通の総合的な計画・管理能力が強化されることを目標に、①関係機関を横断した承認プロセスを踏まえたマスタープランの更新、②都市交通関係機関の横断的な連携を含むパイロットプロジェクトの実施、③公共交通の管理・運営に係る組織体制の強化を3つの成果として案件を実施中である。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
パイロットプロジェクトの実施支援（既存データの分析や実施に関する提案など）、合同調整委員会（JCC）やセミナーの開催準備などを想定していますが、実施時期やプロジェクトの状況により内容が変更になることがあります。			
■プロジェクトの参考情報			
カンボジア国プノンペン都総合交通計画プロジェクト（2014年） https://libopac.jica.go.jp/images/report/12245825.pdf			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
JICAや現地との打合せ等			
■受入時期・期間			
2025年8月～9月まで間の2-3週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語力（現地スタッフと打合せが可能なレベル）		
望ましい	交通計画に関する知識		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☐ フルリモート可	☐ PC貸出可
☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000円/日		6,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
治安状況：外務省HP参照 (https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspotazardinfo_004.html#ad-image-0)			
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	25-4開コ05
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	あ行	募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
＜国内＞キューバ国物流マネジメント能力強化プロジェクト		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
本プロジェクトでは、キューバにおける貨物輸送の効率向上を目的とし、運輸省貨物輸送開発・分析局（DTC）および関連機関の能力強化を支援しています。 主な活動内容は以下のとおりです： ①物流管理のデジタル化 - 既存の貨物輸送計画システム（Balance de Cargas：BCシステム）を改良し、デジタル化を推進。 - 物流データの収集・分析能力向上を図る。 - 物流マネジメント能力の向上 ②物流政策立案やデータ活用、ITシステム管理に関する研修を実施。 - 国内および第三国での研修を通じ、実務者の能力を強化。 ③パイロットプロジェクトの実施（モーダルシフト） - 新たな物流モデルの試験運用を実施し、その成果を一般化。 - 効率的な輸送システムの確立を支援。 本プロジェクトは、JICAが策定した「全国運輸マスタープラン」の中期計画の一環として、燃料利用の最適化と物流コスト削減を目指し、案件を実施中です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップでは、キューバの貨物管理システム（Balance de Cargas：BCシステム）に関するデータの分析を想定しています。具体的には、BCデータを用いて、貨物の流動パターンの分析や需要の偏在を可視化等（GISツールを使用できると尚良い）を行い、課題の特定を行うことを想定しています。ただし、実施時期やプロジェクトの状況により内容が変更になることがあります。			
■プロジェクトの参考情報			
「キューバ共和国全国運輸マスタープラン策定プロジェクト（2023年）」： https://www.jica.go.jp/activities/issues/urban/_icsFiles/afieldfile/2023/11/14/jp.pdf https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/1000050716_01.pdf			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
現地渡航は想定しておりません。国内でのインターンシップを想定しております。			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの2ヶ月間/2-3週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：	可	週3回、2ヶ月間程度（要相談）
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	エクセルやアクセスを用いたデータ分析経験		
望ましい	英語およびスペイン語に関する語学力（使用するデータは英語およびスペイン語を想定しています。）。ただし、募集にあたって英語・スペイン語の語学能力は問いません。		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☐ フルリモート可	☐ PC貸出可
☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
国内のため記載なし			
■滞在所の場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
国内のため記載なし			
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	25-4開コ06
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	あ行	募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
＜国内＞チュニジア国チュニス大都市圏都市交通計画策定プロジェクト		開発計画調査型技術支援	
■プロジェクト概要			
チュニス大都市圏は北アフリカ・中東・欧州の結節点に位置し、近隣国及び国内のビジネス・投資のハブとして経済的基幹を担っている。同大都市圏は総人口の25%にあたる約 290万人（2021年、JICA 都市交通セクター情報収集・確認調査）を擁する経済・社会・行政の中心であり、人口は今後も上昇傾向にある。大都市圏の地理的制約から市の南北への急速な人口増加及びスプロール現象を誘引しており、ピーク時における交通渋滞や環境悪化の原因となっている。都市交通セクターに関しては、沿岸部を中心にインフラ整備が進められているものの、社会・経済活動の集中化の加速、物流の活性化、交通量の増加に伴い、必要な投入及び計画策定が追いついていない状況にある。係る背景から、交通需要予測及び土地利用状況の整理を行い、道路計画、公共交通、交通マネジメントの観点から必要なアクションの具体化を進めるため、先15年間を見据えた包括的な都市交通マスタープランの策定に係る支援要請がチュニジア政府から日本政府になされた。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
既存の調査結果や資料等を分析し、資料を取りまとめる。 （現地渡航は想定しておりません。国内でのインターンシップを想定しております。）			
■プロジェクトの参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年8月～11月までの間で1～2か月程度受入可能		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：	可	週3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語力（現地スタッフと打合せが可能なレベル）		
望ましい	交通計画、交通モデリングに関する知識		
必須			
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☐ フルリモート可	☐ PC貸出可
☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
国内のため記載なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
国内のため記載なし			
■備考・留意点			

**2025年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入**

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	25-4開コ07
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒		募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒ (株)オリエンタルコンサルタンツグローバル			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
<国内>モザンビーク国マプト市都市公共交通改善支援プロジェクト		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
マプト都市圏においては人口増加に伴い増大する都市交通需要やBRTの導入に伴い想定される交通モードの変容等に対応するために、2014年にJICAの支援により策定された都市交通マスタープランの更新が求められている。さらに、伸び続ける自家用車等の私的交通手段の利用に対して、さらなる公共交通サービスの充実が喫緊の課題となっている。これらの実行には、バスやシャバ（乗合バス）、タクシー、通勤鉄道等の民間事業者との連携やそれらに対する規制が欠かせないが、モザンビーク政府やマプト市ではその体制や能力が不足している。本プロジェクトは、このような状況を受けて、都市交通マスタープランの更新と公共バスの運営・サービス及び規制管理に関する能力強化を目的とした技術協力が、モザンビーク政府から要請されたものである。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
プロジェクトで実施した交通調査結果の分析、交通速度情報の収集、プロジェクトで作成したマスタープランに関するダッシュボードや人の移動に関するダッシュボードの更新、それらに関する現地との協議やセミナーの開催準備などを想定していますが、実施時期やプロジェクトの状況により内容が変更になることがあります。 また、マプト市のバス公社に対する、点検維持管理技術や事業経営に関する支援も並行して実施しており、これらの活動についての支援作業に従事いただくことも考えられます。			
■プロジェクトの参考情報			
マプト市都市公共交通改善支援プロジェクト https://www.jica.go.jp/Resource/project/mozambique/016/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
現地渡航は想定しておりません。国内でのインターンシップを想定しております。オンラインで現地との会議に参加して頂く可能性がございます。			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの2-3週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：	可	週3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語力（現地スタッフと打合せが可能なレベル）		
望ましい	交通計画あるいはICTに関する基礎知識		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☒ 一部リモート可	☒ フルリモート可	☐ PC貸出可
☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： 基本的に国内（東京初台の弊社事務所）での勤務を想定しております。			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
国内のため記載なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
国内のため記載なし			
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	25-4開コ08
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	な行	募集人数（人）	2
ドロップダウンリストより選択⇒日本工営㈱			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
＜インドネシア/東南アジア＞バリ海岸保全事業（フェーズ2）		有償資金協力	
■プロジェクト概要			
インドネシア国バリ島では海岸線の30%以上が観光エリアとして利用され、主要産業である観光業にとって海岸域は重要な観光資源である。その一方で各海岸で海岸侵食や海岸管理上の問題が顕在化している。それを受けて、バリ海岸保全事業（フェーズ2）では、バリ島の有名な観光海岸であるCandidasa Beach、Kuta-Legian-Seminyak BeachおよびNusa Dua・Tanjung Benoa Beachの3地区で養浜事業（侵食されている海岸へ人為的に砂を供給し砂浜の復元を図る事業）を実施する。本事業のコンセプトは、これまでインドネシアで実施されてきた“海岸防護事業”とは異なり、1. 土地の保全（防護機能）、2. 観光保全（経済寄与）、3. バリの文化と社会の保全と継承、4. 海岸環境の保全、といった4つの保全を同時に実現することである。また、養浜後の砂浜維持管理が重要であることから、本事業内でインドネシア側による自立した海岸管理の実現化に向けた体制作りとその実施支援を行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・円借款事業として養浜事業を実施中であるCandidasa, Kuta を対象に、工事現場の確認や現場の工程管理、品質管理、安全管理等に補助的に参加することで、施工監理における理解を深める。 ・Candidasa, Kuta-Legian-Seminyakを対象とした波浪観測、地形調査、環境調査等のデータ整理・解析等を行い、海岸業務に必要な調査に関する理解を深める。 ・現地政府、施工業者、関係機関との各種協議に参加し、本事業におけるコンサルタントの役割を理解する。 ・パンフレット、SNS等を利用したプロジェクトの広報活動の補佐を行う。			
■プロジェクトの参考情報			
バリ海岸保全事業（フェーズ1）は円借款事業として初めての大型養浜事業であり、バリ島海岸の砂浜を復元し維持し続けていることが評価され2009年に土木学会賞を受賞した。 ・バリ海岸保全事業（フェーズ1）の参考URL https://www.jica.go.jp/oda/project/IP-475/index.html ・土木学会受賞に関する参考URL https://www.jsce.or.jp/prize/tech/files/2009_15.shtm ・バリ海岸保全事業（フェーズ2）の参考URL https://www.jica.go.jp/oda/project/IP-575/index.html ・Instagramアカウント @bali.beach.project			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
・客先との月例会議 ・コントラクターとの週例会議、安全協議 ・JVコンサルタント会社との週例会議 ・住民、ホテルオーナー、NGO等のステークホルダーとの協議 ・バリ島の事業海岸の視察			
■受入時期・期間			
2025年8月～11月までの間で1ヵ月間程度（2週間からの受入も可）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：長期間の事業であるため調整可能	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	Excel, Word, Powerpointの基本操作ができること		
望ましい	実習に必要な英語能力を有すること（英検2級、TOEIC640点 以上相当）		
必須	バリ島の海岸又は海岸保全事業に興味があること		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☐ フルリモート可	☐ PC貸出可
☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
必須となる予防接種は無し 推奨する予防接種は外務省の下記HPを参照 https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/indonesia.html			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
滞在地域：インドネシア国バリ島デンパサール 治安情報：在デンパサール日本国総領事館の下記HPを参照 https://www.denpasar.id.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html 渡航にかかる標準経路：成田→デンパサール（直行便）			
■備考・留意点			
Student Company Internship (Single Visa C22B) (180日間有効の企業インターンシップビザ)の取得が必須。取得日数は1週間程度の見込みだが、早めの手続きを推奨。金額はIDR6,000,000.（約6万円）-。 ※2024年時点の情報で、変更となる場合があります。			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	25-4開コ09
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	な行	募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒ 日本工営(株)			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
＜バングラデシュ/南アジア＞ダッカ都市交通整備事業（5号線北路線）		有償資金協力	
■プロジェクト概要			
本プロジェクトは、急速な都市化と交通量の増加による交通渋滞と環境の悪化に直面する首都ダッカにおいて、東西に接続する都市高速鉄道（MRT5 号線北路線）を建設し、公共交通網のネットワークを形成することにより、ダッカ都市圏の輸送需要への対応を図り、もって経済の発展及び都市環境の改善に寄与するものである。路線は全長約20kmで高架区間（5駅：約6km）および地下区間（9駅：14km）で構成される。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・現地カウンターパート（ダッカ都市交通会社）との会議への参加 ・土木工事における施工監理業務補佐 ・FIDIC契約に基づく工事契約監理補佐			
詳細な内容については上記に拘わらずインターン生の興味・専攻に合わせてフレキシブルに対応可能です。			
■プロジェクトの参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年8月～11月までの1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☐ フルリモート可	☐ PC貸出可
☐ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000 円/日		11,580円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
A型肝炎、破傷風			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
・局所的にデモ等が発生しているが、勤務オフィスもしくは宿泊エリア付近は比較的安全である。 ・成田ーダッカの直行便（ビーマンバングラデシュ航空）が週2便運行。			
■備考・留意点			

**2025年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入**

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	25-4開コ10
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒		募集人数（人）	1
は行 ドロップダウンリストより選択⇒ (株)パデコ			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
<ルワンダ/アフリカ>ICTを活用した初等理数科学びの改善プロジェクト（第3期）		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
本プロジェクトは、ルワンダの初等理数科教育の質を向上させることを目的としている。ルワンダ政府は教育の質向上とICT活用を重点分野として掲げており、特に教員の職能開発（CPD）とICTを活用した指導の改善が喫緊の課題とされている。 本プロジェクトは、教育省および教育庁と連携し、教員養成校の理数科教育を強化することで、初等理数科教育の質向上に寄与する。具体的には、ICTを活用したインタラクティブ教材の開発、教員養成校におけるデジタル教育資源の活用促進、指導法改善のためのCPD活動支援を実施する。 プロジェクトでは、e-learningプラットフォームの活用を含むICT導入の効果的な実践を支援し、教員養成校の指導員および生徒（将来の教員）がICTを活用した指導技術を習得できるようにする。さらに、教育実習の質向上を図るため、教員養成校と附属小学校を連携させ、実践的な教育の場を提供する。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・学校モニタリング：教員養成校や附属校にてインタビューの実施補助、CPD活動の実施状況や課題の整理、インタビュー内容の記録・要約・分析 ・ワークショップの活動支援：指導員向けワークショップの準備・運営補助、ワークショップ中の記録・参加者の意見収集、ワークショップのフィードバック整理と報告書作成補助 ・広報活動：活動内容をプロジェクトのSNSで発信			
■プロジェクトの参考情報			
https://x.com/Rwanda_PRISM/ https://www.facebook.com/profile.php?id=100077125008883			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
学校モニタリング、ワークショップ			
■受入時期・期間			
2025年8～11月の1カ月程度/2026年1～3月中旬の1カ月程度のいずれか		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：8月、1月にワークショップ実施、ワークショップ後は学校モニタリング	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	探究心、提案力		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☐ フルリモート可	☐ PC貸出可
☒ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
5,000円/日		7,500円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
必須の予防接種はなし。 推奨される予防接種：A型肝炎、B型肝炎、（生活環境次第で、腸チフス、狂犬病、破傷風）、黄熱			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
・滞在先：プロジェクト指定の宿泊施設 ・治安状況：基本的には安定しているが、一部地域では外務省の渡航情報を確認し、適切な行動をとることが求められる ・渡航経路：日本→ドーハ/アディスアベバ/イスタンブール→キガリ			
■備考・留意点			

2025年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	25-4開コ11
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	ま行_わ行	募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒	八千代エンジニアリング(株)		
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
＜インドネシア/東南アジア＞洪水制御セクター・ローン（フェーズ2）		有償資金協力	
■プロジェクト概要			
本事業は、洪水被害に脆弱なインドネシアの地方都市において、洪水制御インフラの整備、河川流域管理事務所の組織能力強化、住民意識の向上により、対象地域の洪水被害軽減及び中期的な洪水リスクへの対応能力向上を図り、もって居住環境及び経済基盤の改善に寄与することを目的とし、現在工事が進められています。 2024年3月11日に西スマトラ州で洪水被害が発生しました。これを受け、本プロジェクトの追加業務として、この洪水被害を解消するための方策を検討し、必要な構造物の詳細設計を実施しています。対象は、バイパス道路(30km)沿いの浸水被害を解消するための方策および構造物（排水路や護岸など）、及び市内排水施設の合流点処理検討および構造物（護岸、樋管およびポンプなど）16箇所です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・対象地域における水文・地形データの整理 ・水文・水理・不等流計算補助 ・洪水対策案の設計補助 ・関係機関説明資料作成補助 ・その他、弊社がインドネシア国防災分野で実施中の案件における各種補助活動等（備考欄参照）			
■プロジェクトの参考情報			
ODA見える化サイト< https://www.jica.go.jp/oda/project/IP-582/index.html >			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
プロジェクトチームによるチーム会議、実施機関との会議、再委託先との協議			
■受入時期・期間			
2025年8月～10月までの2週間～1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	河川、防災分野に関連する学位および資格を有していること。		
■提供可能な執務環境等			
☒ 完全対面形式	☐ 一部リモート可	☐ フルリモート可	☐ PC貸出可
☐ 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000円/日		8,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
特に無し			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
渡航経路は、ジャカルタ直行便想定。 現地では単独行動を控え、安全に留意して活動すること。			
■備考・留意点			
標題案件他、弊社がインドネシア国防災分野で実施中の下記案件での活動も一部含まれる可能性がある。 ・インドネシア国洪水対策マスタープランプロジェクト			
Student Company Internship (Single Visa C22B) (180日間有効の企業インターンシップビザ)の取得が必須。取得日数は1週間程度の見込みだが、早めの手続きを推奨。金額はIDR6,000,000. (約6万円) -。 ※2024年時点の情報で、変更となる場合があります。			